福岡市埋蔵文化財調査報告書第1257集

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書　7

岸田遺跡　2

－第1次調査2～5区の報告－

２０１５

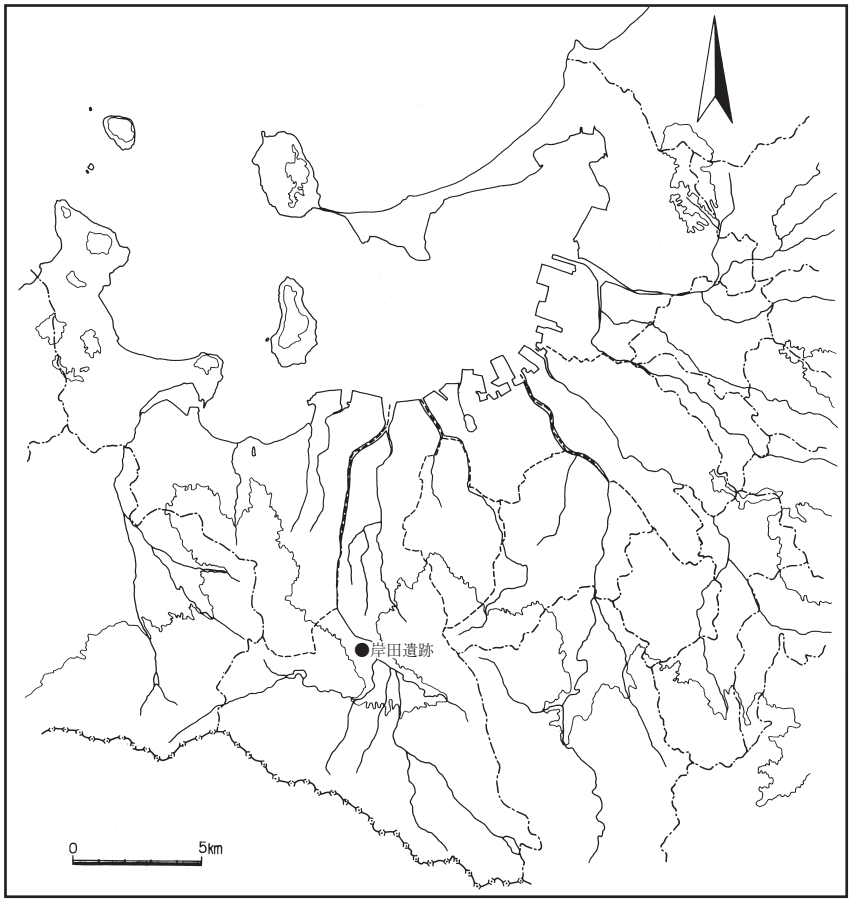
福 岡 市 教 育 委 員 会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1257集

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書　7

岸田（きしだ）遺跡　2

－第1次調査2～5区の報告－



遺跡略号　KID
調査番号　0930

２０１５

福 岡 市 教 育 委 員 会

埋葬遺構出土青銅器・鉄器

序

玄界灘に面して広がる福岡市には豊かな歴史と自然が残されており、これを後世に伝えていくことは現代に生きる我々の重要な努めであります。

福岡市教育委員会では開発事業に伴い、やむをえず失われていく埋蔵文化財については事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

今回、長峰地区土地改良事業を行うに当たり、松木田遺跡・内野熊山遺跡・岸田遺跡・長峰谷口Ｂ遺跡の発掘調査をおこない、多くの貴重な成果をあげることができました。

本書は岸田遺跡の報告となりますが、本年度が本事業にかかる調査報告書作成の最終年度となっております。

本書が文化財保護へのご理解と認識を深める一助となり、また研究資料としても活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまで、福岡市長峰土地改良区の皆様をはじめとした地域の皆様、そして関係各位のご理解を賜り、多大なるご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成27年3月25日
福岡市教育委員会
教育長　酒井　龍彦

例　言

1. 本書は福岡市教育委員会が、長峰地区土地改良事業に伴い、平成21～23年度に早良区早良地内において実施した発掘調査のうち、岸田遺跡第1次調査2～5区の発掘調査報告書である。1区の調査については『岸田遺跡』1（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1256集）で報告している。
2. 遺構の実測は長家伸、大塚紀宜、板倉有大、松尾奈緒子、名取さつき、坂口剛毅、朝岡俊也が行った。
3. 遺物の実測は長家、常松幹雄、大塚、細石朋希、撫養久美子、井上加代子、大庭友子、山口朱美が行った。
4. 製図は長家、常松、撫養、井上、大庭、山口、名取、坂口が行った。
5. 写真は長家が撮影した。空中写真は（有）空中写真企画、巻頭の遺物写真は岡紀久夫（（有）文化財写真工房）が撮影した。
6. 本書で用いる方位は磁北であり、座標北から6°西偏し、真北から6°18′西偏する。なお座標は特に断らない限り世界測地系を使用している。
7. 本書で用いる遺構番号はには遺構の性格を示す略号を付して表記している。略号は掘立柱建物（SB）、竪穴住居跡（SC）、溝・旧河川（SD）、土坑（SK）、土坑墓・木棺墓（SR）、甕棺墓（K）、ピット（SP）、包含層・その他（SX）である。
8. 本書に関わる図面・写真・遺物等の全資料は福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・保管されるので、活用いただきたい。
9. 本書の執筆は長家、田上勇一郎が行い、編集は長家が行った。

岸田遺跡第1次調査

遺跡調査番号	0930	遺跡略号	KID－1
所在地	早良区早良4丁目地内	分布地図番号	S16―0788
開発総面積	19ha	調査面積	5,775㎡
調査期間	平成21年10月27日～平成22年10月19日	事前審査番号	19－1－38

本文目次

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
1　調査にいたる経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　調査体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
3　各調査地点概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
4　調査地点の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
Ⅱ　岸田遺跡第1次調査の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
1　第1次調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
2　1区の調査概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
3　2区の調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
1）概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
2）遺構と遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
(1) 掘立柱建物（SB）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
(2) 竪穴住居跡（SC）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
(3) 土坑（SK）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37
(4) ピット（SP）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37
(5) その他の出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40
4　3区の調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
1）概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
2）遺構と遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
(1) 竪穴住居跡（SC）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
(2) 土坑（SK）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43
(3) その他の遺構（SX）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
(4) その他の出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50
5　4区の調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
1）概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
2）遺構と遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
(1) 掘立柱建物（SB）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
(2) 竪穴住居跡（SC）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
(3) 溝（SD）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　65
(4) 土坑（SK）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　65
(5) 土坑墓・木棺墓（SR）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　75
(6) 甕棺墓（K）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　86
(7) ピット出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　154
(8) その他の出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　154
6　5区の調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　158
1）概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　158
2）遺構と遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　161
(1) 掘立柱建物（SB）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　161
(2) 竪穴住居跡（SC）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　163
(3) 土坑（SK）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　163
(4) ピット出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　164
(5) その他の出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　165
7　小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　169
付編　岸田遺跡第1次調査出土赤色顔料の調査（田上勇一郎）　・・・・・・・・・・・・・　171

挿図目次

第 1図　調査区位置図（1／75,000）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
第 2図　事業地内調査区位置図1（1／3,000）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　折込1
第 3図　事業地内調査区位置図2（1／3,000）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　折込2
第 4図　調査区区分図（1／1,000）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
第 5図　調査区全体図（1／600）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
第 6図　調査区横断面図（1／200）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
第 7図　1区上面全体図（1／400）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
第 8図　1区下面全体図（1／400）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
第 9図　2区上面・下面全体図（1／400）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
第10図　2区南壁土層図（1／60）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
第11図　SB0206実測図（1／60）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
第12図　SB0206出土遺物実測図（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
第13図　SC0201実測図（1／60）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
第14図　SC0201出土遺物実測図1（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
第15図　SC0201出土遺物実測図2（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
第16図　SC0201出土遺物実測図3（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
第17図　SC0201出土遺物実測図4（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
第18図　SC0201出土遺物実測図5（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
第19図　SC0201出土遺物実測図6（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
第20図　SC0201出土遺物実測図7（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
第21図　SC0201出土遺物実測図8（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
第22図　SC0201出土遺物実測図9（1／1、1／2）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
第23図　SC0202及び出土遺物実測図（1／60、1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・　30
第24図　SC0203及び出土遺物実測図1（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
第25図　SC0203出土遺物実測図2（1／1、1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
第26図　SC0204及び出土遺物実測図1（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
第27図　SC0204出土遺物実測図2（1／1、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
第28図　SC0205及び出土遺物実測図（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35
第29図　SC0207・0208及び出土遺物実測図（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・　36
第30図　SK0209・0210・0211及び出土遺物実測図（1／40、1／3）　・・・・・・・・・・・・　38
第31図　SP2094及び出土遺物実測図（1／20、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39
第32図　その他の出土遺物実測図（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40
第33図　3区全体図（1／400）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
第34図　SC0301及び出土遺物実測図（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　42
第35図　SC0302・0309及びSC0302出土遺物実測図1（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・　44
第36図　SC0302出土遺物実測図2（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　45
第37図　SC0302出土遺物実測図3（1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46
第38図　SK0303・0304及び出土遺物実測図（1／40、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・　47
第39図　SK0306及び出土遺物実測図（1／30、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
第40図　SX0307・0308土層図（1／60）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
第41図　SX0307・0308出土遺物実測図（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50
第42図　遺構検出面出土遺物実測図（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50
第43図　4区全体図（1／400）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
第44図　4区遺構配置図（1／400）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　53
第45図　SB0491及び出土遺物実測図（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54
第46図　SC0405実測図（1／60）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　55
第47図　SC0426及び出土遺物実測図（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56
第48図　SC0453実測図（1／60）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　57

第49図　SC0453出土遺物実測図（1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第50図　SC0483実測図（1／60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第51図　SC0483出土遺物実測図（1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第52図　SC0484・0485及び出土遺物実測図（1／60、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・ 61
第53図　SC0486及び出土遺物実測図（1／60、1／2、1／3、1／6）　・・・・・・・・・・・ 62
第54図　SC0495・SD0436及び出土遺物実測図（1／40、1／60、1／3）・・・・・・・・・・ 63
第55図　SK0406及び出土遺物実測図（1／40、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第56図　SK0421・0435・0438及び出土遺物実測図（1／40、1／3）・・・・・・・・・・・・ 65
第57図　SK0439・0440及び出土遺物実測図（1／40、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・ 66
第58図　SK0444実測図（1／40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第59図　SK0444出土遺物実測図1（1／3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第60図　SK0444出土遺物実測図2（1／3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
第61図　SK0445・0446実測図（1／40、1／60）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第62図　SK0454及び出土遺物実測図（1／40、1／1、1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・ 71
第63図　SK0487・0488及び出土遺物実測図（1／40、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・ 72
第64図　SK0489・0490及び出土遺物実測図（1／40、1／60、1／2、1／3）　・・・・・・・ 74
第65図　SK0497及び出土遺物実測図1（1／40、1／3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第66図　SK4168・4170・4912・4913及び出土遺物実測図（1／40、1／2、1／3）　・・・・ 76
第67図　土坑墓・木棺墓・甕棺墓配置図（1／400）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第68図　SR0425及び出土遺物実測図（1／30、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第69図　SR0431及び出土遺物実測図（1／30、1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・ 79
第70図　SR0437及び出土遺物実測図1（1／30、1／3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第71図　SR0437出土遺物実測図2（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
第72図　SR0475実測図（1／30）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
第73図　SR0475出土遺物実測図（1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第74図　SR0498・4910実測図（1／30）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第75図　SR4911・4917及び出土遺物実測図（1／30、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・ 85
第76図　K0401・0402・0403・0404及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・ 87
第77図　K0407・0408及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 88
第78図　K0409・0410及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 90
第79図　K0411・0412・0413及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・ 91
第80図　K0414・0415及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 93
第81図　K0416・0417・0418及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・ 94
第82図　K0419・0420及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 95
第83図　K0422・0423及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 96
第84図　K0424・0427及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 98
第85図　K0428及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
第86図　K0429・0430及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 100
第87図　K0432及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
第88図　K0433・0434及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 102
第89図　K0441及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
第90図　K0442・0443配置図（1／80）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
第91図　K0442及び出土遺物実測図（1／20、1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第92図　K0443実測図（1／30）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第93図　K0443土層図及び出土遺物実測図1（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第94図　K0443出土遺物実測図2（1／2）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第95図　K0447・0448・0449・0450・0451及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・ 110
第96図　K0452・0455・0457及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・ 112
第97図　K0458・0459実測図（1／30）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
第98図　K0458・0459出土遺物実測図（1／12）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114

第 99図　K0460・0461・0462及び出土遺物実測図（1／30、1／2、1／12）・・・・・・・・ 115
第100図　K0463・0464及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・ 116
第101図　K0465・0466・0467及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・ 118
第102図　K0468及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
第103図　K0469・0470実測図（1／30）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
第104図　K0469・0470出土遺物実測図（1／2、1／3、1／6、1／12）・・・・・・・・・・・ 121
第105図　K0471実測図（1／30）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
第106図　K0471出土遺物実測図1（1／3、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
第107図　K0471出土遺物実測図2（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
第108図　K0473及び出土遺物実測図1（1／30、1／3、1／12）・・・・・・・・・・・・・・ 126
第109図　K0473出土遺物実測図2（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
第110図　K0473出土遺物実測図3（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
第111図　K0473出土遺物実測図4（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
第112図　K0474及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
第113図　K0477・0478実測図（1／30）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
第114図　K0477・0478出土遺物実測図（1／6、1／12）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
第115図　K0477・0478墓坑（SK0476）出土遺物実測図（1／1、1／3）・・・・・・・・・・ 133
第116図　K0480及び出土遺物実測図（1／30、1／3、1／12）・・・・・・・・・・・・・・ 134
第117図　K0481及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
第118図　K0482及び玉類出土状況実測図（1／30、1／5）　・・・・・・・・・・・・・・・ 136
第119図　K0482出土遺物実測図1（1／1、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
第120図　K0482出土遺物実測図2（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
第121図　K0482出土遺物実測図3（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第122図　K0492・0493・0494及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・ 140
第123図　K0496及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
第124図　K0499及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143
第125図　K4901・4902・4903・4904及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・ 144
第126図　K4905・4906及び出土遺物実測図（1／30、1／1、1／12）　・・・・・・・・・・ 145
第127図　K4907・4908・4909及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・ 146
第128図　K4914・4915及び出土遺物実測図（1／30、1／12）　・・・・・・・・・・・・・ 148
第129図　K0473・K0474・K4916・SR0475墓坑及び出土遺物実測図（1／40、1／3）　・・ 149
第130図　K4916実測図（1／30）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
第131図　K4916出土遺物実測図1（1／12）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
第132図　K4916出土遺物実測図2（1／2、1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152
第133図　K4916出土遺物実測図3（1／2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
第134図　K4918及び出土遺物実測図（1／30、1／12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
第135図　その他の出土遺物実測図1（1／2、1／3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 155
第136図　その他の出土遺物実測図2（1／6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
第137図　5区全体図（1／400）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
第138図　SB0502実測図（1／20、1／50）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 折込3
第139図　SB0502出土遺物実測図1（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
第140図　SB0502出土遺物実測図2（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
第141図　SB0502出土遺物実測図3（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
第142図　SC0503及び出土遺物実測図（1／50、1／2、1／3）・・・・・・・・・・・・・・ 162
第143図　SK0504及び出土遺物実測図（1／40、1／3）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 164
第144図　SK0505・0506及び出土遺物実測図（1／40、1／3）　・・・・・・・・・・・・・ 165
第145図　5区遺構配置図（1／200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
第146図　その他の出土遺物1（1／2、1／3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
第147図　その他の出土遺物2（1／3）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168
付図　　岸田遺跡第1次調査全体図（1／300）

写真目次

巻頭写真　埋葬遺構出土青銅器・鉄器
写真 1　調査区付近より北側を望む（平成24年4月撮影）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
写真 2　調査区付近より南側を望む（平成21年5月撮影）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
写真 3　土地改良事業前（平成21年5月撮影）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
写真 4　土地改良事業後（平成24年4月撮影）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
写真 5　松木田遺跡第4次調査1区全景（上空から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
写真 6　松木田遺跡第4次調査2区遠景（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
写真 7　松木田遺跡第4次調査5区全景（上空から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
写真 8　内野熊山遺跡第1次調査1区全景（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
写真 9　内野熊山遺跡第1次調査2区調査状況（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
写真10　長峰谷口Ｂ遺跡第1次調査全景（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
写真11　1～3区全景（上空から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
写真12　1区下面全景（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
写真13　1・2区全景（上空から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
写真14　1区遠景（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
写真15　1区調査前状況（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
写真16　1区調査状況（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
写真17　1区南側土層（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
写真18　1区大型住居（上空から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
写真19　1・2区西半全景（上空から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175
写真20　2区下面全景（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175
写真21　2区上面西端（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176
写真22　2区下面西端（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176
写真23　2区南壁土層（西側）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
写真24　2区南壁土層（東側）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
写真25　SB0206（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
写真26　SC0201（上空から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
写真27　SC0201（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
写真28　SC0201（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
写真29　SC0201土層（北西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
写真30　SC0201出土状況1（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
写真31　SC0201出土状況2（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
写真32　SC0201出土状況3（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
写真33　SC0201出土状況4（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
写真34　SC0201出土状況5（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
写真35　SC0202（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
写真36　SC0202・0207土層（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
写真37　SC0202出土状況1（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
写真38　SC0202出土状況2（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
写真39　SC0202出土状況3（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
写真40　SC0203（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
写真41　SC0204・0205（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
写真42　SC0204・0205（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
写真43　SC0204出土状況（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
写真44　SC0207･0208（北東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
写真45　SC0207（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
写真46　SC0207（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
写真47　SC0208（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181

写真48　SK0209（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
写真49　SK0210（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
写真50　SK0211（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
写真51　SP2094（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
写真52　SP2094（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
写真53　1～3区遠景（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
写真54　3区全景（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
写真55　3区東半全景（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
写真56　3区西半全景（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
写真57　3区作業状況（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
写真58　SC0301（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
写真59　SC0301（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
写真60　SC0302・0309（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
写真61　SC0302・0309（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
写真62　SC0302作業状況（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
写真63　SC0302（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
写真64　SC0302出土状況（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
写真65　SC0302出土状況（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
写真66　SC0302出土状況（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
写真67　SK0303（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
写真68　SK0304（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
写真69　SK0306完掘状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
写真70　SK0306石材出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
写真71　SX0307（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
写真72　SX0308（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
写真73　4区遠景（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 186
写真74　4区遠景（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 186
写真75　4区全景（上空から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 187
写真76　4区全景（上空から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 187
写真77　4区全景（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 188
写真78　4区東側斜面（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 188
写真79　4区南西部全景（上空から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 189
写真80　4区北端部全景（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 189
写真81　4・5区遠景（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
写真82　4区東側斜面（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
写真83　4区調査前状況（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
写真84　4区作業状況（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
写真85　4区作業状況（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
写真86　4区作業状況（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
写真87　4区東側斜面台地堆積状況（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
写真88　SB0491（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
写真89　SC0405（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
写真90　SC0426（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
写真91　SC0453（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
写真92　SC0453出土状況（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
写真93　SC0483（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 192
写真94　SC0484・0485（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 192
写真95　SC0484（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 192
写真96　SC0485（東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 192
写真97　SC0486（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 192

写真 98　SC0486・SK0488（北から）　…………………………… 192
写真 99　SC0486（南から）　………………………………… 193
写真100　SC0495（南から）　………………………………… 193
写真101　SD0436周辺（北西から）　…………………………… 193
写真102　SD0436（西から）　………………………………… 193
写真103　SD0436（北東から）　……………………………… 193
写真104　SD0436土層（西から）　…………………………… 193
写真105　SK0406（北から）　………………………………… 194
写真106　SK0406土層（東から）　…………………………… 194
写真107　SK0421（東から）　………………………………… 194
写真108　SK0435（西から）　………………………………… 194
写真109　SK0435（南から）　………………………………… 194
写真110　SK0438（東から）　………………………………… 194
写真111　SK0438土層（南から）　…………………………… 195
写真112　SK0439（東から）　………………………………… 195
写真113　SK0440（北から）　………………………………… 195
写真114　SK0440土層（北から）　…………………………… 195
写真115　SK0444（北から）　………………………………… 195
写真116　SK0444土層（西から）　…………………………… 195
写真117　SK0445（東から）　………………………………… 196
写真118　SK0446（南から）　………………………………… 196
写真119　SK0446（南東から）　……………………………… 196
写真120　SK0454（北から）　………………………………… 196
写真121　SK0454出土状況（東から）　………………………… 196
写真122　SK0487（西から）　………………………………… 196
写真123　SK0488（南から）　………………………………… 197
写真124　SK0490（南西から）　……………………………… 197
写真125　SK0490土層（西から）　…………………………… 197
写真126　SK0497（南から）　………………………………… 197
写真127　SK4912（北から）　………………………………… 197
写真128　SK4912土層（西から）　…………………………… 197
写真129　SR0425（西から）　………………………………… 198
写真130　SR0425（北から）　………………………………… 198
写真131　SR0425土層（東から）　…………………………… 198
写真132　SR0431（西から）　………………………………… 198
写真133　SR0431（北から）　………………………………… 198
写真134　SR0431土層（北から）　…………………………… 198
写真135　SR0437土層（北から）　…………………………… 199
写真136　SR0437副葬品出土状況（北から）　………………… 199
写真137　SR0437作業状況（西から）　………………………… 199
写真138　SR0437副葬品出土状況（北西から）　……………… 199
写真139　SR0437（北東から）　……………………………… 199
写真140　SR0437副葬品出土状況（北東から）　……………… 199
写真141　SR0437（北から）　………………………………… 200
写真142　SR0437（西から）　………………………………… 200
写真143　SR0437銅剣取り上げ状況（南から）　……………… 200
写真144　SR0475（西から）　………………………………… 200
写真145　SR0475木棺痕跡（西から）　………………………… 200
写真146　SR0475（南から）　………………………………… 200
写真147　SR0475土層（南から）　…………………………… 201

写真148　SR0498（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
写真149　SR4910（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
写真150　SR4910土層（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
写真151　SR4911（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
写真152　SR4917（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
写真153　埋葬遺構群北群（上空東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 202
写真154　埋葬遺構群北群（上空西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 202
写真155　K0401（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
写真156　K0402（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
写真157　K0403（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
写真158　K0404（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
写真159　K0407（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
写真160　K0408（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
写真161　K0408（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
写真162　K0408人骨出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
写真163　K0409・0410（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
写真164　K0409（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
写真165　K0410（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
写真166　K0411（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
写真167　K0412～0414・0416（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
写真168　K0412（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
写真169　K0413（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
写真170　K0414（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
写真171　K0415・0428（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
写真172　K0415・0428（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
写真173　K0415（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
写真174　K0416（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
写真175　K0417（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
写真176　K0418（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
写真177　K0419（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
写真178　K0420（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
写真179　K0422（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
写真180　K0423（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
写真181　K0424（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
写真182　K0427（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
写真183　K0428（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
写真184　K0428（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
写真185　K0429・0430（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
写真186　K0432（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
写真187　K0432（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
写真188　K0433・0434（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
写真189　K0433（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
写真190　K0434（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
写真191　K0441（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
写真192　K0442（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
写真193　K0442（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
写真194　K0442（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
写真195　K0442人骨出土状況（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
写真196　K0442・0443（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
写真197　K0442・0443（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210

写真198　K0443（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
写真199　K0443（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
写真200　K0443土層（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
写真201　K0443 1～12層除去後（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
写真202　K0443出土時甕棺内部（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
写真203　K0443清掃前下甕内部（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
写真204　K0443上甕赤色顔料（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
写真205　K0443甕棺清掃後（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
写真206　K0443鉄戈出土状況（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
写真207　K0447（北東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
写真208　K4901（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
写真209　埋葬遺構群南群（上空東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 212
写真210　埋葬遺構群南群中央部（上空西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 212
写真211　埋葬遺構群南群（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
写真212　埋葬遺構群南群（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
写真213　4区埋葬遺構掘削状況（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
写真214　K0448（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
写真215　K0449（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
写真216　K0450（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
写真217　K0451（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
写真218　K0452（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
写真219　K0455（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
写真220　K0457（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
写真221　K0457（北東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
写真222　K0458・0459（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
写真223　K0458（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
写真224　K0458人骨出土状況（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
写真225　K0459（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
写真226　K0460（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
写真227　K0461（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
写真228　K0462（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
写真229　K0463（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
写真230　K0464（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
写真231　K0465（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
写真232　K0466（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
写真233　K0467（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
写真234　K0468（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
写真235　K0469・0470（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
写真236　K0469（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
写真237　K0470（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
写真238　K0471（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
写真239　K0471（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
写真240　K0471（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
写真241　K0471副葬品出土状況（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
写真242　K0471副葬品出土状況（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
写真243　K0471副葬品出土状況（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
写真244　K0471副葬品出土状況（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
写真245　K0473（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
写真246　K0473（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
写真247　K0473（北東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219

写真248　K0473副葬品出土状況（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
写真249　K0473副葬品出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
写真250　K0473副葬品出土状況（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
写真251　K0473副葬品出土状況（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
写真252　K0474（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
写真253　K0474（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220
写真254　K0477・0478（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220
写真255　K0477・0478（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220
写真256　K0477・0478（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220
写真257　K0477・0478墓坑（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220
写真258　K0482周辺墓群（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220
写真259　K0482周辺墓群　手前がK0494（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
写真260　K0482周辺墓群（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
写真261　K0482周辺墓群完掘後（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
写真262　K0480（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
写真263　K0481（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
写真264　K0482（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
写真265　K0482玉類出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
写真266　K0482副葬品出土状況：清掃前（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
写真267　K0482（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
写真268　K0482（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
写真269　K0482副葬品出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
写真270　K0482副葬品出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
写真271　K0482副葬品出土状況（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
写真272　K0492（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
写真273　K0493（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
写真274　K0496・SK0497（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
写真275　K0496・SK0497（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
写真276　K0496（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
写真277　K0496完掘後（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
写真278　K0499（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
写真279　K0499（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
写真280　K4914（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
写真281　K4915（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
写真282　K4915（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
写真283　K4915（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
写真284　K4916（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
写真285　K4916（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
写真286　K4916墓坑内甕出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
写真287　K4916副葬品出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
写真288　K4916副葬品出土状況（南西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
写真289　K4916副葬品出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
写真290　K4916副葬品出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
写真291　K4916副葬品出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
写真292　施工時K4918露出状況（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
写真293　K4918掘削状況（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
写真294　K4918（南東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
写真295　埋葬遺構群北端群（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 227
写真296　K4902（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 227
写真297　K4903（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 227

写真298　K4904（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
写真299　K4905（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
写真300　K4906（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
写真301　K4907（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
写真302　K4908（北西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
写真303　K4909（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
写真304　5区上面全景（上空東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 229
写真305　5区下面全景（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 229
写真306　SB0502（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
写真307　SP5331（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
写真308　SP5132（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
写真309　SP5133（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
写真310　SP5133遺物番号578出土状況（西から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
写真311　SP5135（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
写真312　SC0503（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
写真313　SC0503遺物番号600出土状況（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
写真314　SK0504（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
写真315　SK0505（北から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
写真316　SK0506（東から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
写真317　SK0506土層（南から）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
写真318　出土遺物1　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 232
写真319　出土遺物2　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 233
写真320　出土遺物3　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 234
写真321　出土遺物4　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 235
写真322　出土遺物5　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 236
写真323　出土遺物6　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 237
写真324　出土遺物7　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 238
写真325　出土遺物8　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 239
写真326　出土遺物9　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 240
写真327　出土遺物10　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241
写真328　出土遺物11　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 242
写真329　出土遺物12　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243
写真330　出土遺物13　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
写真331　出土遺物14　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
写真332　出土遺物15　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 246
写真333　出土遺物16　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247
写真334　出土遺物17　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 248
写真335　出土遺物18　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 249
写真336　出土遺物19　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 250
写真337　出土遺物20　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 251
写真338　出土遺物21　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 252
写真339　出土遺物22　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 253
写真340　出土遺物23　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 254
写真341　出土遺物24　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 255
写真342　出土遺物25　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 256
写真343　出土遺物26　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 257
写真344　出土遺物27　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 258
写真345　出土遺物28　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 259
写真346　出土遺物29　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 260
写真347　出土遺物30　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 261

写真348　出土遺物31　・・262
写真349　出土遺物32　・・263
写真350　出土遺物33　・・264
写真351　出土遺物34　・・265
写真352　出土遺物35　・・266
写真353　出土遺物36　・・267
写真354　出土遺物37　・・268
写真355　出土遺物38　・・269
写真356　出土遺物39　・・270

表目次

表1　発掘調査地点一覧　・・2
表2　1区検出の竪穴住居跡一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
表3　土坑墓・木棺墓一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
表4　甕棺墓一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156・157

Ⅰ　はじめに

1　調査にいたる経過

平成19年7月23日付け、農計第387号により、福岡市農林水産局農林部農地計画課長より埋蔵文化財第1課長宛に、早良区早良2～5丁目地内における、長峰地区基盤整備促進事業にかかる「埋蔵文化財の事前審査について（依頼）」が提出された（事前審査番号19－1－38）。当該事業は平成21年度～23年度の3ヵ年にわたって、長峰地区の耕地19.0haにおいて圃場整備事業を行うものである。計画地域内には周知の埋蔵文化財包蔵地として、松木田遺跡・岸田遺跡・下兵庫遺跡・内野熊山遺跡が存在しており、書類審査を行った埋蔵文化財第1課では、計画地域全体を対象として試掘調査が必要な旨を回答した（平成19年7月24日、教埋1第1260号）。この後埋蔵文化財第1課、農地計画課および、施工主体である長峰土地改良区によって協議が重ねられた。その結果平成19年8月7日付けで、長峰土地改良区理事長名で教育長山田裕嗣あてに埋蔵文化財予備調査承諾書が提出された。これを受けて埋蔵文化財第1課では平成19年8月28日～平成20年４月22日の期間で全面を対象とした試掘調査を行った。試掘調査は地権者と協議の上、耕作の行われていない田面から随時行うこととし、一部の調査不能であった田面を除いて、計画地全体に設定した。試掘トレンチの総数は321本であるが、調査後に再度耕作をするため、各トレンチは幅1m、長さ2～5mの小規模なものとなっている。この試掘調査の結果、計画地の北東側は室見川の氾濫原となり、遺構は確認されなかったが、西～南側の段丘面上を中心として濃密な遺構群が展開していることを確認した。この結果を平成20年6月4日付け、教埋1第633号で農地計画課長宛に「埋蔵文化財の事前調査について（回答）」で回答した。この回答に伴う協議で、事業実施に当たっては、工事によって埋蔵文化財の破壊が避けられない地区および施工後の保護盛土が20cm以下もしくは2m以上となる地区については発掘調査を行い、記録保存を図る必要がある旨を伝え、試掘調査結果と事業計画のすりあわせを行い、発掘調査が必要な地区と現状保存が可能な地区を明確化する作業を行うこととした。この結果、平成21年度～23年度の施工計画にあわせ、各年度4月から調査対象地について発掘調査を行うこととし、当該年度の調査地点が終了後は、次年度の要調査地点についても、地権者の了解が得られる田面について継続して発掘調査を行うこととした。また、調査中においても計画高の見直しを行い、積極的に遺構の保存を図ることとした。なお、1地点で遺構を認めていた下兵庫遺跡においては、本調査前の再試掘の結果、遺構がないことを最終的に確認している。

以上の協議を行ったうえで、平成21（2009）年4月15日～平成22（2010）年10月7日の期間で松木田遺跡第４次調査（遺跡略号：MKD－4、調査番号：0905）、平成21（2009）年10月27日～平成22（2010）年10月19日で岸田遺跡第1次調査（遺跡略号：KID－1、調査番号：0930）、平成22（2010）年9月16日～平成23（2011）１月25日で内野熊山遺跡第1次調査（遺跡略号UKY－1、調査番号：1025）、平成23（2011）年7月4日～平成23（2011）8月19日で長峰谷口B遺跡第1次調査（遺跡略号：NGB－1、調査番号：1111）の調査を行った。調査に当たっての測量作業は、事業に伴い設置された4級基準点をもとに行った。整理作業は調査と並行して行い、調査報告書は平成24年度から本年度までの3ヶ年で刊行予定である。

なお、発掘調査・整理作業は、一部国庫補助の適用を受けて実施した。

2　調査体制

事業主体　長峰土地改良区
調査主体　福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課
整理主体　福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課
調査総括　現埋蔵文化財調査課長　濱石哲也（平成21年度）・田中壽夫（平成22・23年度）
宮井善朗（平成24・25年度）・常松幹雄（平成26年度）
事前審査　現埋蔵文化財審査課事前審査係　吉留秀敏・星野恵美（平成19～20年度）
阿部泰之（平成21年度）
調査庶務　現埋蔵文化財審査課管理係　古賀とも子（平成21～24年度）
横田忍（平成25・26年度）
調査担当　現埋蔵文化財調査課　長家伸・加藤隆也・大塚紀宜・阿部泰之・松尾奈緒子
なお、文化財部は組織改編のため平成24年4月1日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。

3　各調査地点概要

発掘調査は施工計画にあわせて平成21～23年度にわたって行った。なお、松木田遺跡第4次調査1区については上面遺構面のみ調査を行い、下層の縄文時代包含層は現状保存を図っている。

調査名（遺跡略号・調査番号）	期間（調査総面積・コンテナ総数）	区	調査面積（㎡）	コンテナ数	概要	報告書刊行予定年度
松木田遺跡第４次（MKD－４・0905）	平成21年4月15日～平成22年10月7日（5,626㎡・365箱）	１区	1,311	70	縄文時代早期撚糸文土器の包含層を確認した。そのほか弥生時代中期～中世前半の遺構・遺物を検出し、弥生時代中期～古墳時代前期の掘立柱建物、竪穴住居跡、土坑等による生活遺構が主体を占める。**調査は上面の遺構面のみとし、下層の縄文時代包含層については現状保存としている。**	平成 24 年度（1204 集）
		２区	1,190	35	丘陵先端部に縄文時代草創期の円形土坑 1 基を確認した。そのほか縄文時代晩期～中世の遺構・遺物を確認している。中でも古代には鍛冶炉・焼土坑が認められる。	平成 24 年度（1204 集）
		３区	365	5	松木田遺跡東側縁辺部分に当たる。溝・ピット等を確認し、弥生時代～古墳時代後期の遺物が出土している。遺構の時期は不明瞭である。	平成 24 年度（1204 集）
		４区	94	20	遺跡南側を画する自然流路の調査である。縁辺ではピットを確認した。流路内からは弥生時代から中世前半代にいたる遺物が出土している。鉄滓がまとまっており、製錬滓・鍛冶滓が混合している。周辺の調査で鍛冶炉が確認されているが、鉄生産の可能性も考えられる。	平成 25 年度（1241集）
		５区	558	180	甕棺墓 47 基、木棺・土坑墓 17 基による弥生時代の埋葬遺構群と後期古墳 1 基のほか古墳時代～中世前半の遺構・遺物を検出する。また、土器類とともに製錬滓も出土している。	平成 25 年度（1241集）
		６区	208	52	古墳時代の方形竪穴住居 2 棟、古代の鍛冶炉 4 基、土坑墓 1 基を確認した。竪穴住居は中央に炉をもち、2 面にベッド状遺構を備える。鍛冶炉は古墳時代遺構面の上層で検出され、遺構周囲の包含層からは製錬滓も出土した。土坑墓からは副葬品として黒色土器が出土した。	平成 25 年度（1242集）
		７区	1,220	2	県道西側隣接地の田面切下げ部分を対象に調査区を設定した。調査区中央部には北流する旧河道がみられ、その周辺ではピット状遺構などを検出し、縄文時代から中世までの土器や石器が出土した。	平成 24 年度（1204 集）
		８区	680	1	7 区調査地点の県道を挟んだ東側隣接地に 8 区を設定した。7 区同様、黄褐色シルト層上面にてピット状、不定形の遺構を検出し、縄文時代から古墳時代にかけての土器や石器が出土した。	平成 24 年度（1204 集）
岸田遺跡第１次（KID－1・0930）	平成21年10月27日～平成22年10月19日（5,775㎡・429箱）	１区	1,174	96	弥生時代終末期～古墳時代前期を中心に、弥生時代中期～古墳時代中期までの竪穴住居跡を多数検出した。しかし、北西側丘陵上に展開する甕棺墓群に対応する時期の遺構は少なく、集落の中心は別地点に移っているようである。竪穴住居跡出土土器には、佐賀平野の影響がみられる土器も含まれる。	平成 26 年度（1256集）
		２区	405	22	1 区の北側に位置する。弥生時代終末を中心とした生活遺構群を確認している。1 区で見られた大型の長方形竪穴住居跡（8×11.5m）も 1 基確認している。	平成 26 年度（1257集）
		３区	628	10	弥生時代中期～古墳時代の生活遺構群の北端部にあたる。削平が進んでいるが、竪穴住居跡・ピット・土坑等の生活遺構を検出している。	平成 26 年度（1257集）
		４区	2,761	283	1～3 区西側の丘陵上の調査である。弥生時代を中心とする中世までの生活遺構とともに、弥生時代前期末～後期の甕棺墓 78 基、木棺・土坑墓 8 基を検出する。5 基の埋葬遺構からは銅剣・銅矛・装身具・鉄戈等の副葬品が出土する。	平成 26 年度（1257集）
		５区	807	18	1 区の南側に位置する。2 面の遺構面で調査を行った。1 区同様弥生時代中期～古墳時代を中心とした遺構群を確認している。	平成 26 年度（1257集）
内野熊山遺跡第１次（UKY－1・1025）	平成22年9月16日～平成23年1月25日（3,149㎡・14箱）	１区	1,008	4	遺物包含層直下にて、不定形の凹みを掘削した。調査後、遺構確認のためグリッドを設定し、各グリッド単位での掘削を行い、縄文時代の土器・石器が出土した。	平成 24 年度（1205 集）
		２区	1,442	6	表土除去後、中世の溝状遺構を掘削し、その後、グリッドを設定し掘削調査を進めた。1 区同様に、縄文時代の土器や石器が出土した。	平成 24 年度（1205 集）
		３区	193	2	遺跡範囲のほぼ中央に位置する東西方向の水路予定地である。調査区を二つに分けて行なった。両調査区間の真下には北流する旧河道が位置しており、その上位層には縄文時代遺物が混入する。	平成 24 年度（1205 集）
		４区	506	2	遺跡範囲の北側に位置する東西方向の水路予定地である。調査区を二つに分けて行なった。表土除去後、グリッドを設定し掘削を行ったが、遺物の顕著な散布はみられなかった。	平成 24 年度（1205 集）
長峰谷口Ｂ遺跡第１次（NGB－1・1111）	平成23年7月4日～平成23年8月19日（1,984㎡・2箱）		1,984	2	古代末の溝および包含層を検出。溝は L 字形に屈曲するものがあり、区画溝の可能性がある。	平成 24 年度（1206 集）

表1 発掘調査地点一覧

４　調査地点の立地と環境

今回調査が行われた早良区早良は扇形に開いた早良（さわら）平野の付け根の部分に位置する。早良平野は福岡市西区及び早良区を北流する室見川流域の扇状地性の河成平野部を主体とし、平野は東を油山から派生する低丘陵、西を背振山系より派生する長垂山塊によって画され、扇形状の一つにまとまった地理的空間を形成している。また博多湾に面する河口部分には砂丘と、その後背部分に湿地帯が形成され、平野内には阿蘇山噴火火砕流起源の洪積丘陵が点在している。

早良平野内では旧石器時代以降各時代の遺構・遺物が確認されており、概要を簡単にたどりたい。

旧石器時代の遺跡は洪積台地上及び山麓扇状地上に分布している。有田遺跡ではナイフ形石器前段階から細石器段階の石器、脇山A遺跡からは細石器が出土している。その他吉武遺跡群・羽根戸原C遺跡・浦江遺跡でも遺物が認められる。

縄文時代の遺跡は前段階の遺跡に加え標高の高い山間部にも広がる。松木田遺跡では撚糸文土器期の集石が見られ、良好な遺物包含層を確認している。背振山系にかかる板屋遺跡・椎原遺跡、平野部の広石遺跡からは早期～前期の土器・石器類が出土している。その後、後晩期には遺構・遺物が増加し、四箇遺跡では後期後半の湿地層からオオムギ等の栽培種子が確認され、栽培活動が行われた可能性が高いことが推定されている。また橋本一町田遺跡からは晩期後半の遺物が多量に出土し、水田関連遺構も確認されている。

弥生時代になると平野各所の砂丘・洪積丘陵・沖積微高地・低丘陵上に遺跡群が展開し、安定した集落の形成が見られるようになる。砂丘上では西新・藤崎・姪浜遺跡が知られ、いずれの遺跡においても甕棺墓を中心とした大規模な埋葬遺構群が形成されている。藤崎遺跡群では板付Ⅱb～金海式期の区画墓・墳丘墓の可能性を有する埋葬遺構群が見られる。姪浜遺跡では弥生時代中期以降の甕棺墓・生活遺構があり、朝鮮半島産の無文土器、漢式三角鏃、貝輪・貝玉他の対外的交流を示す遺物とともに、日常土器を使用した製塩の痕跡も確認されている。洪積丘陵上に位置する有田遺跡では弥生時代全期を通じた遺構・遺物が確認されており、前期末の甕棺から銅戈、中期後半の甕棺から前漢鏡・小型仿製鏡等が出土している。また、平野を画する東側低丘陵上には飯倉C（飯倉唐木）遺跡があり、前期から土坑墓・甕棺墓群が形成され始め、前期末の甕棺から細型銅剣2本、中期末の甕棺から素環頭刀子１点が出土している。反対側の西側丘陵上では野方久保遺跡において中期前半の甕棺墓2基から銅剣2本・把頭飾1点が出土し、後期には野方中原・野方塚原遺跡の石棺墓から鏡片が出土している。更に今回の事業地周辺に当たる平野南部地域では室見川右岸の四箇船石遺跡には支石墓が現存し、周囲では甕棺墓も確認されている。更に南側に位置する東入部遺跡では前期より甕棺墓・木棺墓群が形成され、中期前半代～末には周溝による区画墓が形成される。ここからは前期末～中期初頭の埋葬遺構から銅剣2本、中期前半～後半の甕棺墓から銅釧・素環頭刀子・鉄矛・鉄鉇・鉄剣・鉄刀等が出土している。室見川左岸においては、吉武遺跡群で前期後半代以降、非常に大規模な埋葬遺構群が形成され始めるとともに、前期末～中期初頭には青銅製武器・鏡・腕輪のほか、多量の玉類を所有する複数の木棺墓・甕棺墓が認められる。更に南側段丘上に立地する浦江遺跡では中期中頃に区画墓が築造されるが副葬品は認められない。また、白塔では人面を鋳出した銅戈が出土している。早良平野の最南端部で弥生時代の埋葬遺構が確認されているのは、長峰遺跡の調査であり、中期中ごろ～末の甕棺墓が認められる。

早良平野においては副葬品のあり方からみると、前期末～中期初頭の段階で多数の青銅器・装身具を所有する吉武遺跡群の埋葬遺構と、少量の青銅器のみが副葬される周辺遺跡（飯倉C、有田、野方久保、東入部、今回調査が行われた岸田遺跡）の埋葬遺構間には大きな格差が生じており社会的な成

第1図 調査区位置図(1／75,000)

熟が認められるが、中期後半以降の段階ではより突出した個人への権力の集中は認められず、隣接する福岡平野、糸島平野に比べて各集団の統合が緩やかな地域であったことをうかがうことができる。また、早良平野においては長峰・松木田遺跡を南限として、これより南側では散発的な遺構・遺物は認められるが、まとまった集落は確認されておらず、実質的な生活域の境界に当たる。なお、この傾向は古墳時代・古代にも続いており、安定して遺構・遺物が見られるようになるのは、中世前半代に入ってからである。

古墳時代の室見川流域における首長墳を見ると、４世紀代には河口近くの左岸に五島山古墳（円墳）、右岸には藤崎遺跡の方形周溝墓群が確認されている。この後、前方後円墳である羽根戸南古墳群G－2号墳（全長26m）、G－3号墳（全長19.6m）が築かれ、ついで中流域右岸には平野最大の前方後円墳である拝塚古墳（全長75m、5世紀前半）が作られる。また、これと対峙するように左岸地域では帆立貝式の樋渡古墳（全長38m、5世紀中頃）が築かれた後、ややおいて再び羽根戸古墳群F－2号墳（帆立貝式、全長16.3m）、終末期には巨石墳である夫婦塚1号墳・2号墳が存在する。これらの古墳の多くが、室見川左岸の台地上に立地することは注目される。また後期には飯盛山山麓を中心とする長垂丘陵上及び油山西麓上に多くの群集墳が形成されている。これらの群集墳には鋳造鉄斧、鉄製鍛冶具他の鉄器類、陶質土器等の渡来系遺物が副葬されるものも見られる。また鉄滓供献から推定できるように、この時期には鉄生産も開始されたものと考えられる。

古代には行政区画として筑前国早良郡となり、「和名抄」によると七郷が知られる。また、当時大宰府を基点とした古代官道である西海道が確認されており、有田遺跡では官道に近接して早良郡衙推定遺構群が確認されている。都地遺跡、都地泉水遺跡、吉武遺跡群、城田遺跡、金武青木A遺跡などでは大型建物を確認し、瓦・墨書土器・木簡等が出土するほか、周辺で多くの製錬炉・鍛冶炉が確認されている。製錬炉は市内でも有数のまとまりを持ち、市内における奈良時代後半の鉄生産の中心地のひとつとして数えられるとともに、前後の時代を含めて鉄器生産が盛行したものと考えられる。

中世には現在も痕跡をとどめる条里地割に沿う大規模な水田開発が行われ、景観的に近現代につながる村落景観が形作られた。また居館跡が都地遺跡、清末遺跡などで確認され、館城としては有田遺跡の小田部城跡や都地城が知られている。山城としては油山の西端に荒平城跡、対峙する飯盛山には飯盛山城が築造されている。荒平城は15世紀代には文献に見え、16世紀後半には小田部氏が城督となるが、1580年に龍造寺氏の侵攻により落城している。現在も郭外周には石垣が点在している。飯盛山城は築造年代が明らかでないが、近世地誌類によると戦国末には龍造寺の城となったことが記されている。なお飯盛山山頂からは永久2年（1114年）銘の瓦経が出土するほか、明治時代に出土した経筒の存在も知られている。

今回、土地改良事業を行った早良区早良は旧地名長峰で近世地誌類にも記され、東入部村に含まれる。ここは早良平野の西側を画する西山（430m）～飯盛山（382m）～叶岳（341m）～長垂山（110m）からなる花崗岩山地のうち、西山の東側山麓部に広がる砂礫台地及び室見川に落ち込む台地前面の沖積扇状平野で構成される。砂礫台地は山地から供給された土砂により形成された扇状地が台地化したもので、自然開析によって分離され舌状に伸びている。昭和59年に行われた福岡市による土地分類調査によれば、松木田遺跡は中位段丘及び前面の低位段丘面・沖積扇状地、岸田遺跡は砂礫台地上の中位段丘下位面及び前面の沖積扇状地上に立地し、内野熊山遺跡は埋没段丘、長峰谷口B遺跡は砂礫台地に挟まれた谷底平野に位置する。

写真 1 調査区付近より北側を望む（平成24年4月撮影）

写真 2 調査区付近より南側を望む（平成21年5月撮影）

写真 3 土地改良事業前(平成21年5月撮影)

写真 4 土地改良事業後(平成24年4月撮影)

写真 5 松木田遺跡第4次調査1区全景(上空から)

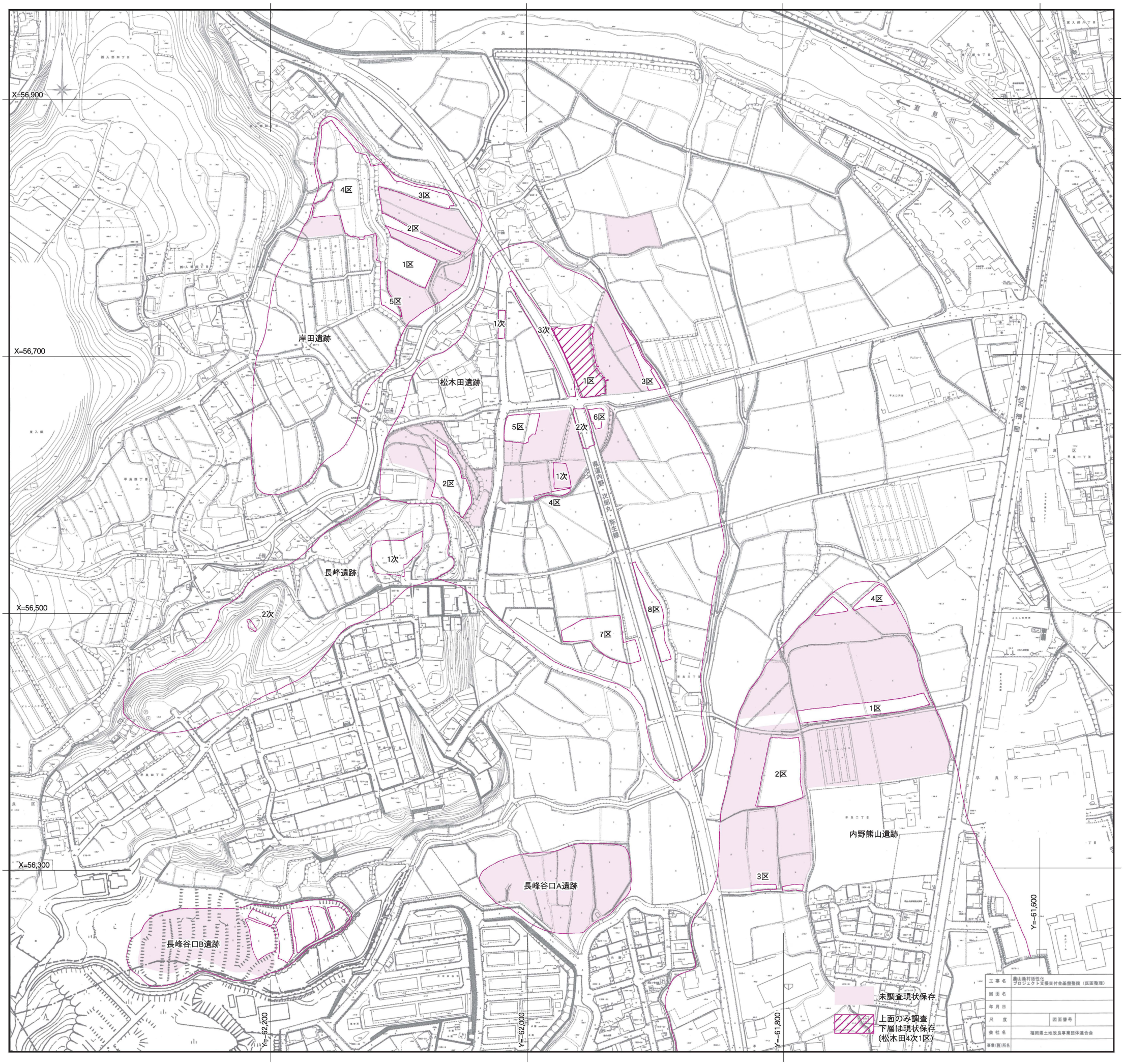
写真 6 松木田遺跡第4次調査2区遠景(東から)

写真 7 松木田遺跡第4次調査5区全景(上空から)

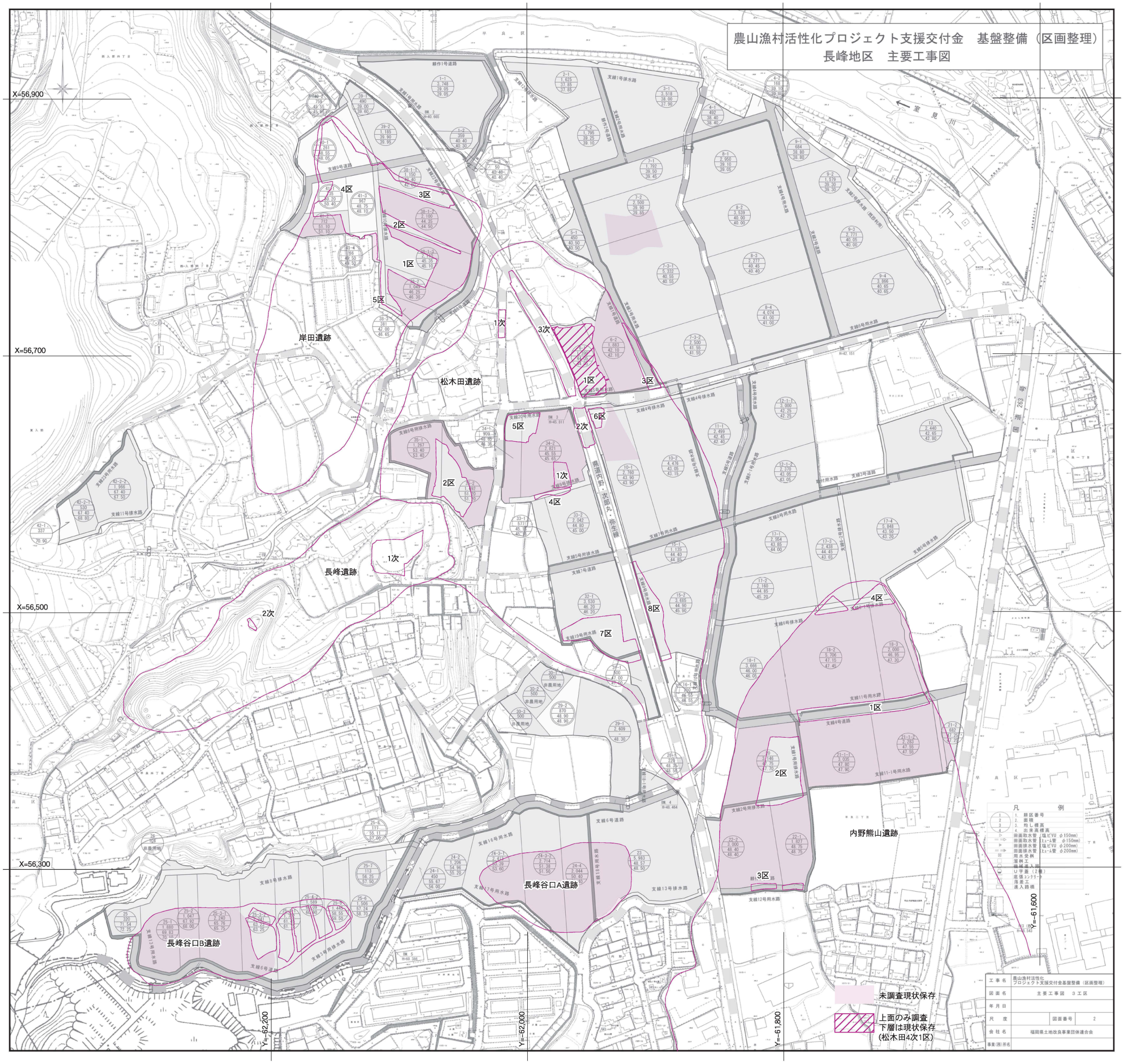
写真 8 内野熊山遺跡第1次調査1区全景(東から)

写真 9 内野熊山遺跡第1次調査2区調査状況(南から)

写真10 長峰谷口B遺跡第1次調査全景(東から)



第2図 事業地内調査区位置図1(1／3,000)

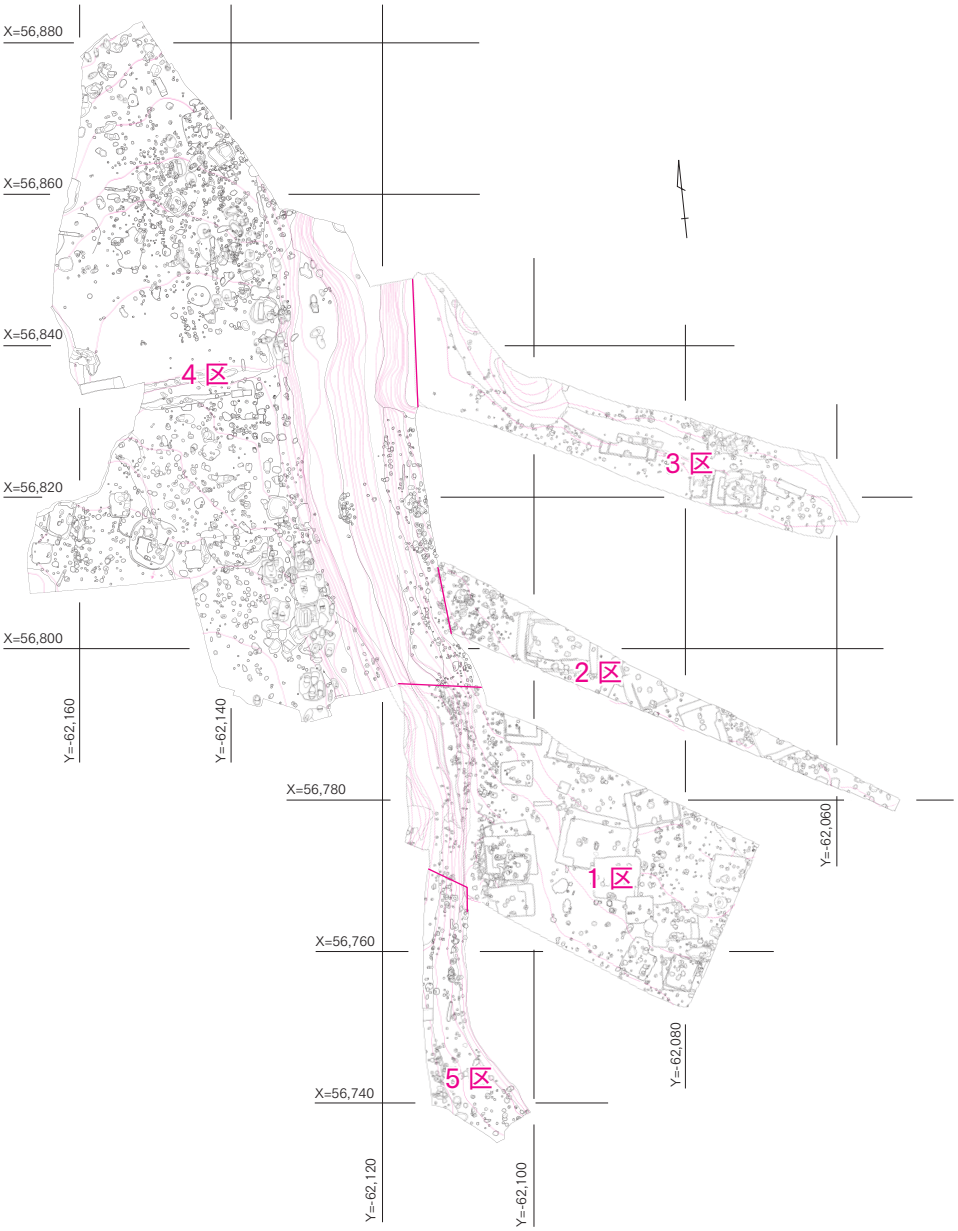


第3図 事業地内調査区位置図2(1／3,000)

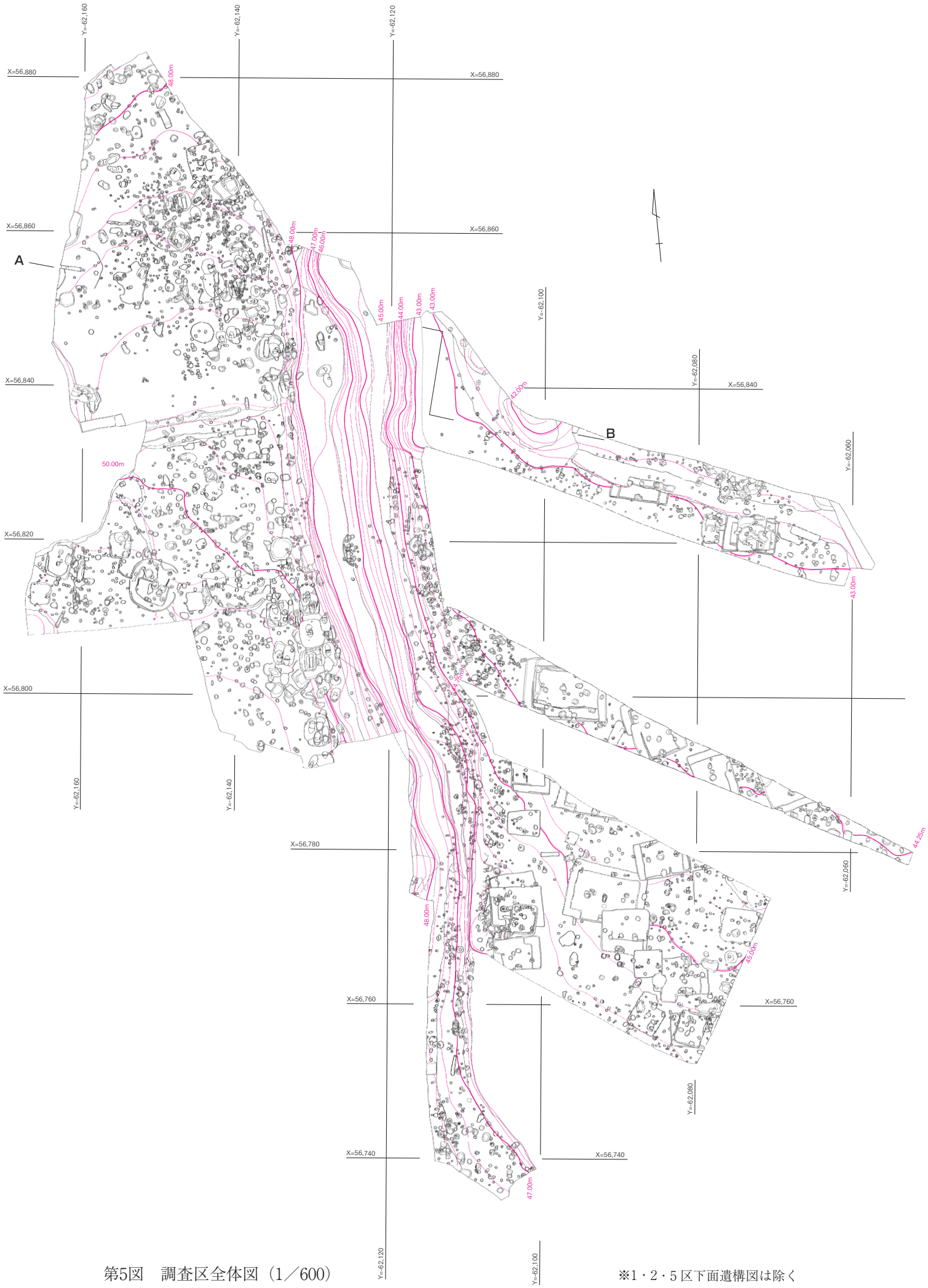
Ⅱ　岸田遺跡第1次調査の記録

1　第1次調査の概要

岸田遺跡は扇状地形が自然開析によって舌状に分離した砂礫台地、およびその前面にひろがる沖積扇状平野から構成される。遺跡北端では室見川が大きく西に蛇行し、砂礫台地もこれに向かって急激に落ち込んでいる。本書で報告する第1次調査地点は、室見川に比較的近い遺跡北東端部に位置し、弥生時代の墓域を検出した4区は扇状地が台地化した砂礫台地上に、弥生時代から古墳時代の集落域を検出した1・2・3・5区は台地前面の沖積扇状地上に立地する。今回は圃場整備事業で遺構面が影響を受ける部分のみを調査対象としており、影響を受けない部分については現状保存の措置を取っている（第2・3図参照）。



第4図　調査区区分図（1／1,000）

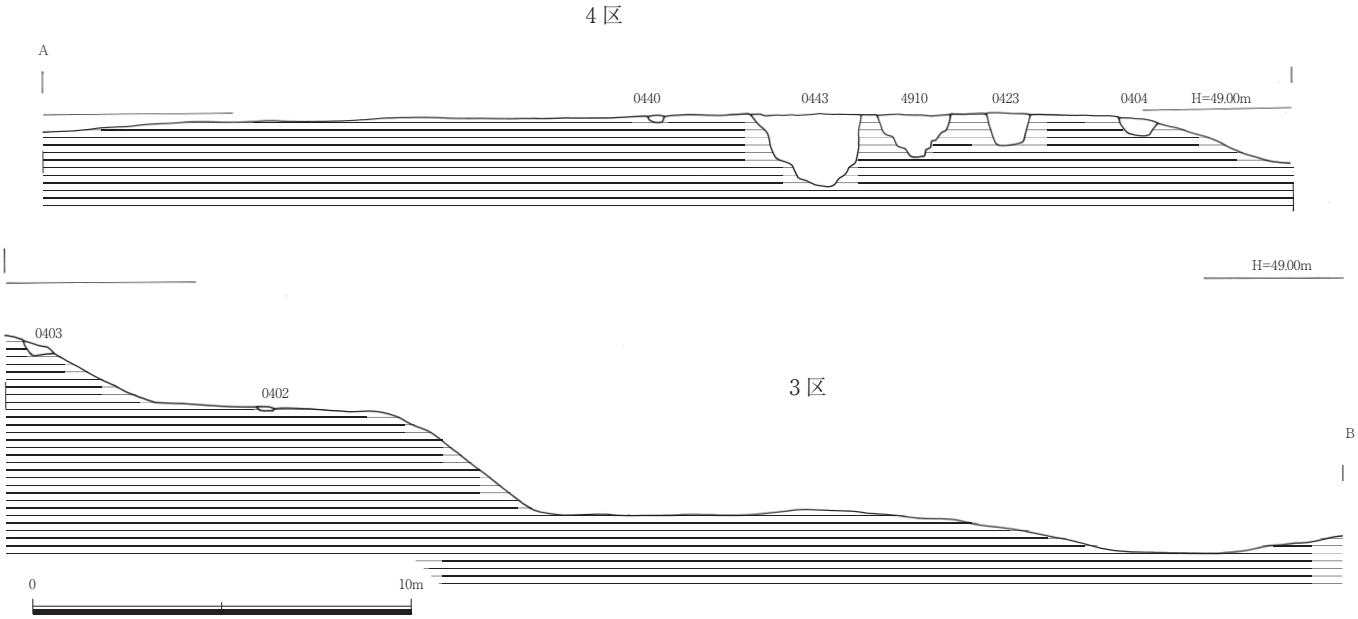


第5図　調査区全体図（1／600）

※1・2・5区下面遺構図は除く

台地部・低地部ともに、以前農地の区画改良工事が行われており、その際にも水田形状が整えられ、それぞれ北に向けて階段状に低くなっている。台地部では調査前旧田面標高は南側50.88m、北側先端で48.55m、低地部では旧田面標高は南側で46.41m、北端部で39.06mである。比高差は4～9mで北側に行くにしたがって比高差が大きくなる。台地上および東側斜面では削平が進んでおり、失われた遺構も多いと考えられ、斜面部では現在残る平坦面上に痕跡的に残された甕棺墓や竪穴住居跡が認められることからも、斜面の削平が進んでいることが想定できる。なお、低地部では比較的遺構の遺存状況は良好であり、竪穴住居跡を中心とした生活遺構を多数確認している。

第1次調査区での検出遺構・遺物は弥生時代前期末～中世前半代にわたるが、主体は弥生時代前期末～古墳時代中期である。低地部の1～3・5区では弥生時代前期末～古墳時代中期の掘立柱建物、竪穴住居跡からなる生活遺構群を確認している。生活遺構は弥生時代後期及び古墳時代前期後半には一時的に衰退（断絶）するが、①弥生時代前期末～中期末、②弥生時代終末期～古墳時代前期前半代、③古墳時代中期前半代の3時期に集中している。また、台地上の4区では①期の遺構・遺物が大半を占めるほかは、②期の遺構・遺物が少数存在しており、これ以降の遺構・遺物は極少量となっている。①期は台地上で埋葬遺構群が営まれる時期に一致している。4区で検出した埋葬遺構は土坑墓・木棺墓8基、甕棺墓78基である。埋葬遺構は台地尾根線上を中心に配置されているが、4区中央の空閑地をはさんで大きく北群と南群に分かれる。北群は南群に比べ後世の削平の影響を大きく受けており、特に北端部及び東側斜面部では失われたものも一定程度存在すると考えられる。南群では東側斜面部の一部で削平が想定できるが、北群に比較して遺存状態は良い。また、墓域は未調査の台地南側にさらに広がるようである。北群・南群ともに埋葬は前期末～中期初頭より開始し、中期末までに大半の埋葬を終えるが、一部北群では後期後半にも埋葬が行われている。副葬品としては北群の木棺墓から銅剣1本、甕棺墓から鉄戈1本、南群の甕棺墓4基から銅剣4本、銅矛3本、青銅製把頭飾1個及び玉類が出土している。早良平野では弥生時代前期末～中期初頭に青銅器等の集中副葬を見せる吉武高木遺跡を頂点とし、青銅器を副葬した墓域を有する拠点集落が点在している。岸田遺跡は隣接する松木田遺跡・長峰遺跡とともにまとまった遺跡群を形成しており、弥生時代前期末以降に展開する早良平野最南端の弥生時代集落である。青銅器の集中的な出土は、平野内では吉武遺跡群の大石地区出土青銅器に匹敵し、更に中期後半代には鉄戈を保有するなど、一貫して有力な立場を保持した被葬者像が浮かびあがる。



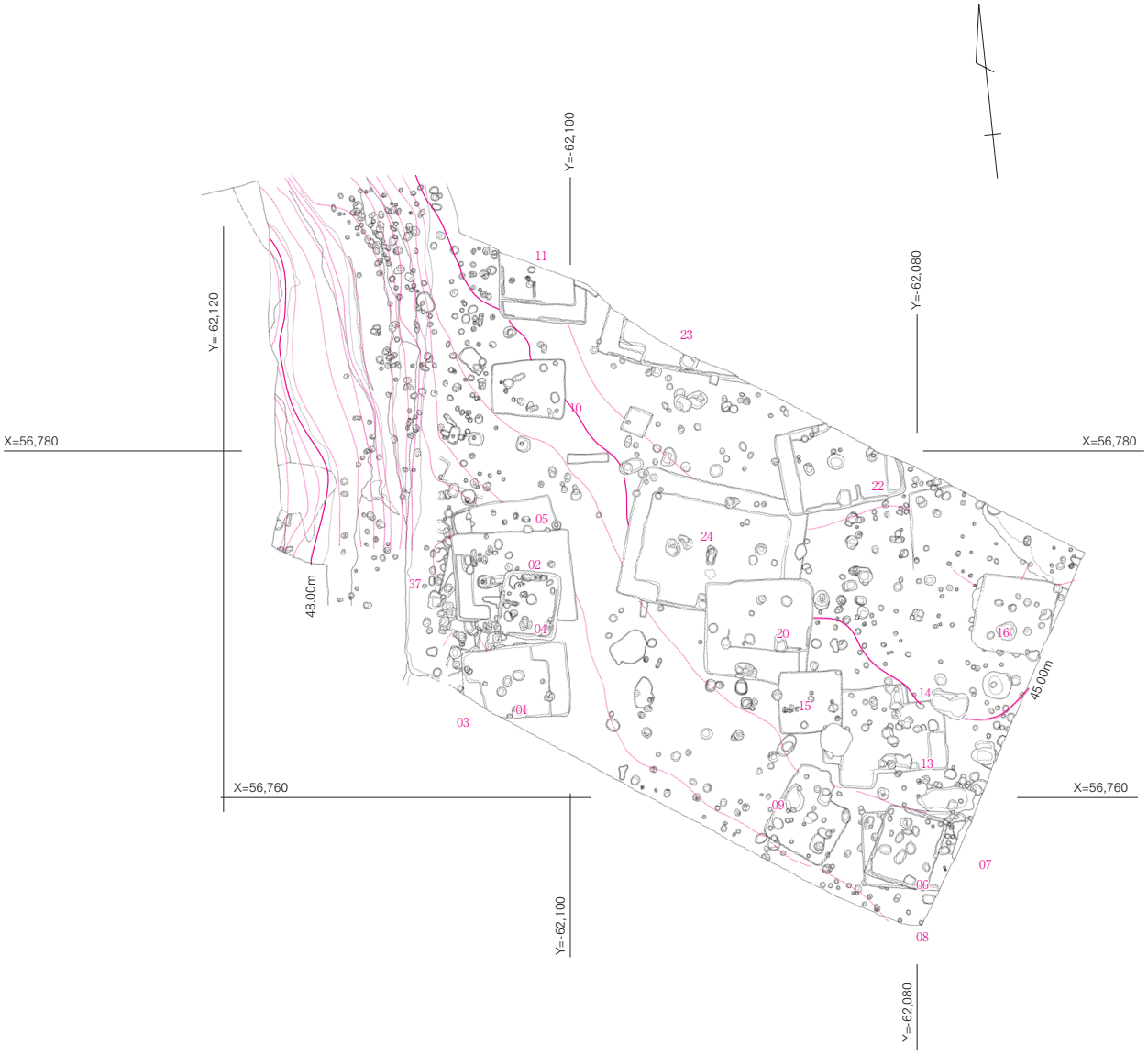
第6図　調査区横断面図（1／200）

２　1区の調査概要

1区の調査成果については『岸田遺跡』1（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1256集）で報告されており、ここでは概要のみを記す。

1区は調査前、標高46.05m～46.15mの水田である。砂礫台地に近い西側と室見川に流れ込む長峰川に近い東側が高く、中央部が北に向かって低く傾斜する谷状の低位部をなす地形となっている。このため、低位部には地山である灰白色シルト・にぶい黄色土の上面に、オリーブ褐色土、その直上に遺物を包含する黒褐色包含層が堆積していた。この黒褐色包含層には、輸入陶磁器や須恵器等の遺物がごく少量含まれる。遺構面は、耕作土・床土（調査区中央の低位部ではさらに黒褐色包含層）を除去してあらわれる灰白色シルトおよびオリーブ褐色土の上面であり、遺構面標高は44.75m～45.5mを測る。

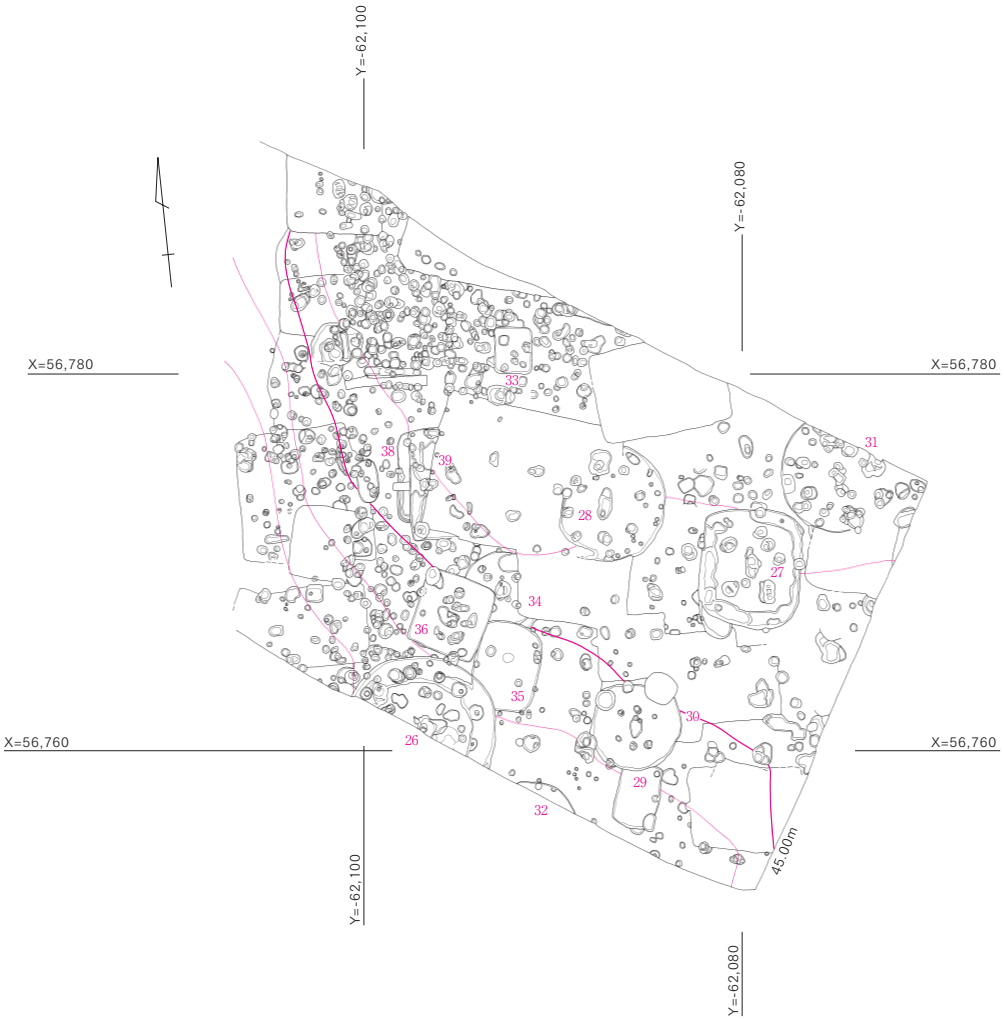
この面で検出した遺構のうち、弥生時代の遺構の覆土は検出面に類似する暗オリーブ褐色土を主体としていたため、これらの遺構をオリーブ褐色土上面で明確に検出することができなかった。このため、弥生時代の遺構は、黒褐色土を覆土とする古墳時代以降の遺構を調査した後にオリーブ褐色土を除去し、灰白色シルト・にぶい黄色土の地山を全面に露出させてから調査することとなった。したがって、本来の遺構面は1面であるにもかかわらず、実際には、古墳時代の遺構を調査した面と弥生



第7図　1区上面全体図（1／400）

時代の遺構を調査した面の2面を調査する結果となった（第7・8図）。また、土層観察の結果、黒褐色包含層上面から掘削される遺構を確認したが、黒褐色土を覆土とするため、包含層上面で面的に検出することはできず、古墳時代および弥生時代の遺構と同時に調査を行った。

1区では、弥生時代前期末から中期末および弥生時代終末期から古墳時代中期後半までの竪穴住居を中心とする集落遺構を検出した。弥生時代の竪穴住居群には掘立柱建物がともなう可能性があるが、今回の調査では明瞭に抽出できていない。集落は、弥生時代後期および古墳時代前期後半に一時的に断絶するものの、①弥生時代前期末～中期末、②弥生時代終末期～古墳時代前期前半、③古墳時代中期初頭～中期前半の3時期に集中して多くの住居が営まれたようである。とくに、②の時期に属する1区SC23・SC24および2区SC0201は、一辺7m×10m程の大型の住居で、3棟が主軸をそろえて整然と配置されており注目される（第5図参照）。また、③の時期のSC20では、住居廃絶時に祭祀を行った痕跡が確認された。さらに、①②の各時期の遺構からは、佐賀平野系や豊前系、吉備系の遺物がごく少量出土しており、他地域との断続的な交流が推測できる。このほかに、1区では、古代・中世に属する柱穴・土坑等も検出したが、遺構のあり方は相対的に散漫である。



第8図　1区下面全体図（1／400）

		埋没開始時期	平面形	主柱穴	炉	主軸	規模（m）	面積（㎡）	建替	切合
弥生時代前期末～中期末	SC29	前期末～中期初頭以前	長方	無	無	N-22°-E	2.3×3.2	7.36	無	SC30より古
	SC30	前期末～中期初頭か	円	6本	無	－	直径4.7	17.34	無	中央土坑
	SC28	前期末～中期初頭か	円	8本	無	－	直径6.2	30.2	無	中央土坑
	SC31	前期末～中期初頭か	円	8本	無	－	直径6.6	34.19	有？	中央土坑
	SC34	中期前半か	円	4本	無	－	直径4	12.56	無	中央土坑
	SC35	中期前半	長方	無	中央 地床炉	N-23°-E	3.5×4.75	16.63	無	SC34より 新
	SC26	中期後半～末 やや大型住居	円	12本	中央 地床炉	－	直径8.1	51.5	無	SC35より 新 外来系土器
	SC36	中期後半か	略正方	2本	中央 地床炉	N-32°-E	3.75×4.2	15.75	無	SC34より新 SC35より新
	SC39	中期後半か	方	不明	不明	N-4°-E	5.9×2.4以上	14.16以上	有？	
	SC27	弥生中期か	略正方	4本	無	N-15°-E	5.5×6	33	無	中央土坑
	SC32	弥生か	円	不明	不明	－	直径4.8	18.08	不明	
	SC38	弥生か	方	不明	不明	N-6°-E	4.6×0.6以上	2.76以上	不明	
	SC37	弥生か	長方	不明	不明	不明	2.7×5.6以上	15.12以上	不明	
弥生時代終末～古墳時代前期前半	SC01	久住ⅡA	長方	2本	無	N-87°-W	4.3×6.1	26.23	無	SC03より 新 中央土坑
	SC02	久住ⅡA	長方	2本	地床炉	N-86°-W	5.3×6.8	36.04	有？	SC05より 新
	SC13	久住ⅡA～ⅡB	長方	2本	無	N-84°-W	4×推定6.1	24.1	無	中央土坑
	SC11	久住ⅡA～ⅡB	長方	不明	不明	N-8°-E	5.1以上×4	20.1以上	不明	
	SC14	久住ⅡAか	略正方	不明	無	N-7°-E	推定5×推定5	推定25	不明	
	SC15	久住ⅡA	略正方	無	無	N-9°-E	3.7×3.7	13.5	無	SC14より 新 搬入土器
	SC23	不明 （弥生終末か） 大型住居	長方	不明	不明	N-64°-W	2.8以上 ×9.1以上	25.48以上	不明	
	SC24	久住ⅡA 大型住居	長方	2本	焼土溜	N-69°-W	7.5×10.2	76.5	有	中央土坑 外来系土器
	SC07・08	不明（古墳前期）	長方	不明	不明	N-84°-W	4.5×6	27	不明	
	SC03	不明 （弥生終末～古墳初頭）	方形	不明	不明	N-62°-W	1.1以上×1.3以上	不明	不明	
	SC05	不明 （弥生終末～古墳初頭）	方	不明	不明	N-94°-W	1.8以上×5.8	不明	不明	
	SC09	不明（古墳）	略正方	無	中央 地床炉	N-44°-E	4.05×3.7以上	15以上	無	
古墳時代中期初頭～中期前半	SC04	重藤ⅢA	略正方	無	無	N-17°-E	3.4×4	13.6	無	中央土坑
	SC06	重藤ⅢA～重藤ⅢB	略正方	無	無	N-28°-E	3.7×4.3	15.91	無	中央土坑
	SC10	重藤ⅢA～ⅢB	略正方	無	地床炉	N-10°-E	3.3×4.3	12.9	無	
	SC20	重藤ⅢA	略正方	無？	中央 地床炉	N-11°-E	約5.5×6.3	34.65	無	
	SC22	重藤ⅢA	長方	2本	無	N-85°-E	4.9×7.1	34.79	無	SC24より 新 中央土坑
	SC16	重藤Ⅴ	正方	4本	無	N-19°-E	4.5×4.5	20.25	無	

表2　1区検出の竪穴住居跡一覧

3　2区の調査

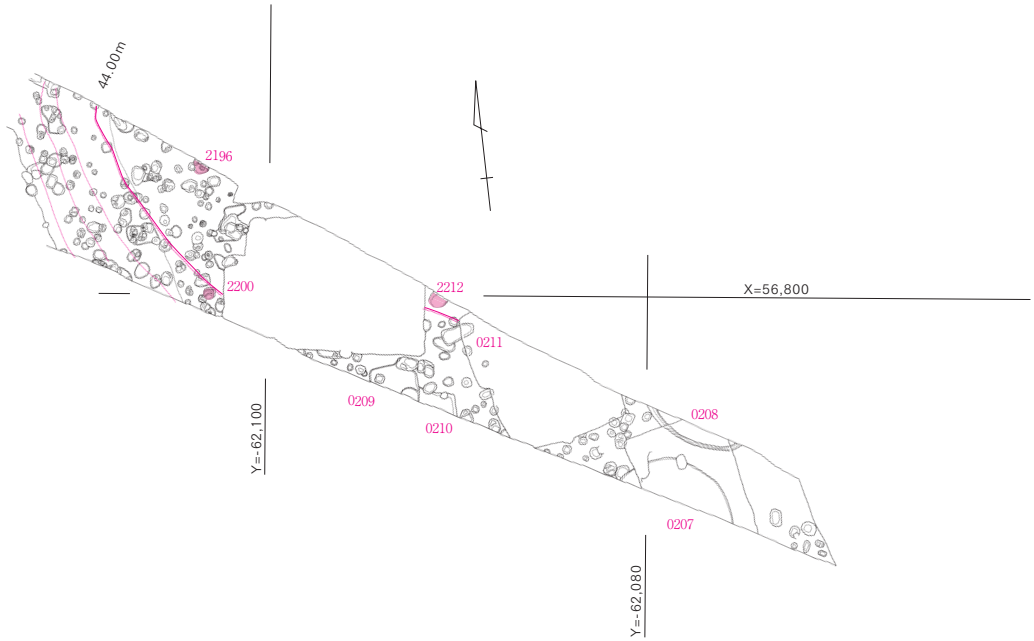
1）概要

2区は1区の北側に位置する。調査範囲は略東西に細く伸び、東西長約70m、幅2～8mの調査区である。調査前現況は水田で、田面標高は45.05mである。

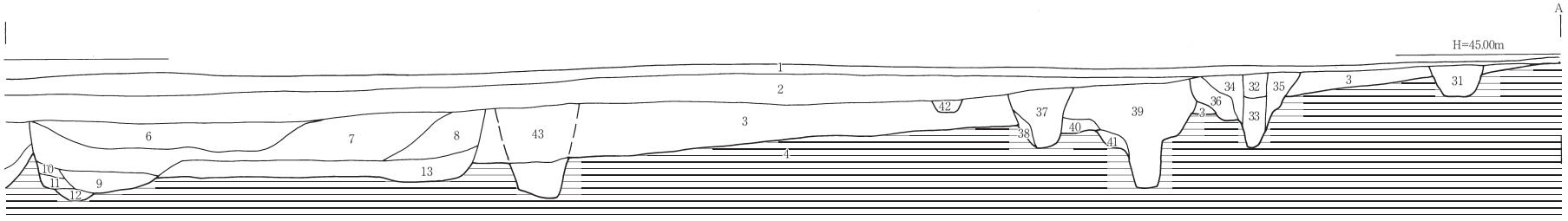
基本層序は1層：水田土壌、2層：黒褐色土、3層：灰黄褐色土、4層：明黄褐色土、5層：にぶい黄褐色土となる。2層は西側高位部を除く調査区ほぼ全面に認められ、弥生時代中期の土器を中心とした遺物を包含しているが、この上面から掘り込む明確な遺構は見られず、堆積時期も不明である。

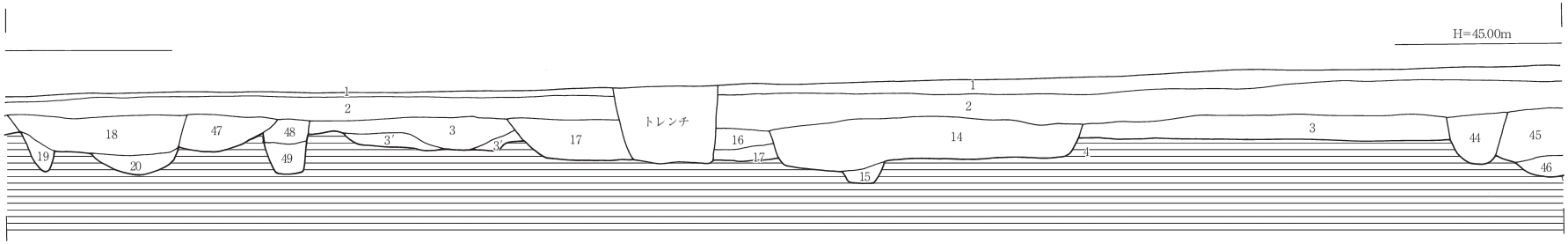
上面

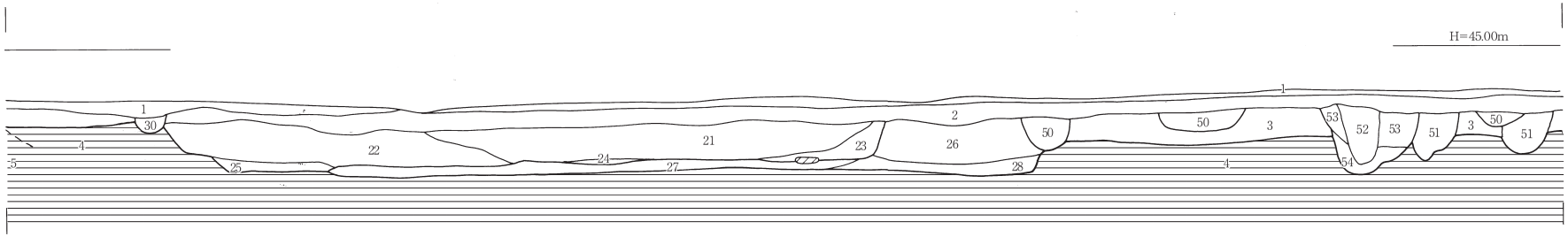
下面



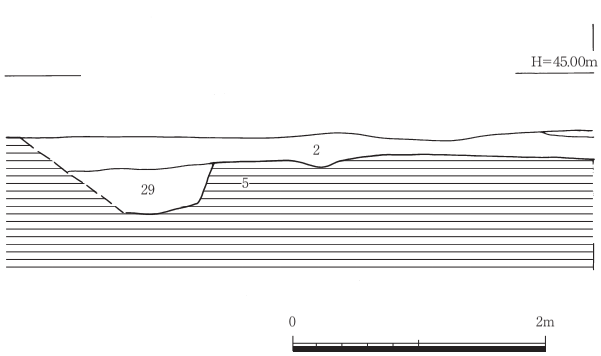
第9図　2区上面・下面全体図（1／400）







1　灰白色土（水田土壌・耕作土は除去済み）
2　黒褐色土
3　灰黄褐色土
3′　3層よりやや淡い
4　明黄褐色土
5　にぶい黄色砂質土
　（拳～人頭大礫を多く含む）
6　黒褐色土
7　黒褐色土
8　暗褐色土
9　黒色土
10　黒褐色土とにぶい黄褐色土混合（1：1）
11　黒褐色土とにぶい黄褐色土混合（3：1）
12　暗灰黄色土
13　にぶい黄色土と灰黄褐色土混合（1：2）
　6～13層　SC0201
14　灰黄褐色土
15　黒褐色土
　14・15層　SK0209
16　黒褐色土
17　灰黄褐色土
　16・17層　SK0210
18　黒褐色土
19　黒褐色土
20　黒褐色土とにぶい黄褐色土混合
　（3：1）18～20層　SC0204
21　黒褐色土
22　黒褐色土
23　黒褐色土
24　黒色土（炭化物層）
25　にぶい黄褐色土と灰黄褐色土混合
　（1：3）21～25層　SC0202
26　暗褐色土
27　オリーブ褐色土
28　黒褐色土
　26～28層　SC0207
29　黒色土
　29層　SC0203
30　黒褐色土
31　暗褐色土
32　黒褐色土
33　灰黄褐色土（32・33層　柱痕跡）
34　灰黄褐色土
35　黄褐色土
36　灰黄褐色土に明黄褐色土ブロック少量混合
37　黒褐色土
38　37層よりやや淡い
39　灰黄褐色土
40　灰黄褐色土に黒褐色土ブロックを少量含む
41　にぶい黄褐色土に灰黄褐色土ブロック混合
42　黒褐色土
43　黄灰色粘質土
44　黒褐色土
45　灰黄褐色土
46　灰黄褐色土と褐灰色土混合
　（1：1）
47　黒褐色土
48　暗灰黄色土
49　黒褐色土
50　黒色土
51　オリーブ褐色土
52　黒褐色土（柱痕跡）
53　黒褐色土
54　明黄褐色土と黒褐色土混合
　（2：1）

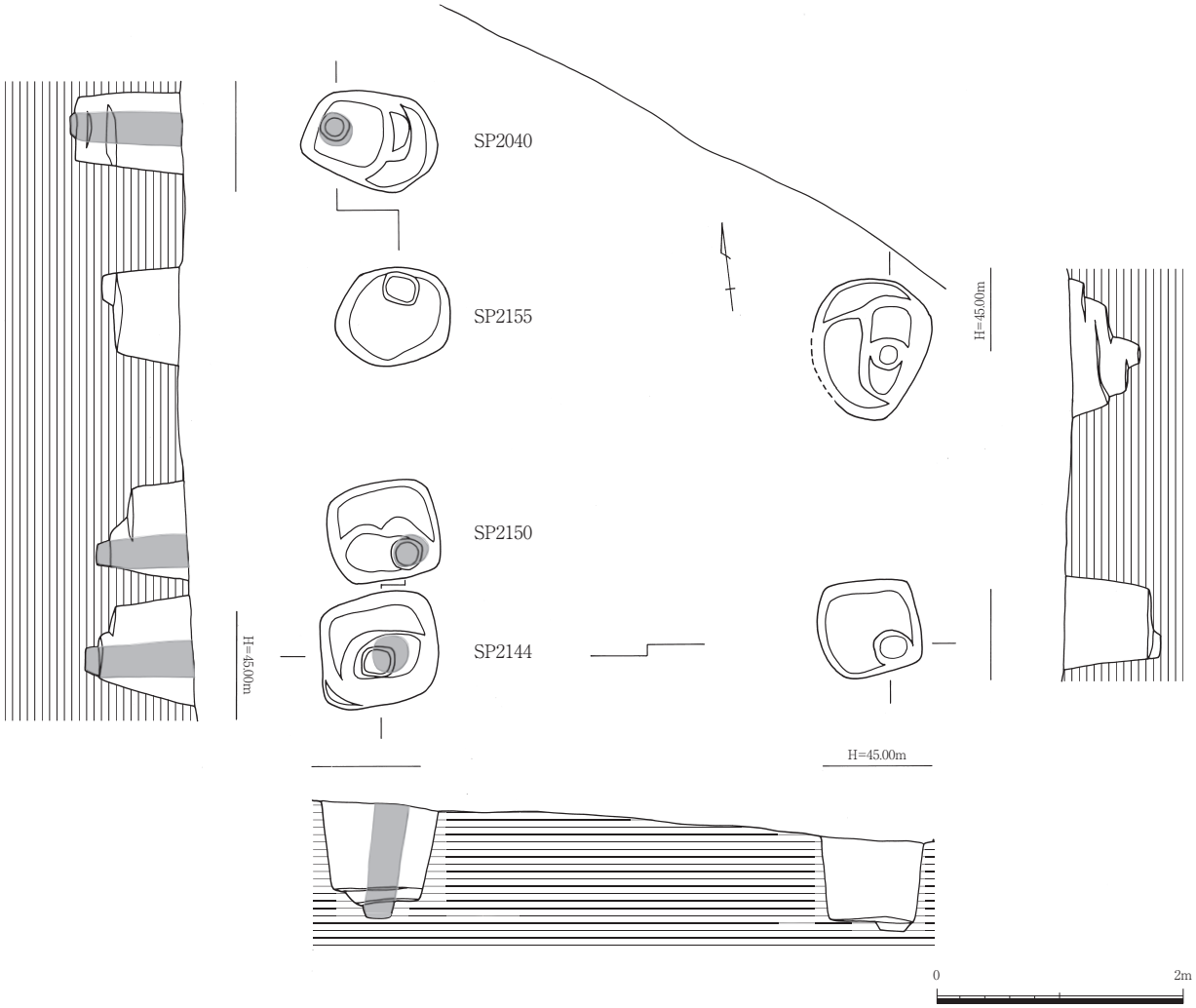


第10図　2区南壁土層図（1／60）

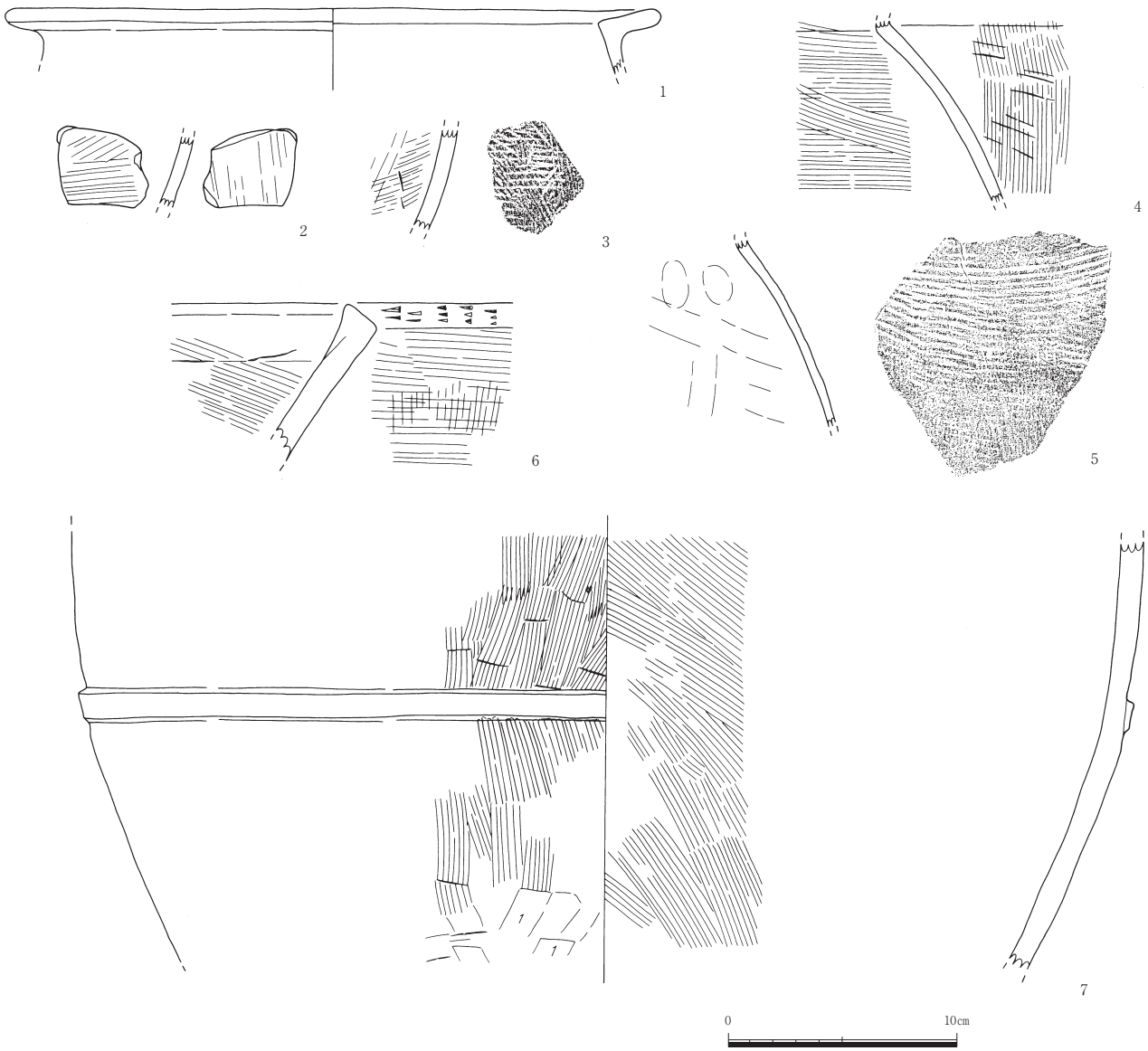
このため調査は2層を除去した3層上面で行った（上面）。ここでは黒褐色土埋土の遺構主体として掘り下げを行ったが、遺構面に類似したオリーブ褐色土・黄灰色土埋土の遺構については判別が困難で、3層除去後の4・5層上面で確認した（下面）。この結果、1区同様本来は1面である遺構面を2面で調査することとなった。おおむね上面では古墳時代以降の遺構、下面では弥生時代の遺構を確認している。遺構分布は全体に濃密で1区で確認した各時期の集落が更に北側に広がっていることが確認できるが、SC0203以東は遺構面に拳～人頭大の礫・粗砂を多く含み徐々に分布が散漫となっている。

検出遺構は弥生時代中期前半～中頃の竪穴住居跡2棟、弥生時代終末期～古墳時代前期の竪穴住居跡5棟・掘立柱建物1棟のほか土坑・ピットである。この中でも古墳時代初頭に位置付けられる大型竪穴住居跡SC0201は1区で検出したSC23・24の2棟に主軸を揃えて配置されており注目される。

出土遺物の大半は弥生時代～古墳時代前期であり、特にピット出土土器では弥生時代中期中頃～末が主体となる。このほか前期末～中期初頭の小破片が少量認められこれが弥生時代でもっとも古いものとなる。古墳時代の遺物も後期以降の遺物、特に須恵器はごく少量しか認められない。また、中世に位置付けられる遺物も土師器椀皿類や陶磁器小破片が数点程度出土するのみである。



第11図　SB0206実測図（1／60）



第12図　SB0206出土遺物実測図（1／3）

2）遺構と遺物

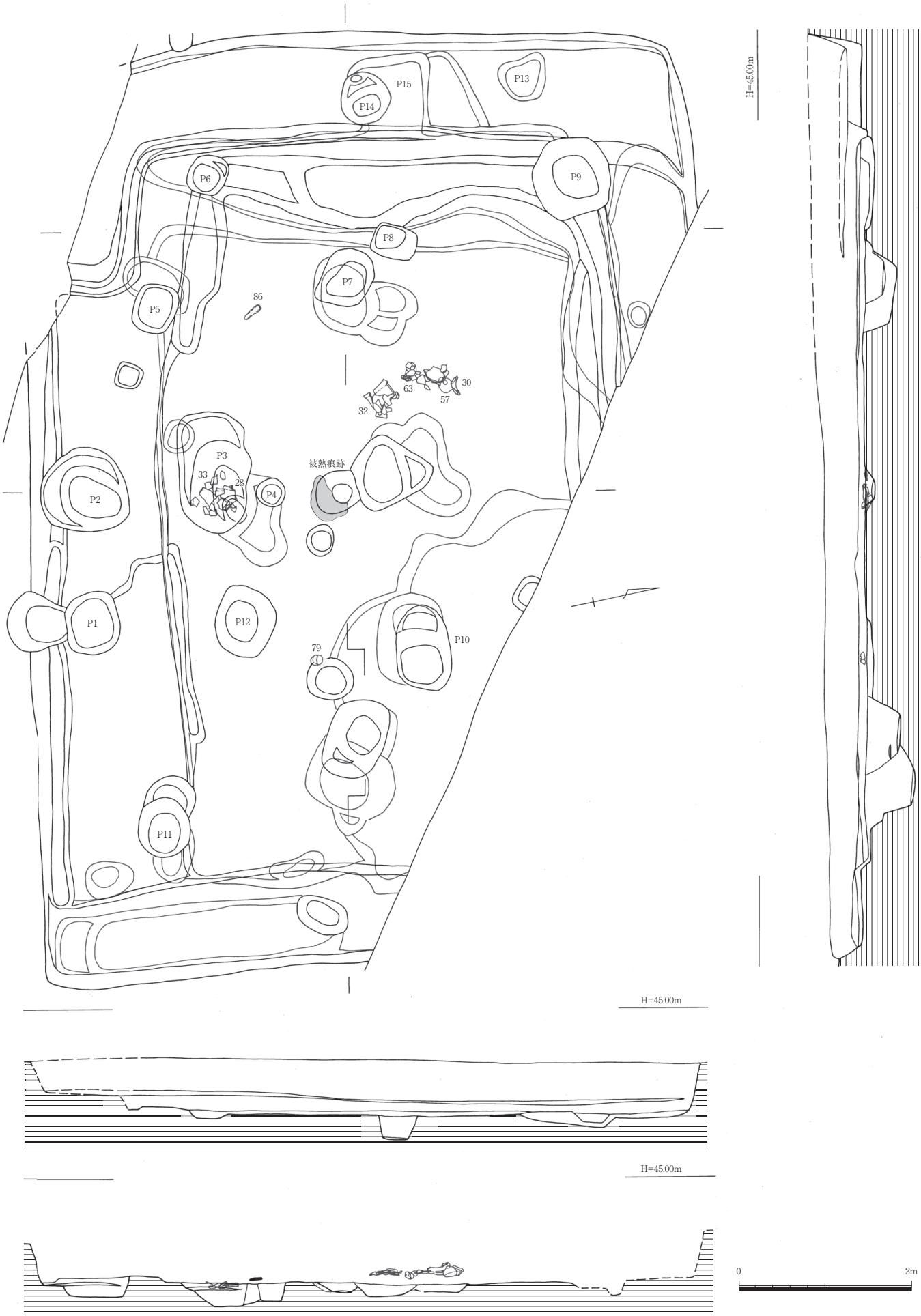
（1）掘立柱建物（SB）

ピットは西端の調査区高位部でまとまって確認しているが、掘立柱建物としてまとめることができたものは、掘り方が特徴的な1棟のみである。

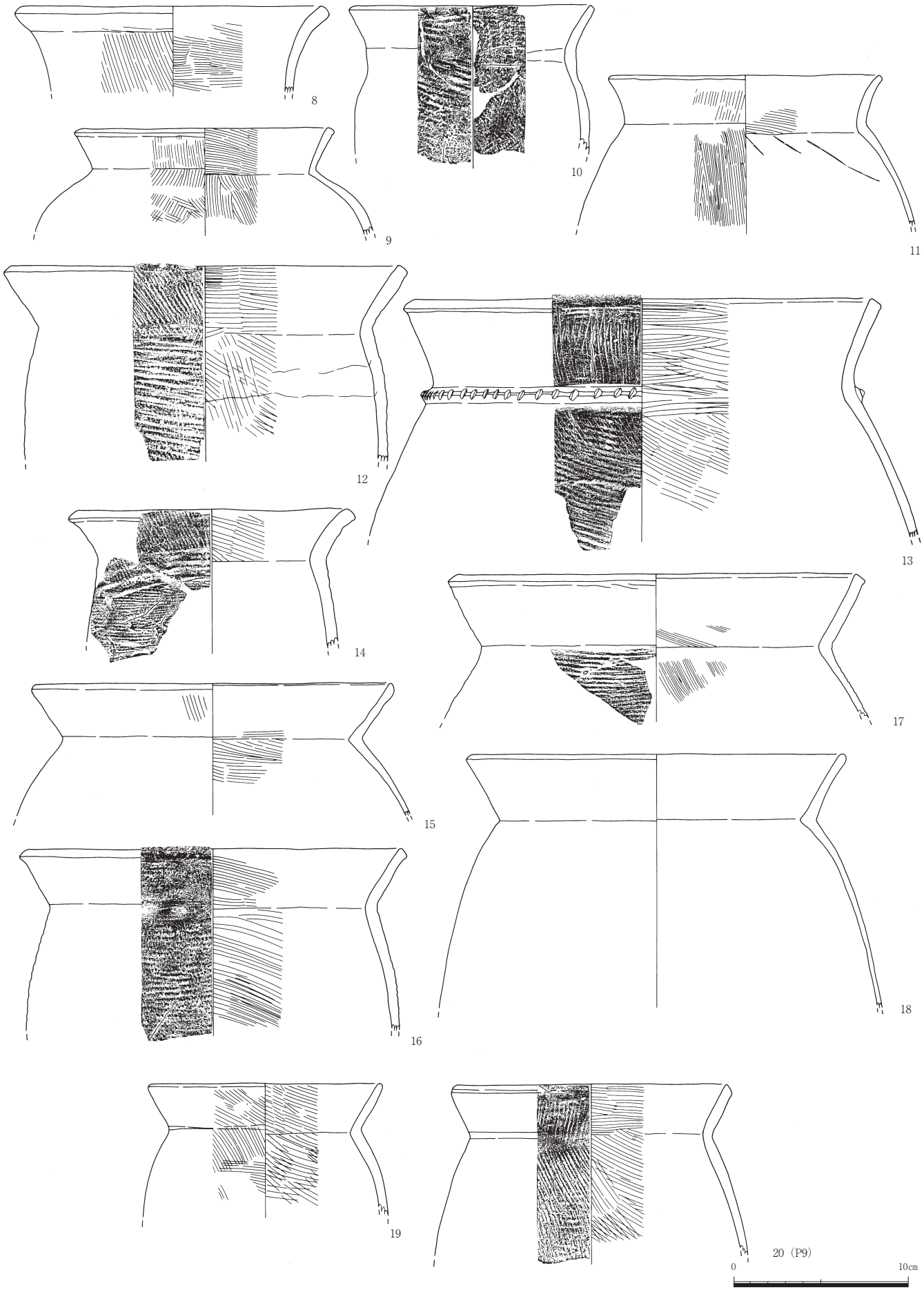
SB0206（第11図、写真25）

調査区西端で検出する。一辺0.8～1m前後で平面隅丸方形～長方形の柱穴を抽出した。主軸方位はN－7°－Eであるが規模は必ずしも明瞭でない。柱痕跡は黒褐色土で直径30cm程度である。また掘り方埋土は黒褐色土とにぶい黄褐色土が互層となっている。同様の時期で類似した掘り方を有する建物跡に4区SB0491、5区SB0502がある。古墳時代初頭～前期に位置付られる。

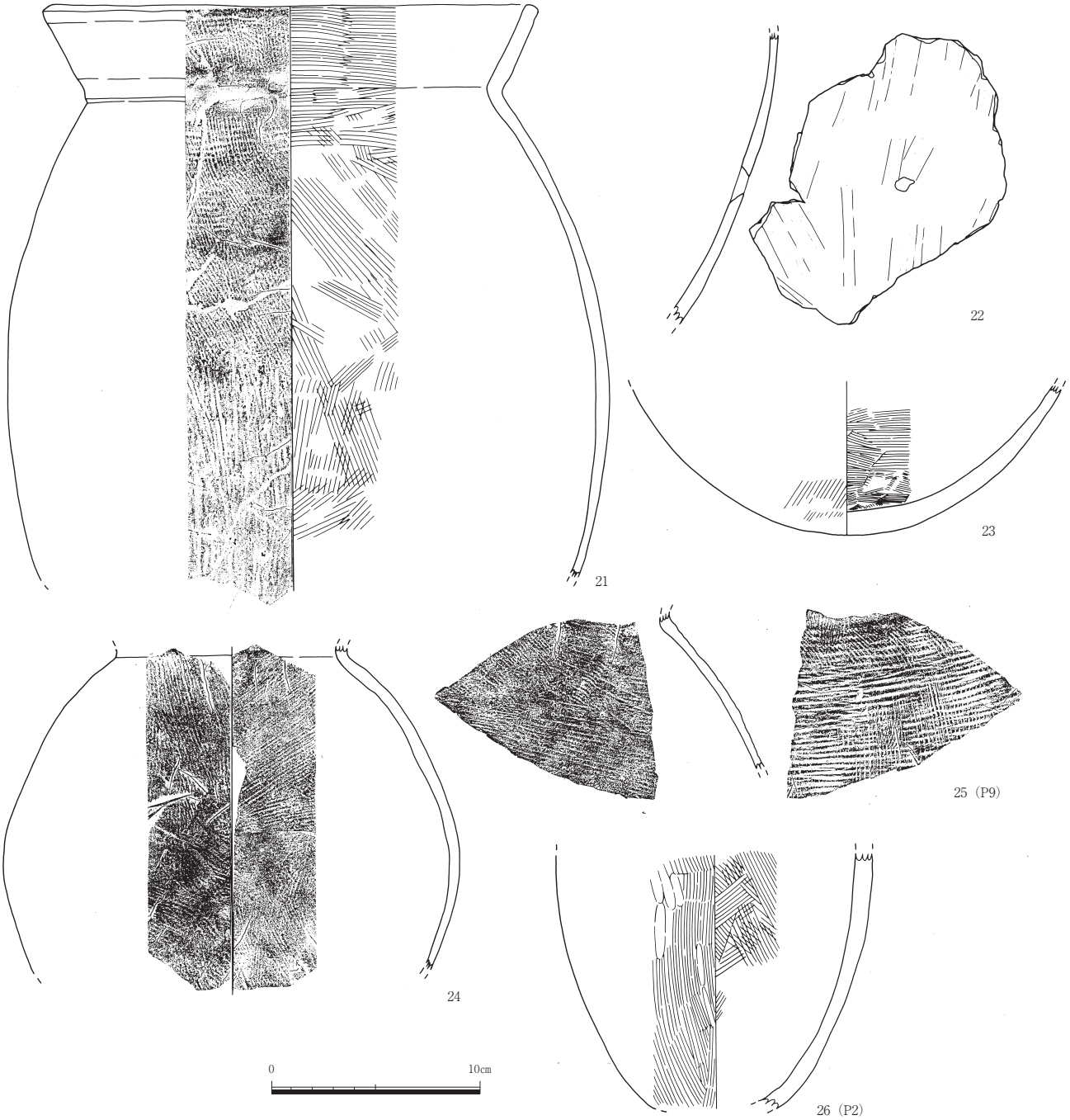
出土遺物（第12図）　1～3はSP2040出土である。1は弥生時代中期の甕破片である。2は内外面刷毛目を行う。3は外面タタキ後の擦痕が残る。4・5はSP2144出土である。4は内外面刷毛目、5は外面タタキの後の擦痕が残り、内面は磨滅が進むがヘラ削りを行う。6はSP2150出土である。大型の甕口縁部である。橙色を呈し内外面刷毛目を行い、口縁端部に刺突による連続的な文様を施す。7はSP2155出土で、外面に帯状の突帯を貼付し、内外面刷毛目による。



第13図　SC0201実測図（1／60）



第14図　SC0201出土遺物実測図1（1／3）

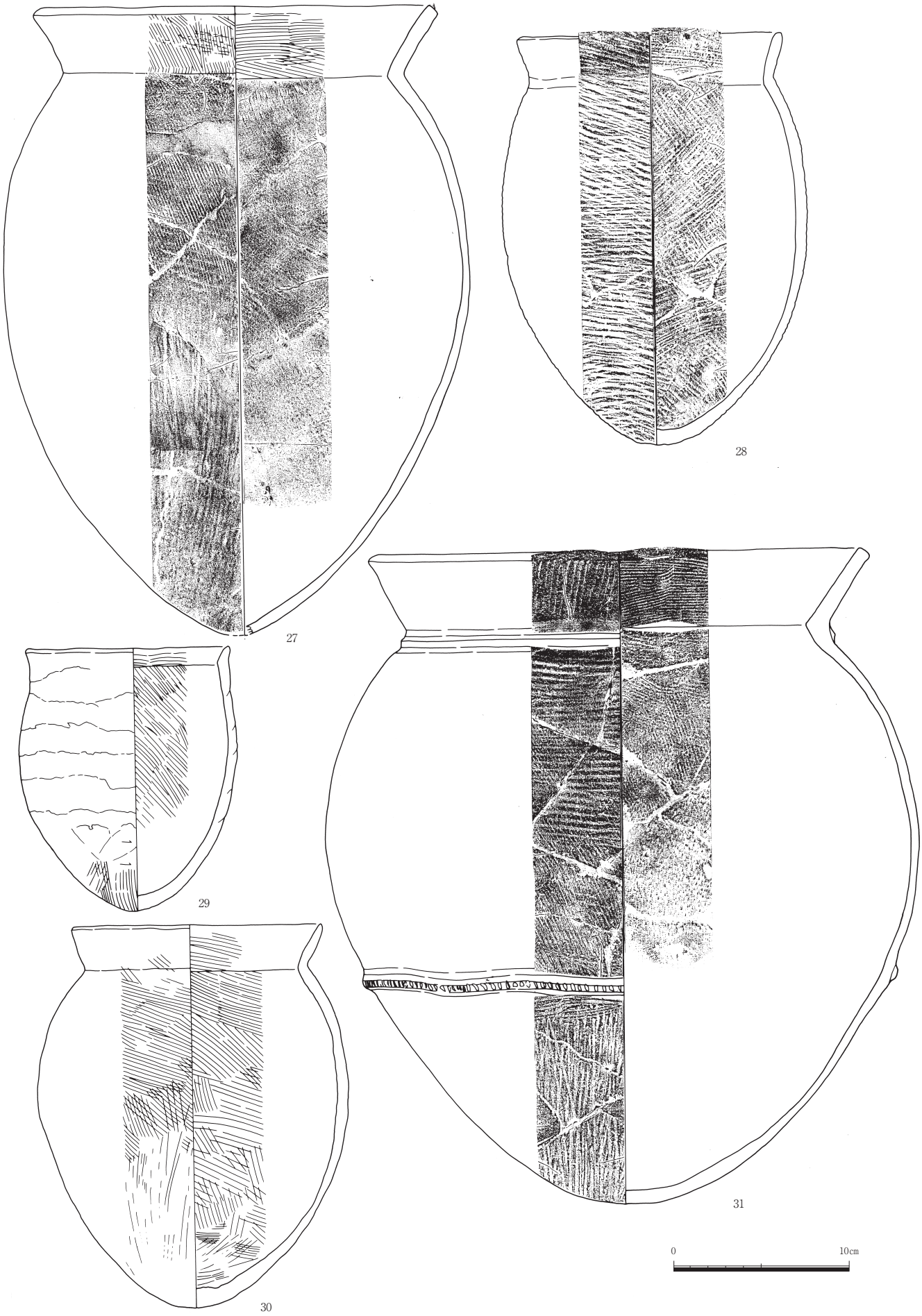


第15図　SC0201出土遺物実測図2（1／3）

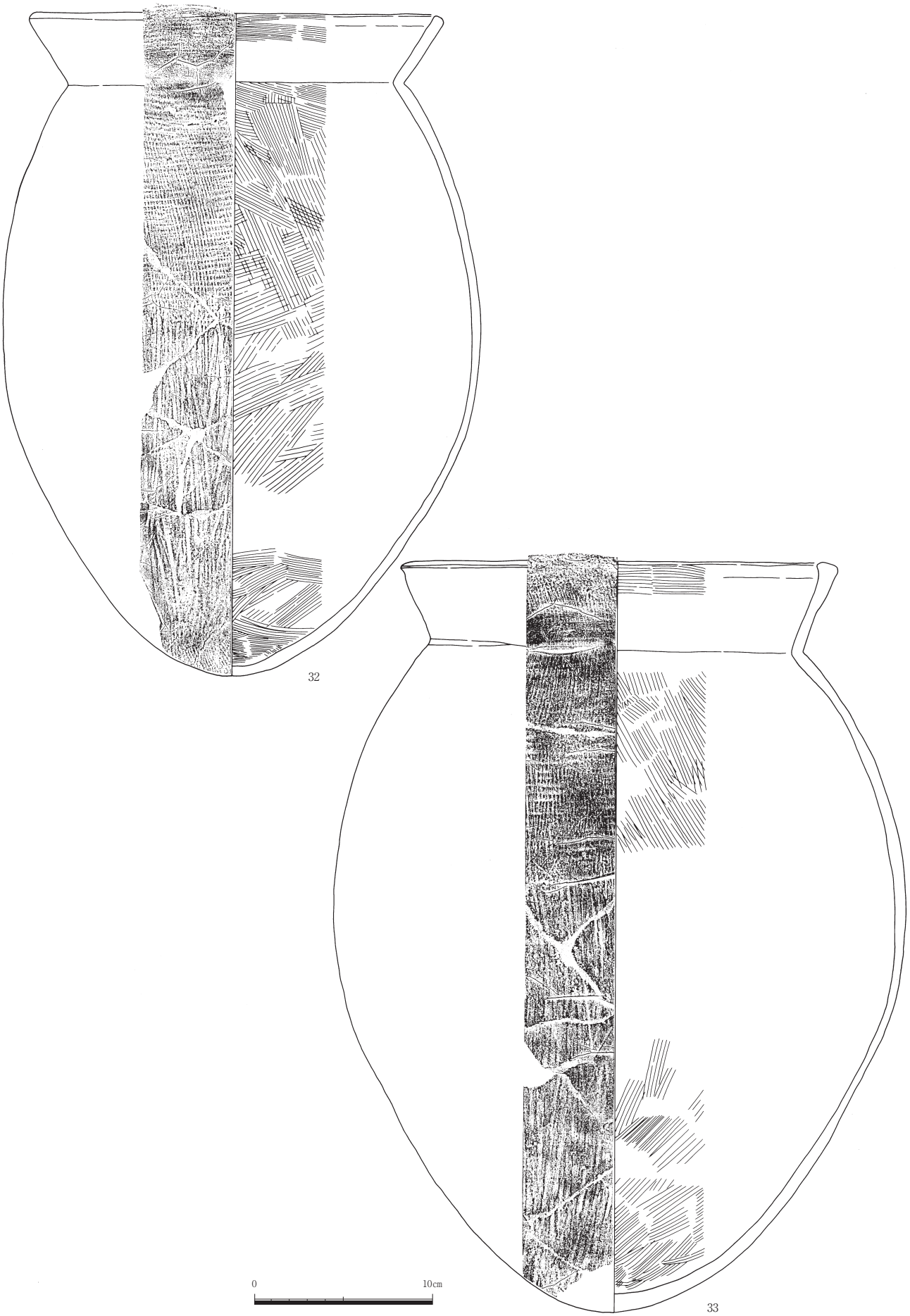
（2）竪穴住居跡（SC）

SC0201（第13図、写真26～34）

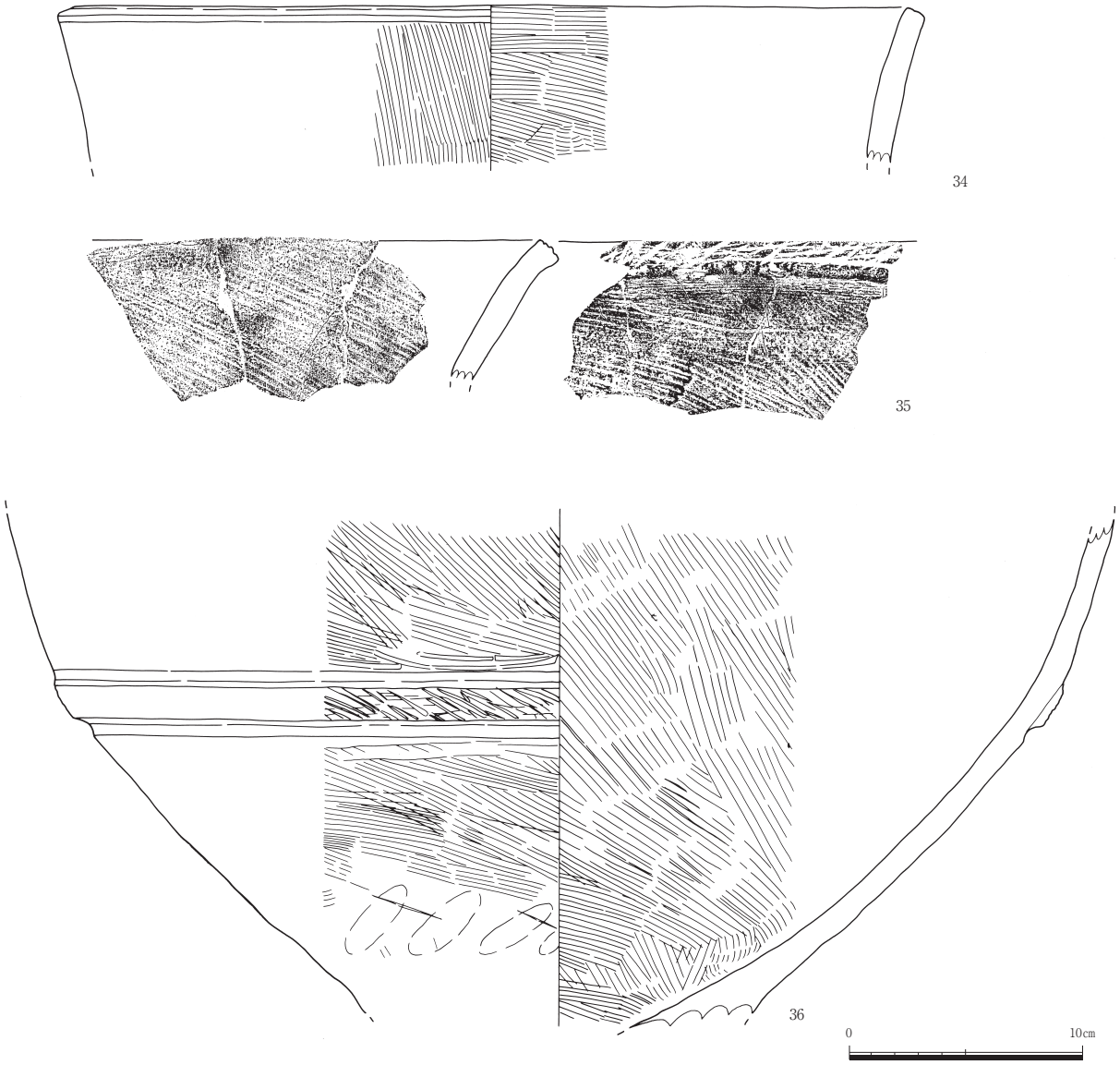
調査区西側で検出する。1区検出のSC23・24の東側に主軸を揃える大型の竪穴住居跡である。埋土は黒褐色土、主軸はN－78°－Wで、長軸10.8m、短軸7.8mの平面隅丸長方形を呈する。床面両短辺側には幅1m、高さ15cmほどの盛土によるベッド状遺構を作り、西側小口部分はL字状に南壁沿いに折れ曲がる。盛土はにぶい黄色土と灰黄褐色土の1：2混合土による。床面には貼り床が行われ、内部に間仕切り状の小溝が断続的に残る。床面中央部に直径50cm、深さ10cmを測り、南側壁面に被熱痕跡が残る掘り



第16図　SC0201出土遺物実測図3（1／3）



第17図　SC0201出土遺物実測図4（1／3）

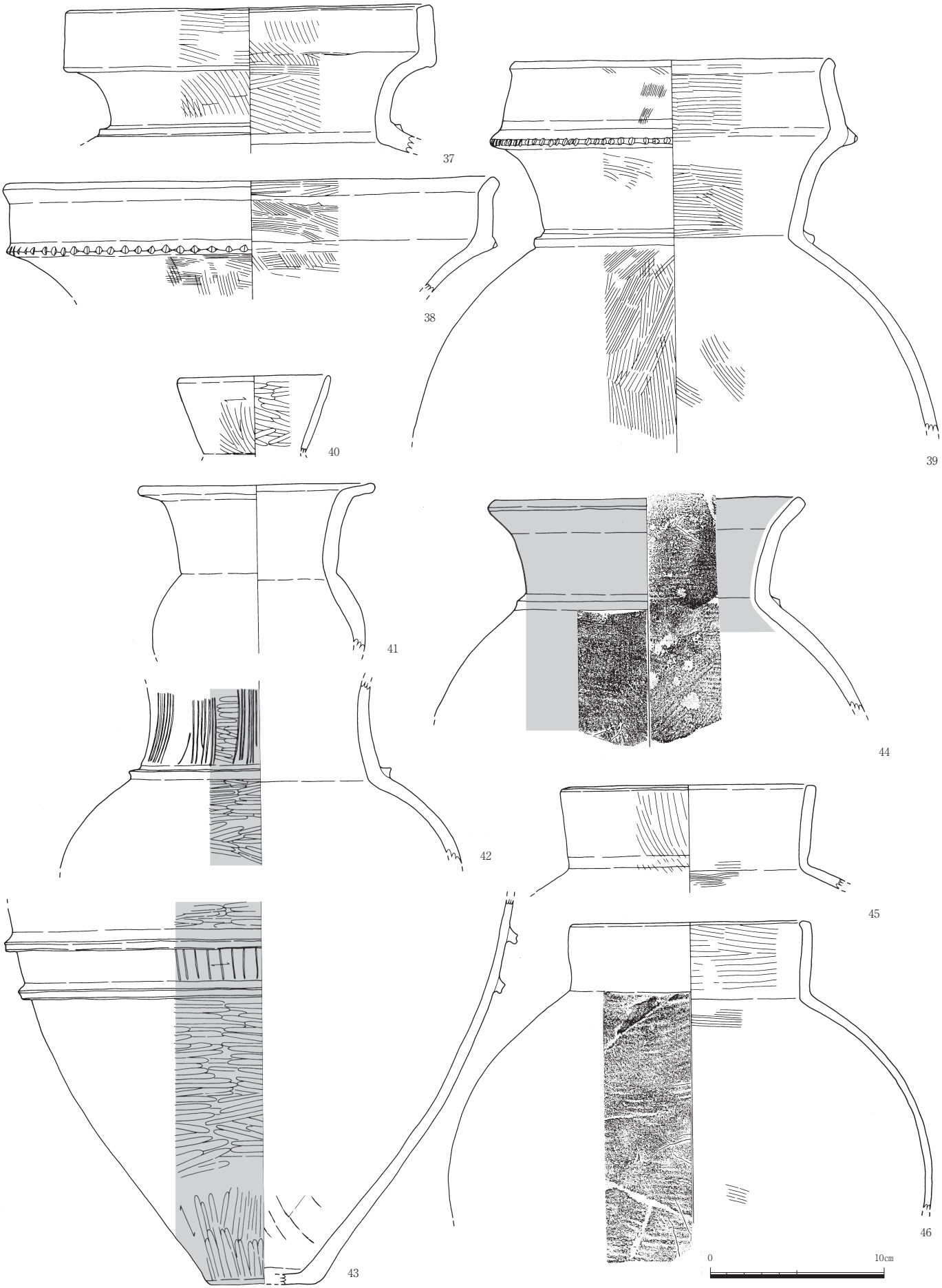


第18図　SC0201出土遺物実測図5（1／3）

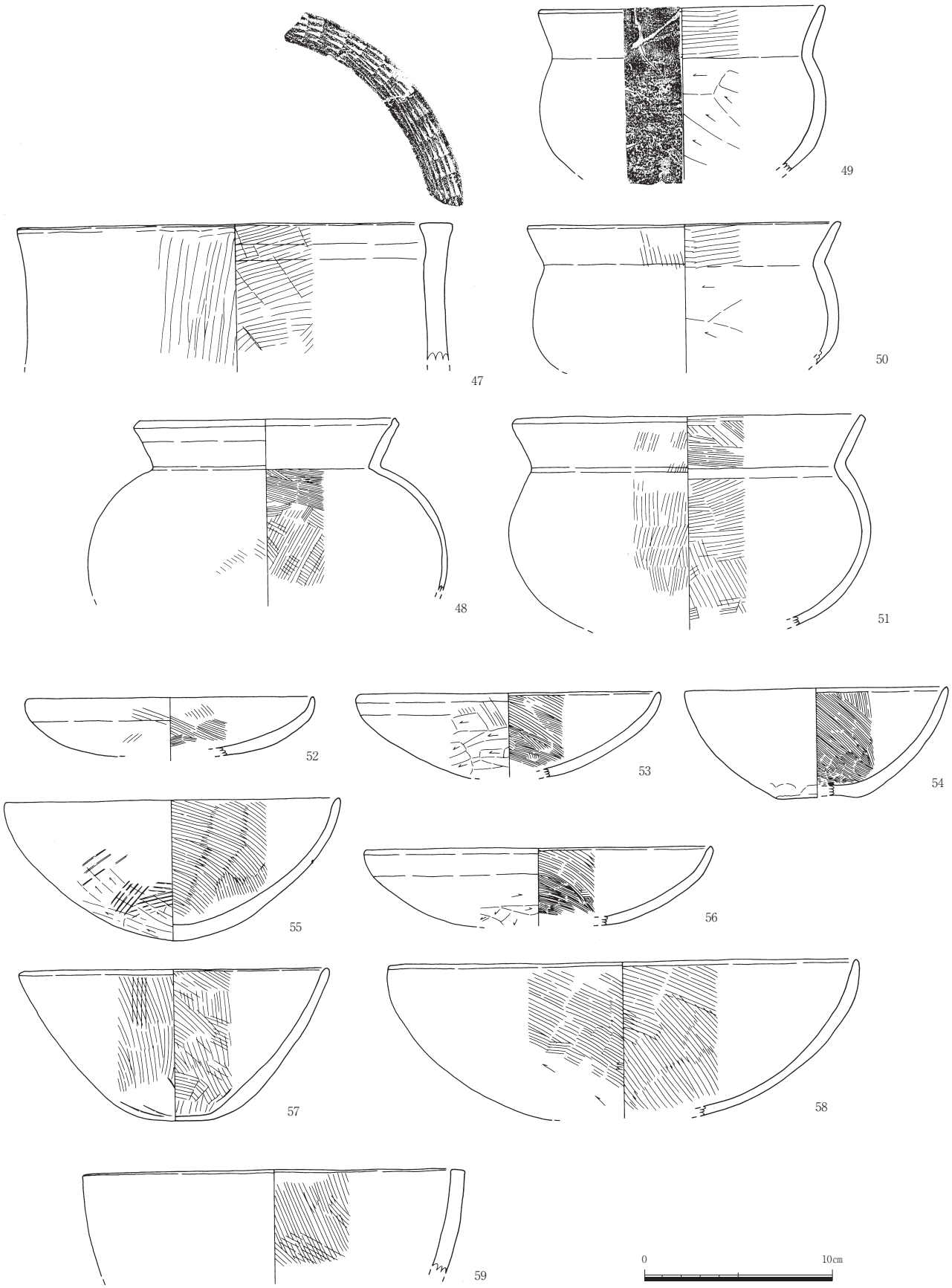
込みがあり、炉跡と考えられる。また、その北側には炭混じりのしまりのない黒褐色土を埋土とする不定形坑が残っており、炉内からの炭化物をかき出したものであろう。主柱は2本柱と考えられるが、掘り込みは40～60cmほどで柱痕跡も認められない。埋土・床面から多量の遺物が出土している。土器は甕の破片が主体を占め、ほかに壺・高坏・椀・支脚等が出土するが完存するものはない。また、その他鉄器、石器の破損品も出土している。

1区SC23・24とほぼ主軸を揃えた配置をとり、1区SC23との間隔は4m程度に復元できる。また、各住居は平面規模・ベッド状遺構の配置方法などの屋内構造も近似性が高い。集落の中心的な住居跡群と考えられるが、機能や各住居の共時性等についてはなお検討の必要がある。古墳時代初頭～前期に位置付けられる。

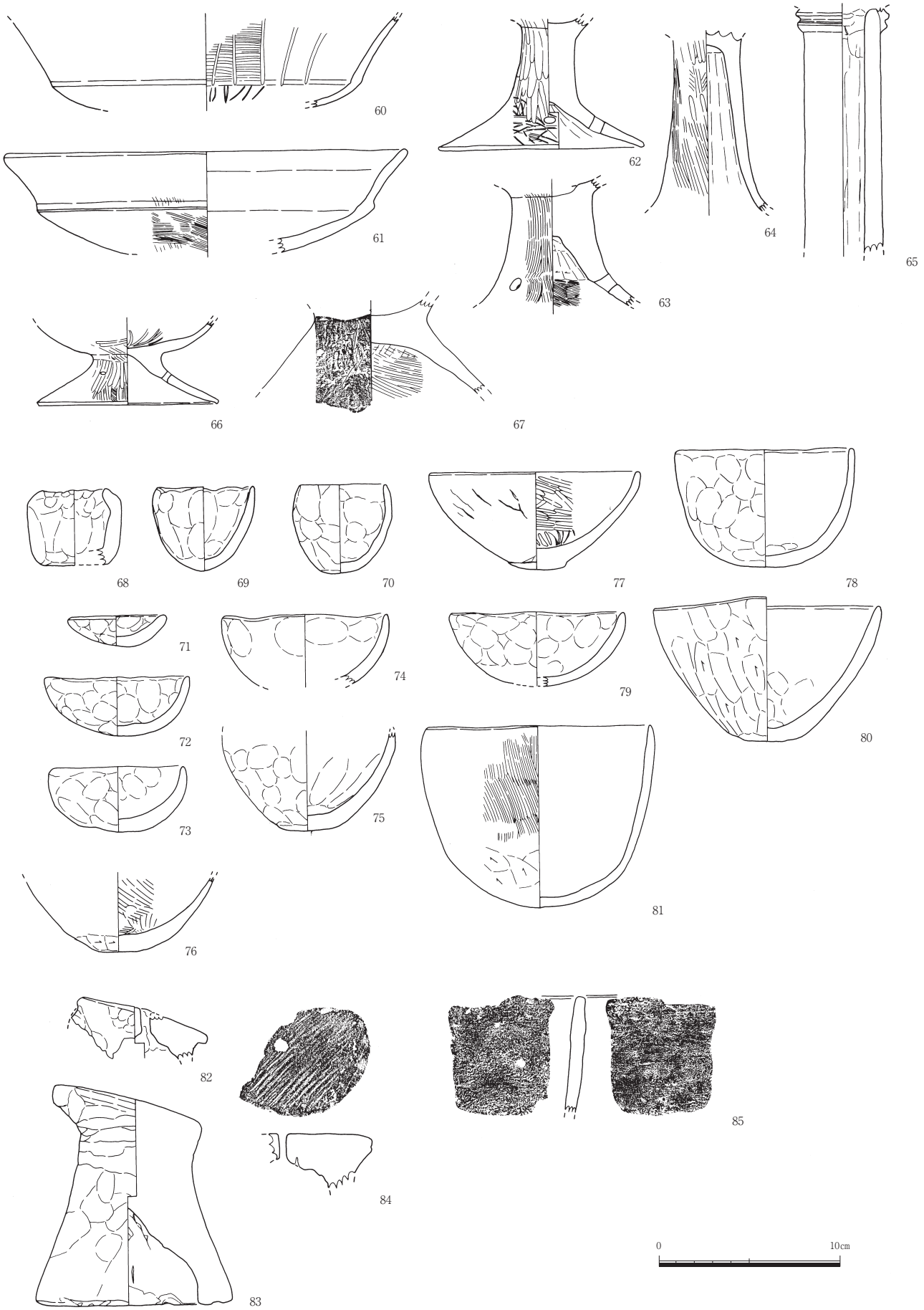
出土遺物（第14～22図、写真318～320・354・356）　出土遺物の大半は破損品であり、完存するものはほとんどない。また器面には煤が付着するものが多い。8～36は甕である。甕の大半が在地の長胴甕である。調整の基本は口縁部および胴部内面は刷毛目、外面は口縁部～胴部外面上半にはタタキの後



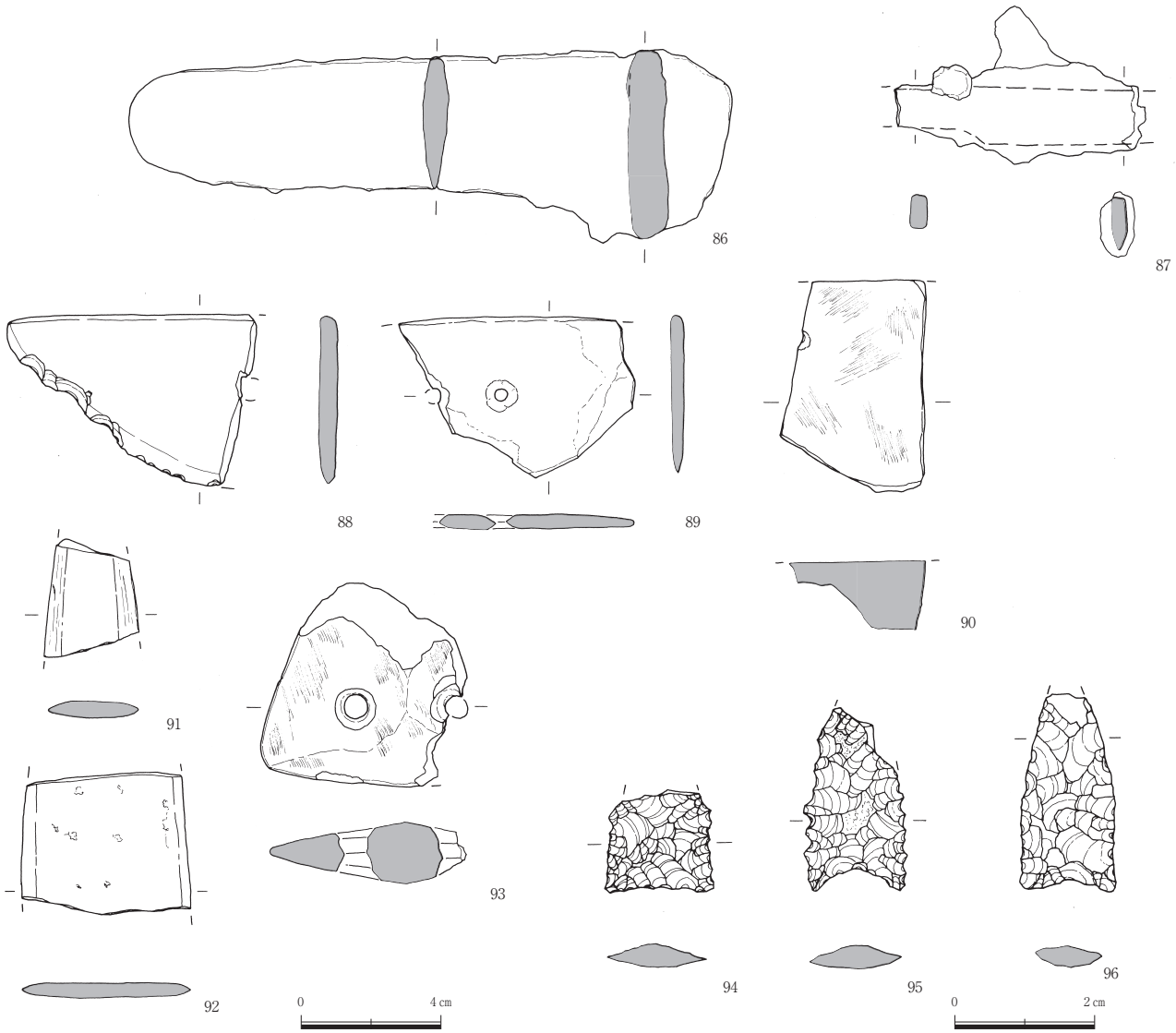
第19図　SC0201出土遺物実測図6（1／3）



第20図　SC0201出土遺物実測図7（1／3）



第21図　SC0201出土遺物実測図8（1／3）



第22図　SC0201出土遺物実測図9（94～96は1／1、その他は1／2）

刷毛目、胴部下半は擦痕状の削りを行うものである（12～14、16～18、20、21、25、27、31～33）。口縁部はく字形に屈曲し、胴部形態は最大径を上部に有し、底部は尖底に近い丸底もの（27）から、胴部中位に最大径を有し、底部はより丸底になるもの（32・33）がある。19・23・24・26・30は内外面刷毛目による。22には外面からの焼成後の穿孔が行われ、23は内面に螺旋状の刷毛目を行い、外面は被熱によりにぶい橙色を呈する。28は部分的に欠失する部分があるが完形に近い。外面は横方向のタタキの後右下がりのタタキを行う。内面は部分的に当て具痕が残るが、全面に刷毛目が施される。この甕には被熱痕跡・煤の付着が認められない。29は粘土紐の積み上げ痕跡を明瞭に残す。調整は外底部及び内面に刷毛目が認められる。31は頸部と胴部に突帯を貼付する。34は口縁破片。35・36は同一個体と考えられる。ともに内外面刷毛目により、胴部下位には突帯を貼付する。37～39は複合口縁壺である。40は小型壺で外面縦刷毛、内面横ミガキによる。42～44は弥生時代中期後半以降の丹塗り土器。46は直口壺である。胴部は外面タタキの後刷毛目、内面は刷毛目による。47は口縁部破片、48～51は鉢、52～58は坏である。59は口縁部破片で内面および端面に刷毛目を行う。60～65は高坏である。坏部は上位で屈曲する。また、62は4か所・63は3か所脚裾部に穿孔を行う。66・67は脚部破片である。68～81は椀である。

82～84は支脚である。85は縄文土器深鉢である。86は床面から出土した鉄器である。片刃であるが切先は丸みを帯び関や基部の折り返しは認められない。87は鉄刀子破片である。88～96は石器である。88・89は石包丁、90は砥石、91・92は石剣の破損品である。93は蛇紋岩製の石戈の基部破片である。94～96は黒曜石製石鏃である。

SC0202（第23図、写真35～39）

調査区中央で検出する。主軸はＮ－12°－Ｗにとる。長軸7.2ｍ程度に復元でき、短軸は5.2ｍの平面隅丸長方形を呈する。埋土は黒褐色土で床面中央付近には炭化物が広がる（第10図24層）。また、北側および東側壁沿いには幅1ｍ程の盛土によるベッド状遺構が作られる。盛土はにぶい黄色土と灰黄褐色土の1：3混合土による。また同様の埋土で床面全面に貼り床が行われている。床面中央には直径80㎝、深さ15㎝ほどの浅皿状の掘り込みが残り、炭混じりの黒褐色土が堆積している。その北側床面には微細ながら被熱痕跡が残っており、炉跡周辺であることが想定できる。主柱は2本柱と考えられ、このうち北側のみを確認している。また、ベッド状遺構脇の床面に小壺（97）が据えられていた。古墳時代初頭～前期に位置付けられる。

出土遺物（第23図、写真320・354）　97は口縁部の1／2を欠く二重口縁壺である。胴部は下膨れ気味で外面に刷毛目を行う。98は直口壺である。胴部は球形に近く中位に最大径を有する。内外面に刷毛目を行い、外面下半は削りを施す。底部内面は指押さえによる押し出しを行う。99は長胴甕である。口縁部および胴部内面は刷毛目、外面は口縁部～胴部外面上半にはタタキの後刷毛目、胴部下半には削りを行う。外面下半には煤が付着する。100は裾に3か所穿孔を有する高坏脚部。101は支脚で外面にはタタキを行う。102は鉄刀子破片である。

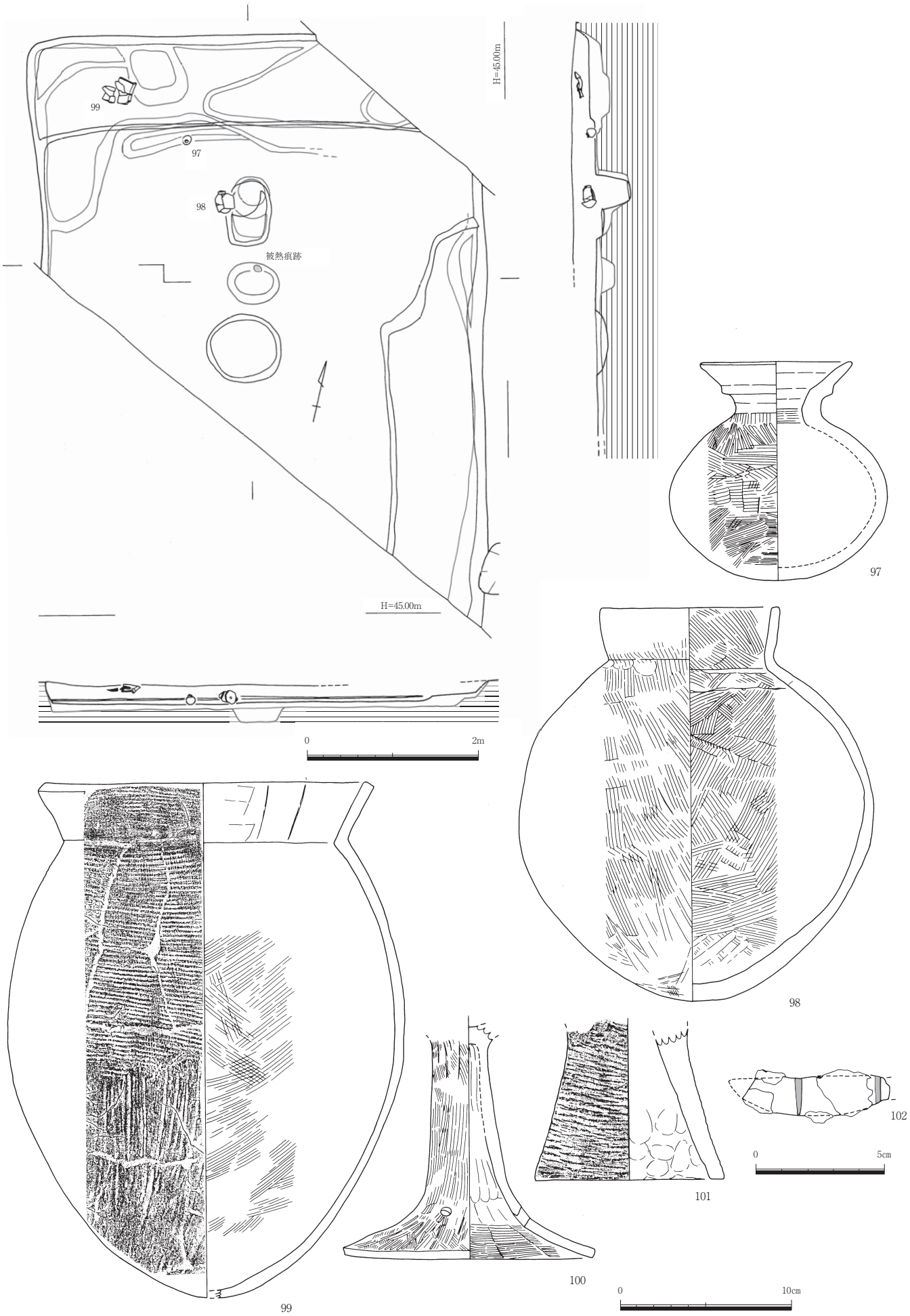
SC0203（第24図、写真40）

調査区東側で検出する。主軸はＮ－16°－Ｗにとる。南北長6.2ｍ以上、東西長5.7ｍ以上の平面隅丸長方形もしくは方形を呈する。SC0202の3ｍほど東側にほぼ主軸をそろえて並び、これより東側では竪穴住居は認められない。埋土は黒色土で南壁沿いには幅90㎝、高さ4～10㎝の削り出しのベッド状遺構を備える。床面はほぼ平坦であるが、北側壁沿いには深さ30㎝ほどの掘り込みが残る。埋土に炭化物の広がりはなく、炉跡・主柱等は確認していない。甕・壺・椀・高坏、鉄器等が出土している。なお、椀形鍛冶滓（116）が1点出土しているが、本遺構に伴うものではなく埋土上面からの遺構に含まれていたものと考えられる。古墳時代初頭～前期に位置付けられる。

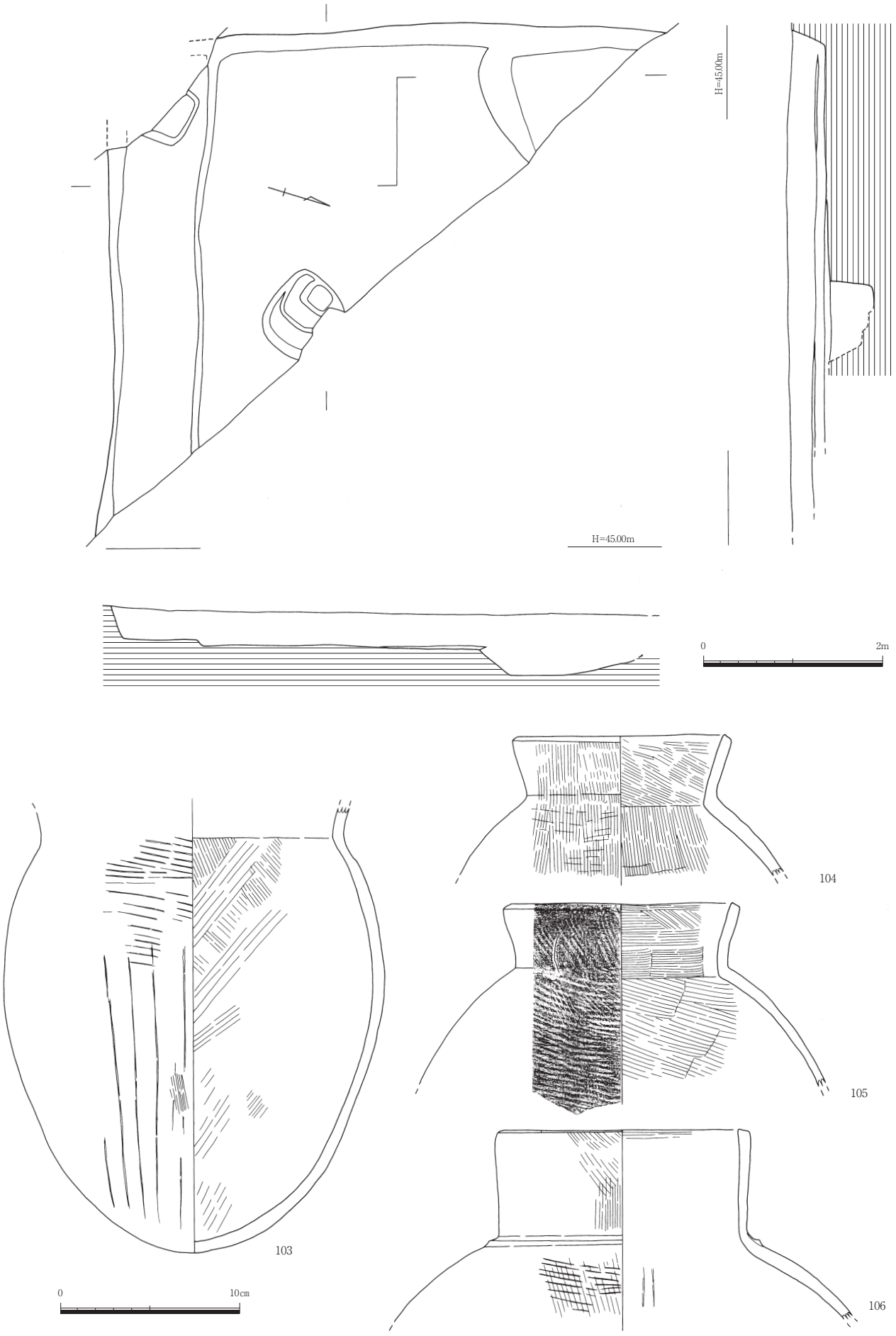
出土遺物（第24・25図、写真320・354）　103は長胴甕である。胴部外面はタタキの後中位以下にヘラ削りを行い、内面は刷毛目である。外面全体に煤が付着する。104～107は口縁部が直立する。胴部外面にはタタキの後刷毛目、内面は刷毛目を行う。107は外面下半にはヘラ削りを行う。108は複合口縁破片である。109～111は椀である。111は底部に穿孔を有する。112・113は高坏で、113は内面に暗文を有する。114は脚部破片である。115はＶ様式系甕の底部破片である。116は椀形の鍛錬鍛冶滓である。117は鉄鏃である。118は黒曜石製の刃器である。縄文時代早期～前期に位置付けられる。119は小型の残核で、ほぼ全面から縦長剥片を多数剥出したものである。

SC0204（第26図、写真41～43）

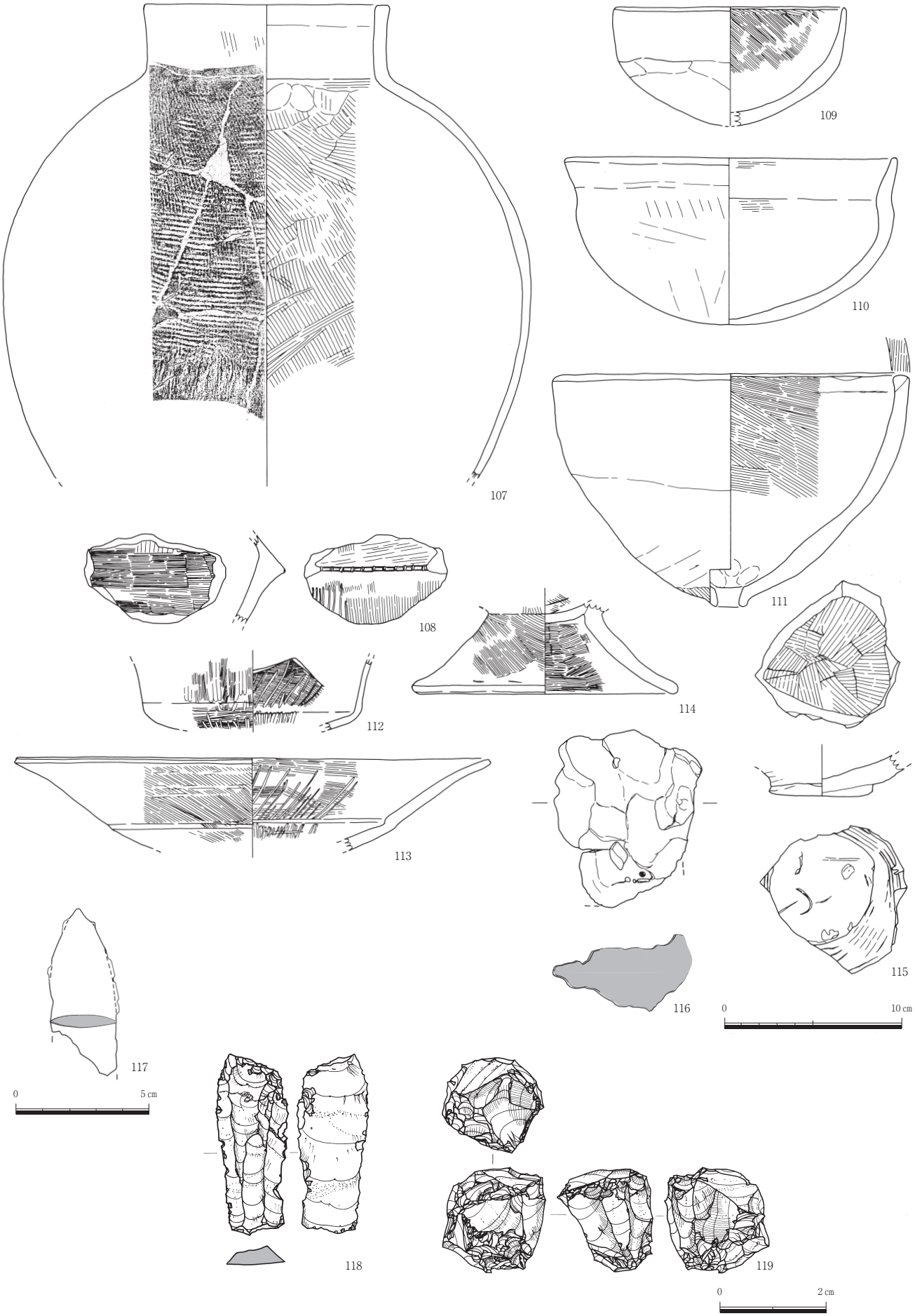
調査区中央で検出する。SC0205と主軸をほぼ揃え、切り合い関係からこれに後出する竪穴住居跡である。主軸はＮ－75°－Ｅにとり、長軸6.5ｍ、短軸5.1ｍの平面隅丸長方形に復元できる。埋土は黒褐色土で、西壁沿いには黒褐色土とにぶい黄褐色土の3：1混合土により、幅1ｍのベッド状遺構が作られる。また東壁沿いには幅1.3ｍ、深さ20㎝ほどの掘り込みを有する。床面全体にベッド状遺構と同様の埋土での貼り床が行われている。主柱はP3とP4の2本柱で、主柱間のP2が炉跡状の施設と考えられるが、



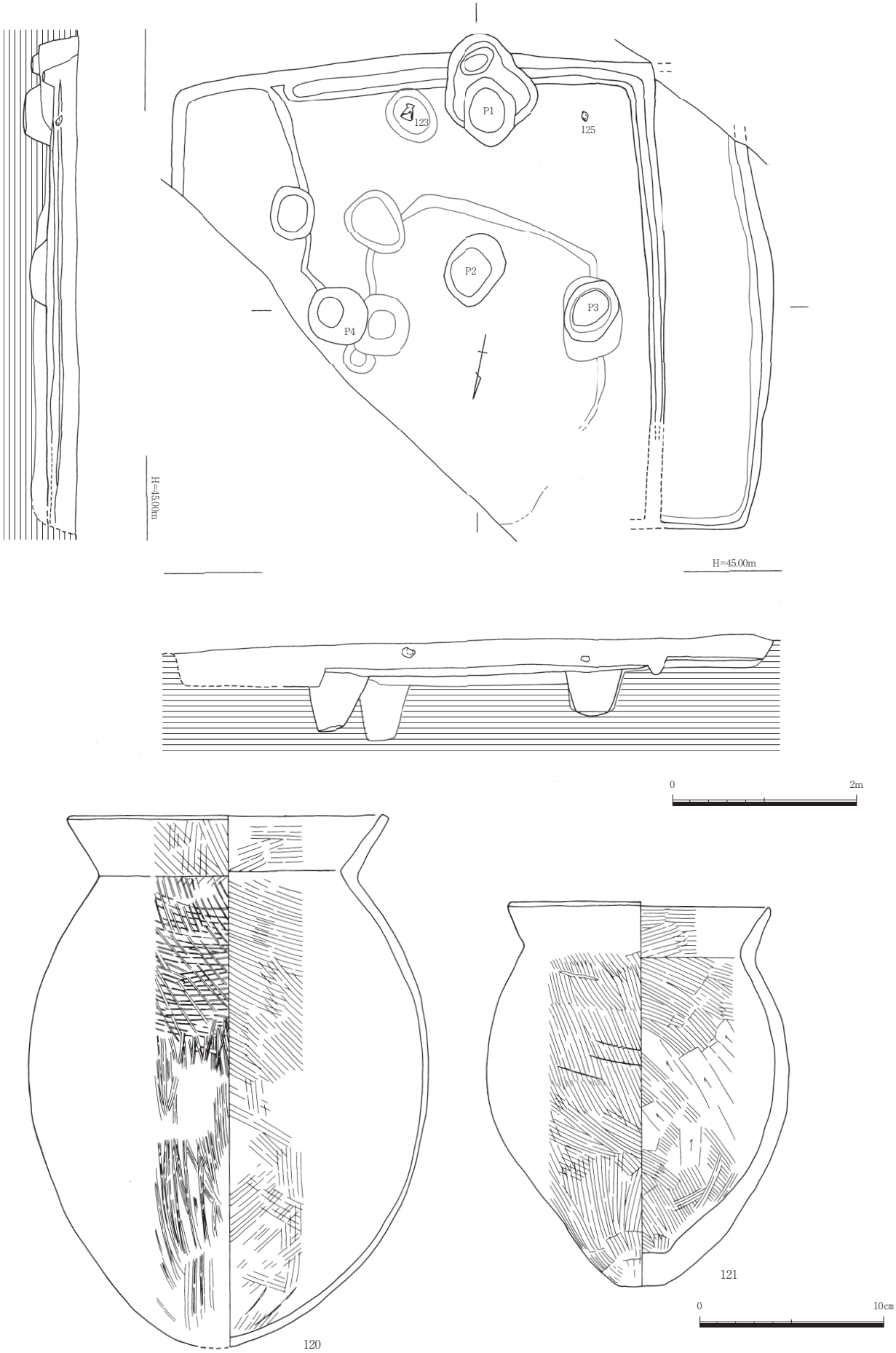
第23図　SC0202及び出土遺物実測図（1／60、102は1／2、その他は1／3）



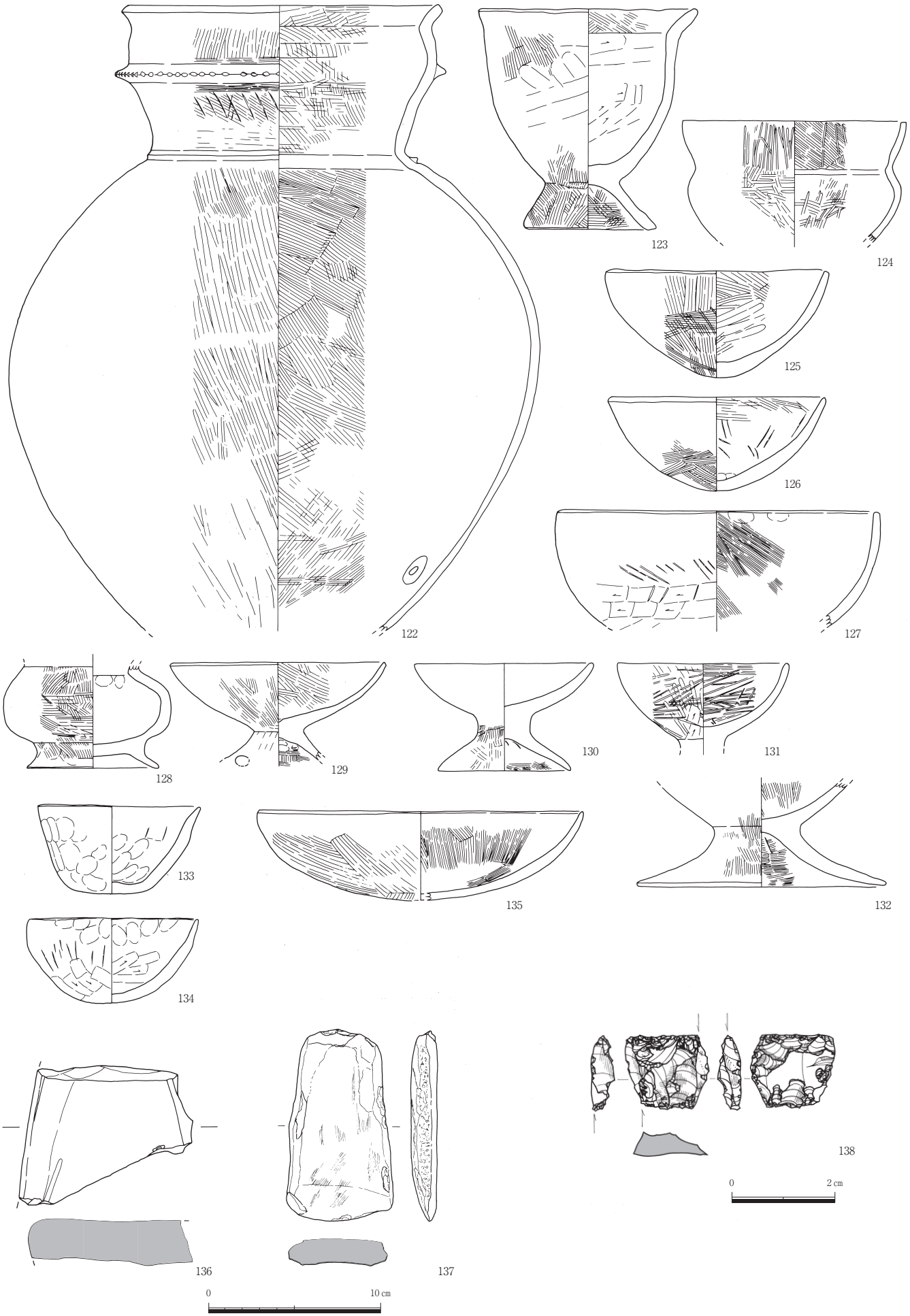
第24図　SC0203及び出土遺物実測図1（1／60、1／3）



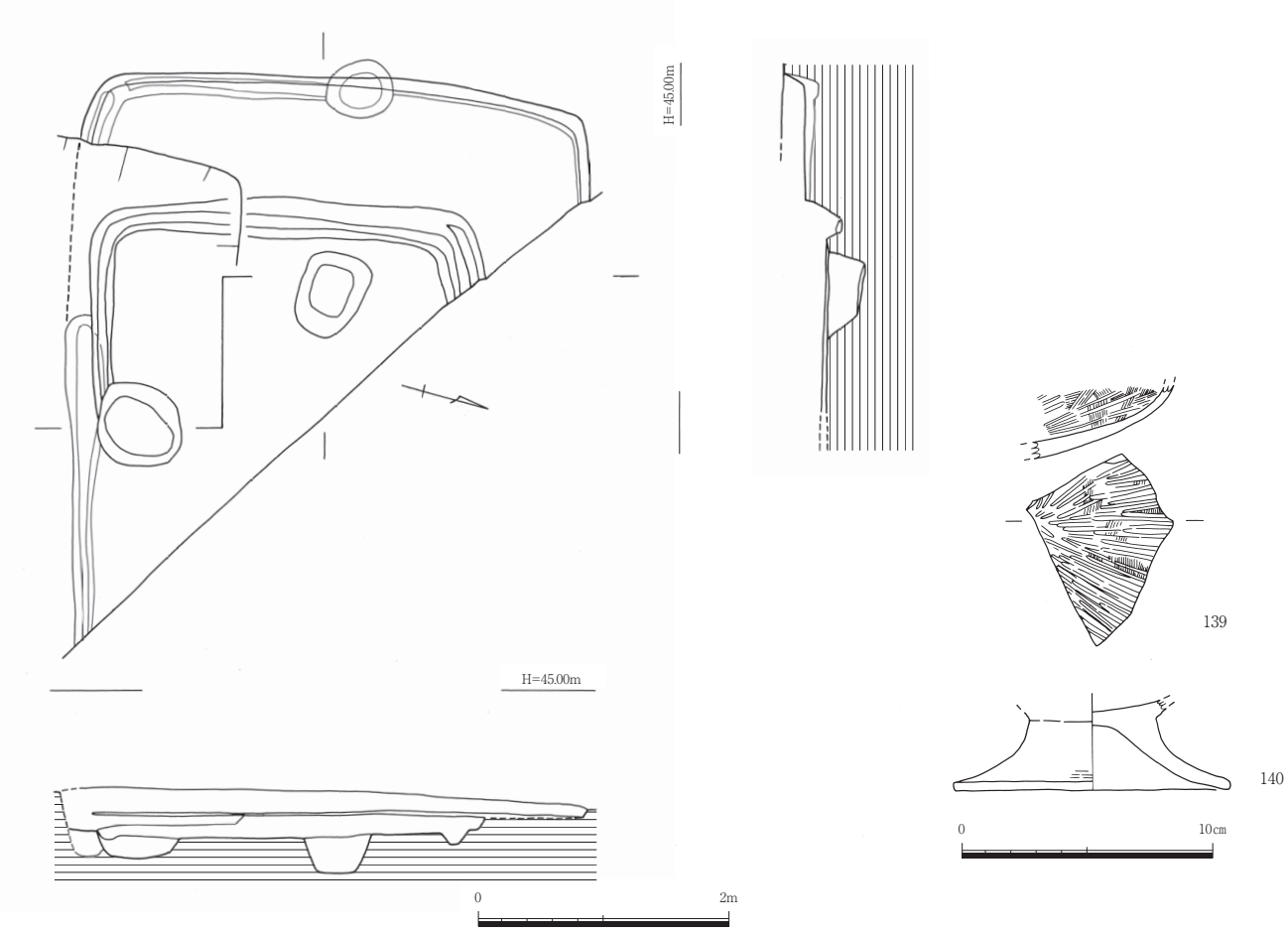
第25図　SC0203出土遺物実測図2（118・119は1／1、117は1／2、その他は1／3）



第26図　SC0204及び出土遺物実測図1（1／60、1／3）



第27図　SC0204出土遺物実測図2（138は1／1、その他は1／3）



第28図　SC0205及び出土遺物実測図（1／60、1／3）

被熱痕跡や炭化物は認められない。また、南壁中央に掘り込み（P1）が認められるが、竪穴住居跡に伴う施設であるかは不明である。出土遺物はコンテナ3箱程度で、甕・壺・椀等のほか石器が出土している。床面よりわずかに浮いて脚付き椀（123）が出土している。古墳時代初頭～前期に位置付けられる。

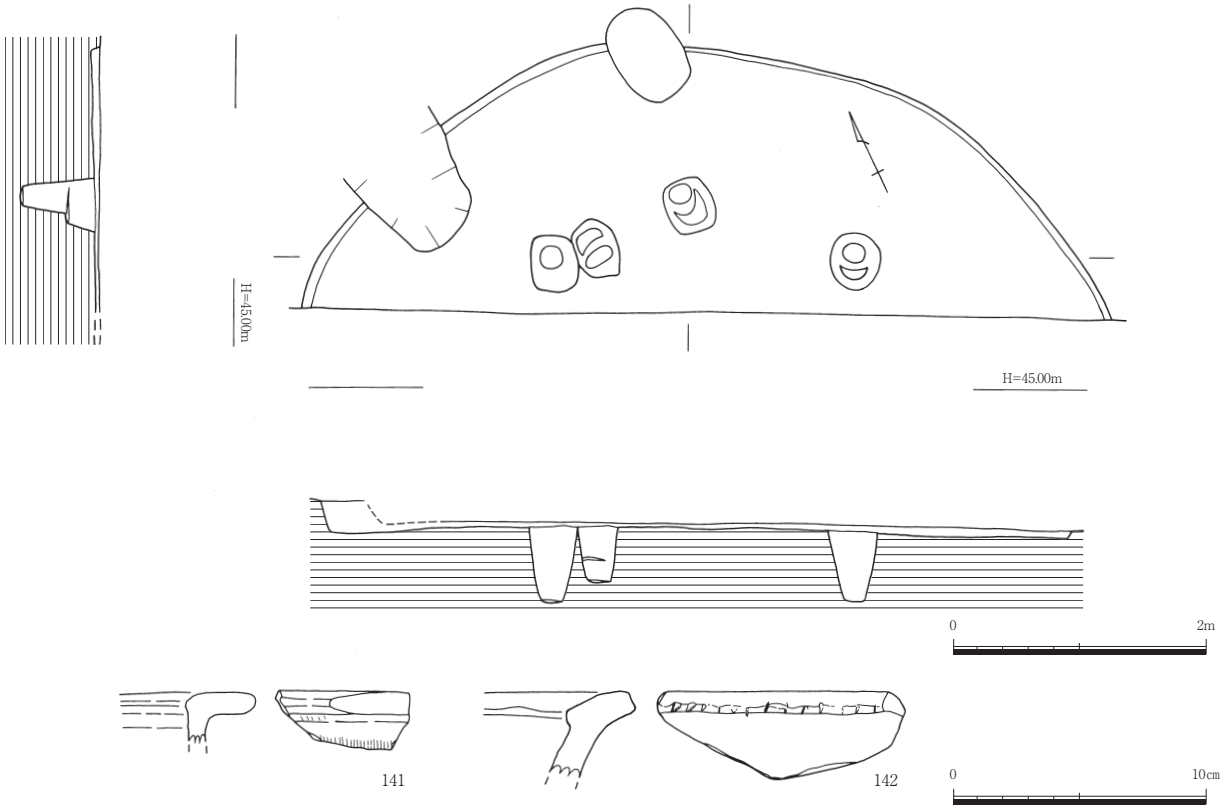
出土遺物（第26・27図、写真321・356）　120・121は長胴の甕である。120は胴部中位に最大径を有し、外面は中位よりヘラ削りを行う。胴部内面は刷毛目を行うが、底部付近は指押さえによる。121は底部が直径2.5cmほどの平底となる。内外面刷毛目によるが内面は一部ヘラ削りとなる。122は複合口縁壺である。口縁部先端は屈曲し外反する。頸部外面に刺突文を施す。胴部外面中位以下はヘラ削りが刷毛目状となる。胴部下位に外面からの穿孔が行われる。123は脚付き鉢である。刷毛とナデによる調整を行う。124は橙色を呈する精製の小型鉢である。125～127・133・134は椀である。128～132は脚付き椀類である。135は坏である。内面は細かい刷毛目、外面は粗い刷毛目を施す。136は砥石である。137は裏側半分を失った石斧である。基部付近に緊縛による抉りが残っている。138は黒曜石製の削器である。縄文時代中期後半～後期のものか。

SC0205（第28図、写真41・42）

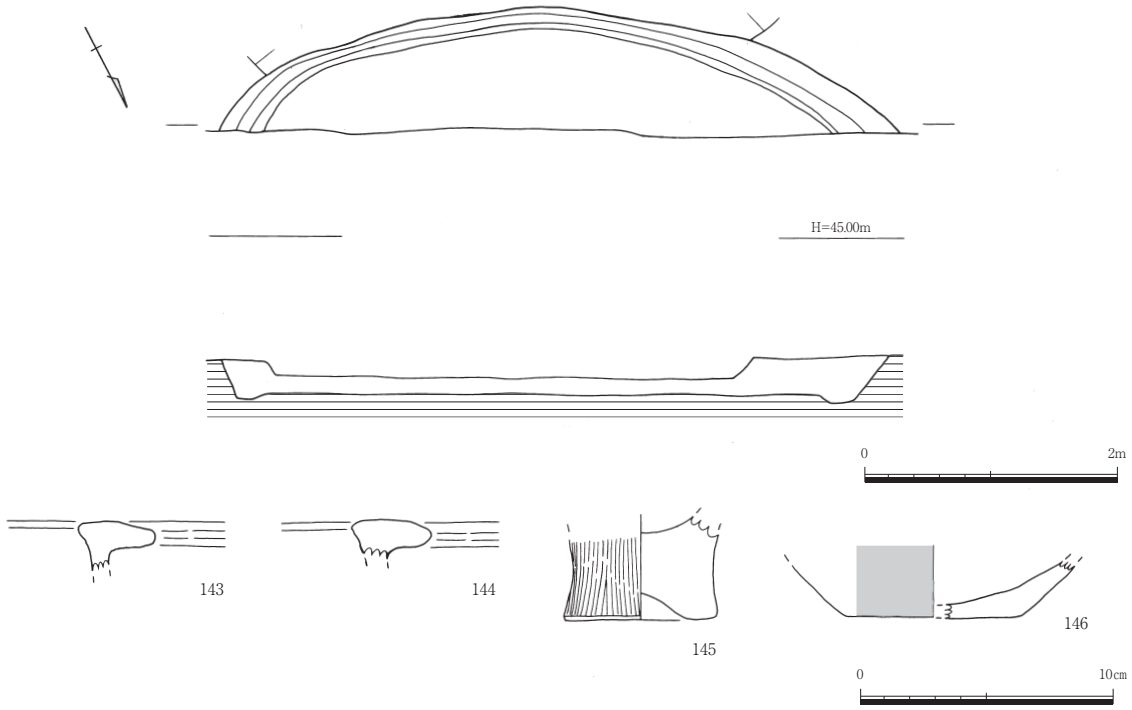
調査区中央で検出する。SC0204と主軸をほぼ揃え、これに先行する竪穴住居跡である。主軸はN－75°－Eにとり、長軸4.5m、短軸4mの平面隅丸長方形に復元できる。埋土はやや淡い黒褐色土で、西壁～北壁沿いには黒褐色土とにぶい黄褐色土の3：1混合土により、幅1m弱のベッド状遺構が作られる。出土遺物はコンテナ1箱程度で、甕・椀等の小破片が出土している。古墳時代初頭～前期に位置付けられる。

出土遺物（第28図）　139は精製の椀破片である。内面に刷毛目、外面に縦方向の暗文が残っている。

SC0207



SC0208



第29図　SC0207・0208及び出土遺物実測図（1／60、1／3）

140は明橙色を呈する脚部破片である。径2㎜程の石英砂粒を多く含む。

SC0207（第29図、写真44～46）

調査区中央で検出する。SC0202に切られ、下面の明黄褐色土上面で確認した。調査区内では直径6.4m程の円形住居跡の1／3を確認している。埋土は上層が暗褐色土で、下層がオリーブ褐色土及び黒褐色土である（第10図26～28層）。床面は平坦で、主柱穴の一部を検出している。出土遺物は破片が少量出土するのみである。弥生時代中期前半～中頃に考えておきたい。

出土遺物（第29図141・142）　141は断面逆L字形の口縁部小破片である。142は口縁部上面に粘土帯を貼付し、端面には刻み目を施す。

SC0208（第29図、写真47）

調査区中央で検出する。SC0207の北側に位置し、これと同様に灰黄褐色土（3層）の遺構面を掘り下げた明黄褐色土上面で確認した（下面）。調査区内では円形竪穴住居の南側の一部を確認し、調査区内では直径6.4mである。埋土は黄褐色土で、壁際には壁溝を掘削しているほかは住居内施設は確認していない。出土遺物は破片が少量出土するのみで、弥生時代中期前半～中頃であろうか。

出土遺物（第29図143～146）　143・144は口縁部外面に粘土帯を貼付し、断面逆L字形につくる甕の口縁部小破片である。145は上げ底の底部である。裾部分はほとんど張り出さない。146は磨滅が進み表面の剥落が著しいが、丹塗り土器の底部である。

（3）土坑（SK）

SK0209（第30図、写真48）

調査区中央で検出する。SK0210→SK0209の先後関係となる。東西長2.5m、南北長2m以上の隅丸方形～長方形を呈する。深さ40㎝程度で底面はほぼ平坦である。埋土は灰黄褐色土で、底面で検出したピットは黒褐色土である。遺物は小破片が少量であるが、甕口縁部破片等より弥生時代中期中頃に位置付けられる。

出土遺物（第30図147～149）　147は粘土帯の貼付により口縁断面三角形につくり、外端部に刻みを施す。148・149は断面逆L字形を呈し、胴部上位に突帯を貼付する。

SK0210（第30図、写真49）

調査区中央で検出する。SK0210→SK0209の先後関係となり、土坑の北～東壁を検出するのみである。深さは40㎝で壁は斜めに立ち上がる。埋土は灰黄褐色土を主体とし、上層に一部黒褐色土が認められるが、別遺構の可能性も考えられる。遺物は小破片が10片程度出土するのみであり図示し得ないが、弥生時代中期に位置付けられる。

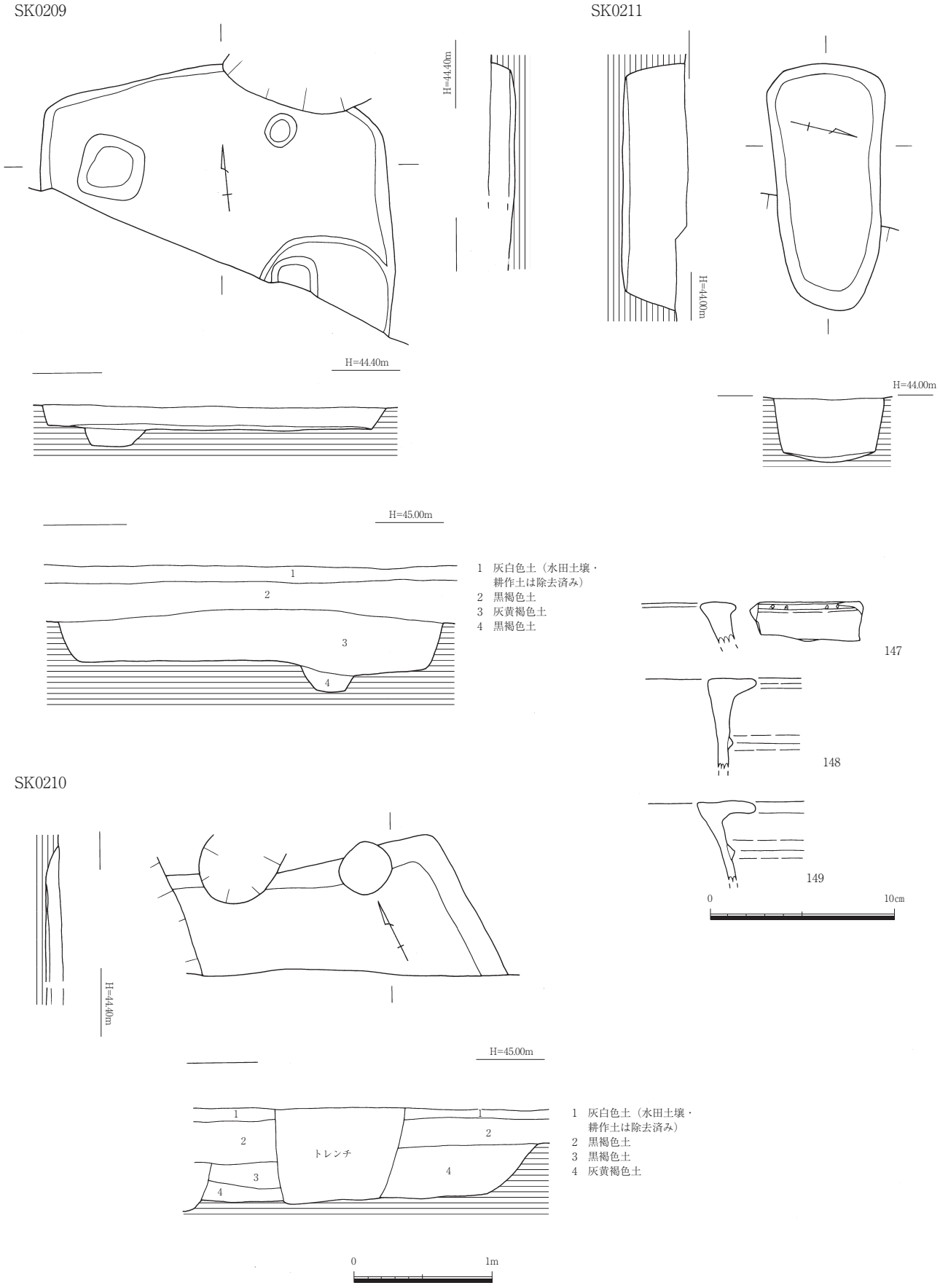
SK0211（第30図、写真50）

調査区中央で検出する。SC0205に切られており、この竪穴住居跡に先行する土坑である。長軸1.8m、短軸0.8mの隅丸長方形を呈する。埋土は暗灰黄色土で、壁はほぼ直立する。底面は砂礫層に掘り込んでおり、やや凹凸が認められる。遺物は小破片が4片出土するのみであり図示し得ないが、内面に刷毛目が認められる破片が含まれている。

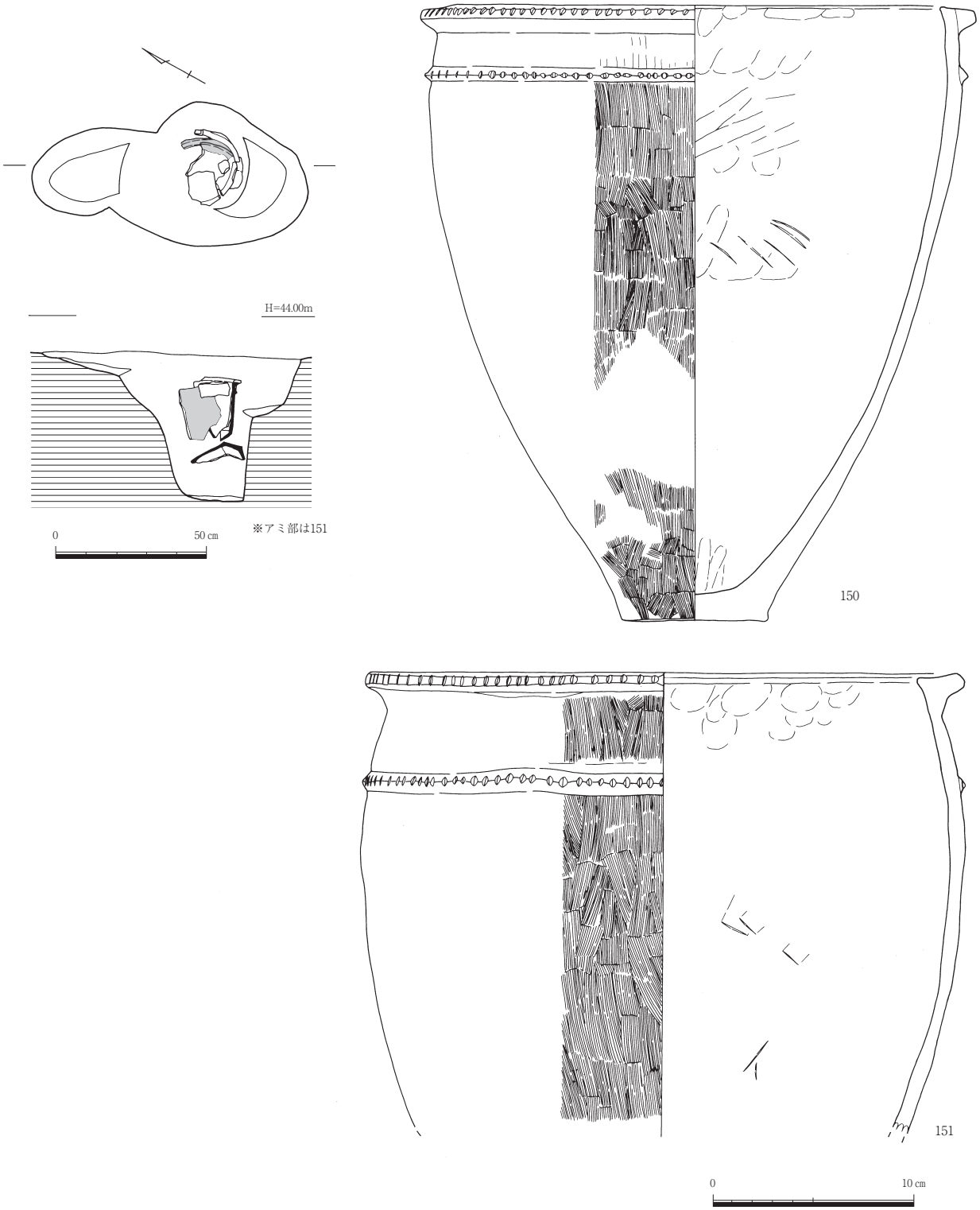
（4）ピット（SP）

SP2094（第31図、写真51・52）

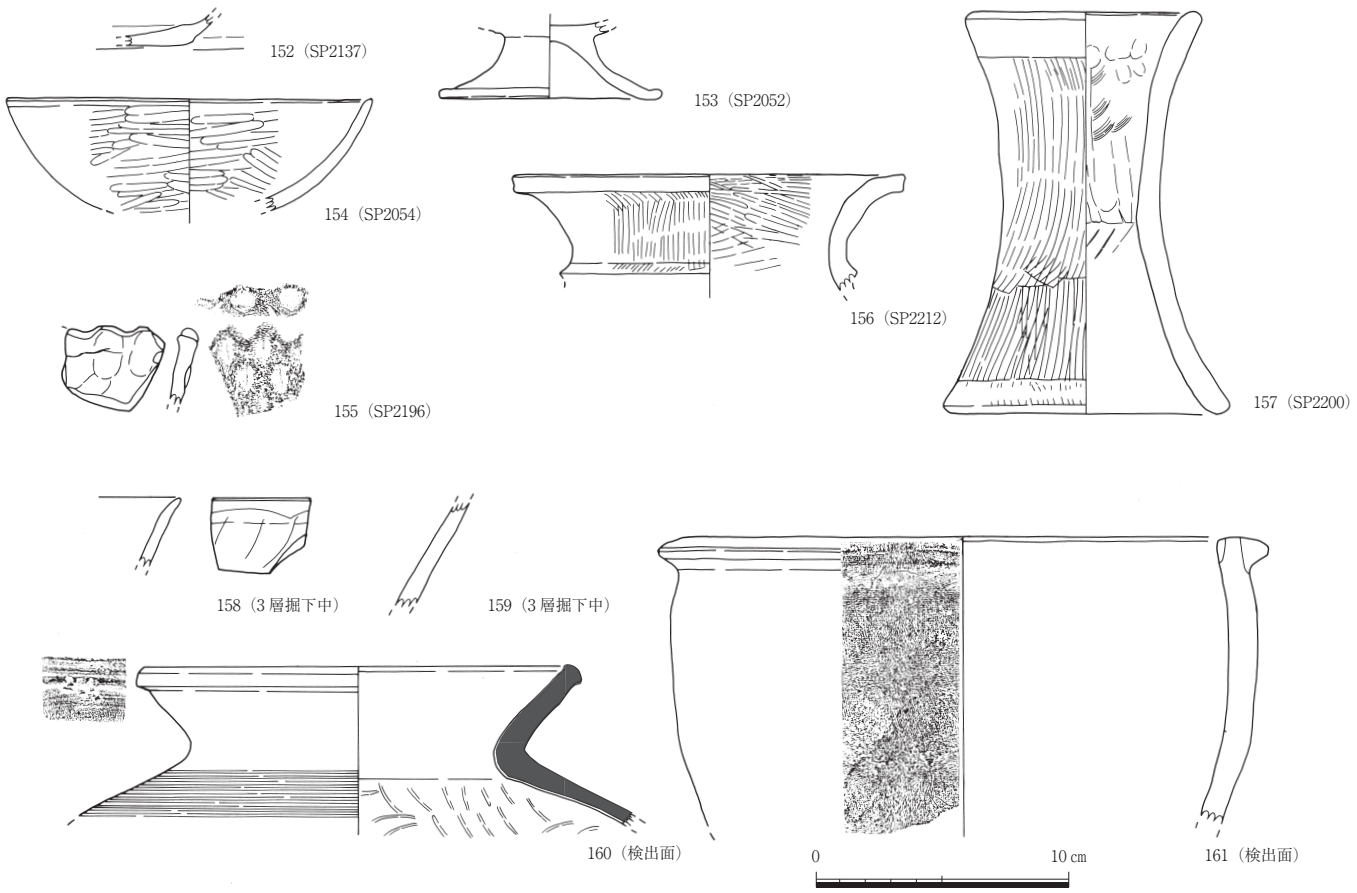
調査区北西側で確認する。本来上面（検出標高44.40m）で確認していたが、作図は遺物の出土状況を確認した下面調査より行っている。埋土は黄灰色土で、平面は長軸90㎝である。断面は北西側よりスロープ状に掘り下げ、中央部分は上面検出面からの深さ90㎝のピット状に掘り込む。掘り込みに添うように甕150の上半部1／2を据え、その内側に甕151の上半部1／5ほどの破片を倒立して据えてい



第30図　SK0209・0210・0211及び出土遺物実測図（1／40、1／3）



第31図　SP2094及び出土遺物実測図（1／20、1／3）



第32図　その他の出土遺物実測図（1／3）

る。また、その下部では甕150の下半部が倒立状態で出土した。甕はいずれも完形とはなっていないが、人為的な埋納が想定できる。なお周辺で掘立柱建物をまとめることはできなかった。

出土遺物（第31図、写真321）　150は胴部の1／4を欠く甕である。器壁は明褐灰色を呈し、外面には煤が付着する。口縁部は粘土帯の貼付けにより断面逆L字形につくる。胴部は砲弾形を呈し、底部は平底である。151は上半部の1／5破片である。口縁部は断面逆L字形である。

（5）その他の出土遺物（第32図、写真343）

概要の項でも述べたように、ピット出土土器は弥生時代中期中頃～末が主体となり、前期末～中期初頭の小破片が少量認められる。また、古墳時代前半代の遺物も認められるが、後期以降の遺物、特に須恵器はごく少量しか認められない。更に中世に位置付けられる遺物も土師器椀皿類や陶磁器小破片が数点程度出土するのみである。ここでピットまたその他調査中に出土した遺物の一部を報告する。

152は土師器皿である。磨滅により調整は不明である。153は脚部破片である。154は土師器椀で内外面横方向のミガキを行う。155は滑石混入の縄文土器口縁部破片である。156は壺の口縁部である。頸部内面ミガキ、外面縦刷毛を行う。157はほぼ完形の器台である。158は白磁碗口縁部。159は滑石が混入した縄文中期阿高系の破片である。160は須恵器甕口縁部。161は弥生時代中期の甕破片である。口縁部は粘土貼付けにより断面三角形につくる。

4　3区の調査

1）概要

3区は2区の北側に位置する。調査前現況は水田で、田面標高は43.29mである。調査区北側に隣接する田面は現況標高41.22mで、3区田面との比高差は2mにもなり、崖状に大きく落ち込んでいる。試掘調査の結果でもこの3区北側田面より北は礫層を伴う氾濫原となり遺構は確認されていない。

調査区ではかっての水田整備事業による削平が進んでおり、1・2区で見られたような遺物包含層は認められず、水田土直下で明黄褐色土を主体とした遺構面を検出する。遺構面標高は西～南側が43.1m前後、北～東側が42.25m前後である。前述のように遺構面の削平が進んでいるため、遺構の残存状態は不良であり、結果的に1・2区と比べると比較的散漫な状態となっている。

検出遺構は弥生時代終末期～古墳時代前期の竪穴住居跡2棟、古墳時代中期の竪穴住居跡1棟のほか土坑・ピットである。

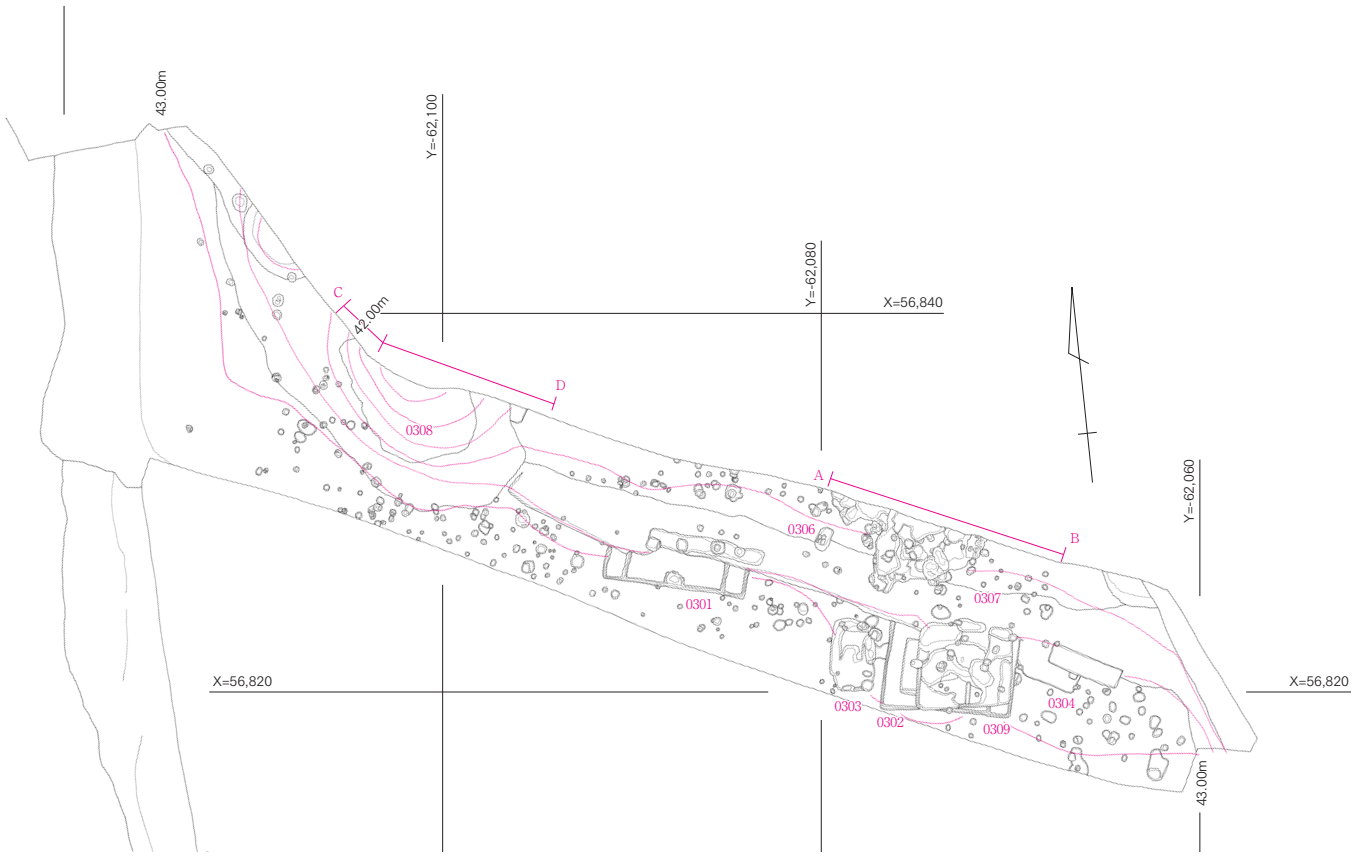
2）遺構と遺物

（1）竪穴住居跡（SC）

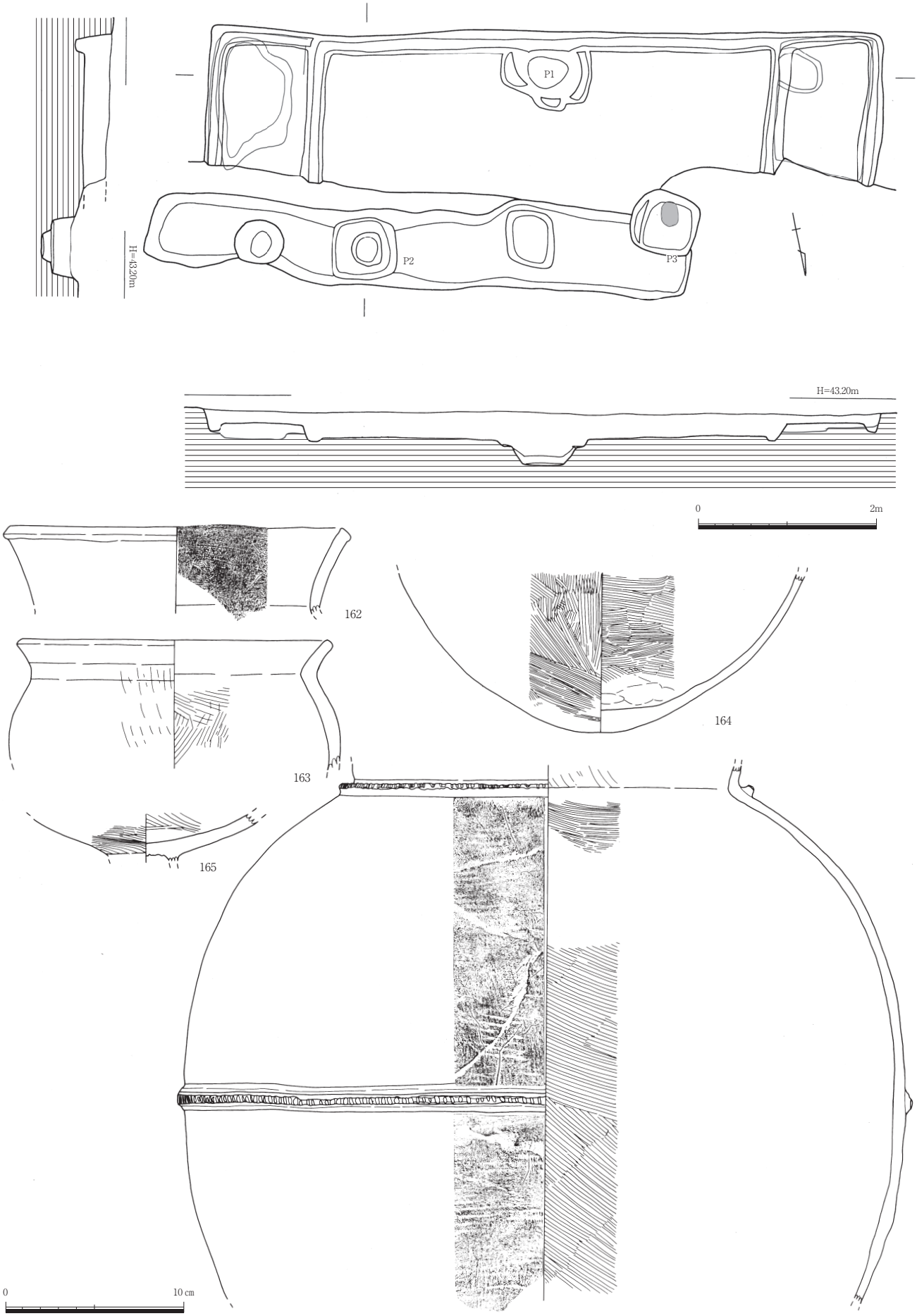
竪穴住居跡は3棟検出しているが、残存状態はいずれも不良である。削平が進んでおり、本来はこのほかにも住居跡が存在していた可能性は高いと考えられる。

SC0301（第34図、写真58・59）

調査区中央で検出する。削平により竪穴住居跡の北側半分が失われており、残存する壁高は10～20cm程度である。主軸はN－76°－Wにとり、長軸7.6m、短軸は主柱の位置から4.5m前後の平面隅丸長方形に復元できる。埋土は黒褐色土で、東西両壁沿いにはにぶい黄色土とオリーブ褐色土の1：1混合土により、幅1m程度のベッド状遺構が作られる。P2・3の2本主柱で、掘り方は一辺70cm強の方形



第33図　3区全体図（1／400）



第34図　SC0301及び出土遺物実測図（1／60、1／3）

で、床面からの深さは50㎝程である。主柱穴の埋土は黒褐色土で、P3では直径20㎝の柱痕跡を確認している。壁溝が全体に巡り、南壁際には掘り込みを有する。出土遺物はコンテナ2箱で、甕・高坏等が出土している。弥生時代終末期～古墳時代初頭に位置付けられる。

出土遺物（第34図）　162は甕の口縁部で内面には刷毛目を行う。163は鉢で外面は擦痕状の刷毛目、内面は刷毛目による。164は丸底の底部である。内底部は指押さえ・ナデによる。165は脚部を欠失している。外面タタキの後刷毛目を行う。166は淡橙色を呈する大型甕である。頸部及び胴部に突帯を貼付し、外面はタタキの後粗い刷毛目を行う。内面は全面刷毛目による。

SC0302（第35図、写真60～66）

調査区東側で検出する。SC0309の中央部分を切る形で検出する。主軸はSC0309にほぼ同じで、東西長5m、南北長4.6mで平面はやや歪んだ隅丸方形である。埋土は黒褐色土で、床面は凹凸が著しいが、中央付近がやや高くなり、壁際に10㎝ほどの掘り込みを行っている。また、南壁中央から長さ1m程の間仕切り状の溝が掘削されている。遺物は南壁沿い東側で集中した廃棄が認められ、甕・壺・椀・高坏が出土している。古墳時代中期前半に位置付けられる。

出土遺物（第35～37図、写真322・323・356）　167～171は布留式甕である。口縁部はわずかに内湾気味で、167のみ端部の摘み上げが残る。171は80％ほど残存し、外面には煤が付着する。胴部は球形で、外面刷毛目によるが肩部には横刷毛はなく縦刷毛のみである。内面は頸部やや下位より横方向のヘラ削りを行い、下半も横方向である。また、下半には1／3程には指頭痕が明瞭に残る。172～176は壺である。172は口縁部は外反気味に開き、胴部は球形を呈する。胴部外面には煤が付着し調整は細かな縦刷毛を主体とする。内面は縦方向に削り上げ、器壁は厚い。173は上半部が残存する。外面から口縁部内面は刷毛目、内面は横～斜め方向のヘラ削りによる。174・175は胴部外面にミガキを行う。175にはミガキ前の刷毛目が残っている。176は口縁部横ナデ、胴部外面刷毛目による。177・178は手づくねの椀で、全面に指頭痕が残る。179～185は高坏である。179は坏部が屈曲部のない椀形で、外面下位に刷毛状の痕跡が残る。180は小型の脚部である。182は灰白色を呈し坏部は横ナデを行い、脚から坏部下半には刷毛目が残る。181・183～185は橙色を呈する。器面にはやや粗いミガキが行われている。185坏部外面下半にはヘラ削りが行われる。186は砂岩製砥石、187・188は石包丁で、188は立岩産の輝緑凝灰岩製である。

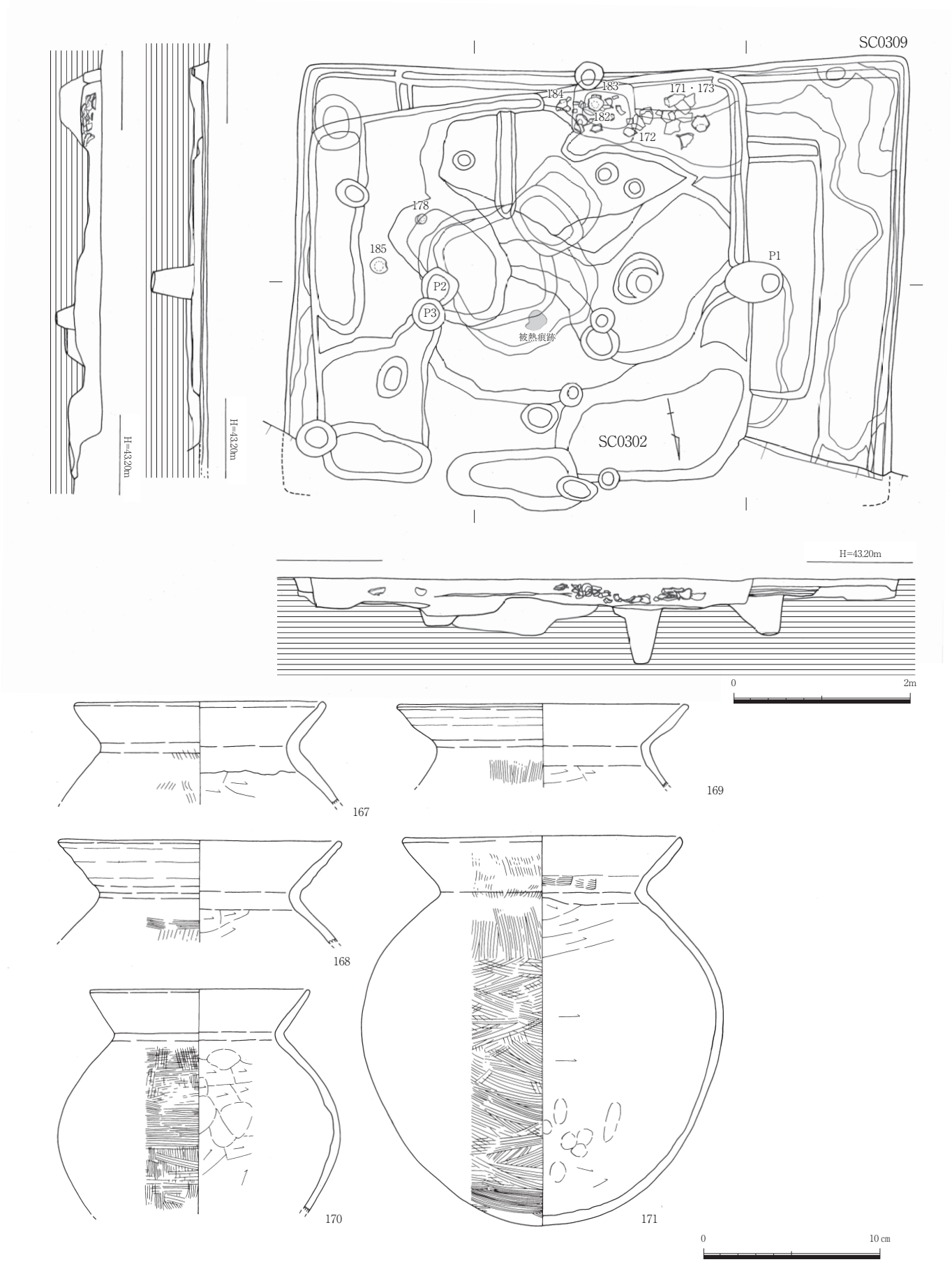
SC0309（第35図、写真60・61）

調査区東側で検出する。SC0302により大半を失い東西両側を残すのみで、さらに削平により竪穴住居跡の北壁部分も失っている。主軸はN－80°－Wにとり、長軸6.8m、短軸は5m前後の平面隅丸長方形に復元できる。埋土は黒褐色土で、東壁小口壁沿い及び西壁沿いにはコ字形に、にぶい黄色土と黒褐色土の1：1混合土により幅70～90㎝のベッド状遺構が作られる。主柱はP1～3を使用した2本柱と考えられる。遺構検出時にはSC0302との切り合い関係を認識しておらず、全体を一段掘り下げた時点で切り合い関係を確認したため、出土遺物の多くがSC0302に混入してしまっている。SC0309で取り上げた遺物はコンテナ1箱で、小破片のみで時期の詳細は明らかにし得ないが、薄手で灰白色を呈し内面にヘラ削りを行った胴部破片が認められ、SC0301に近い時期を考えておきたい。

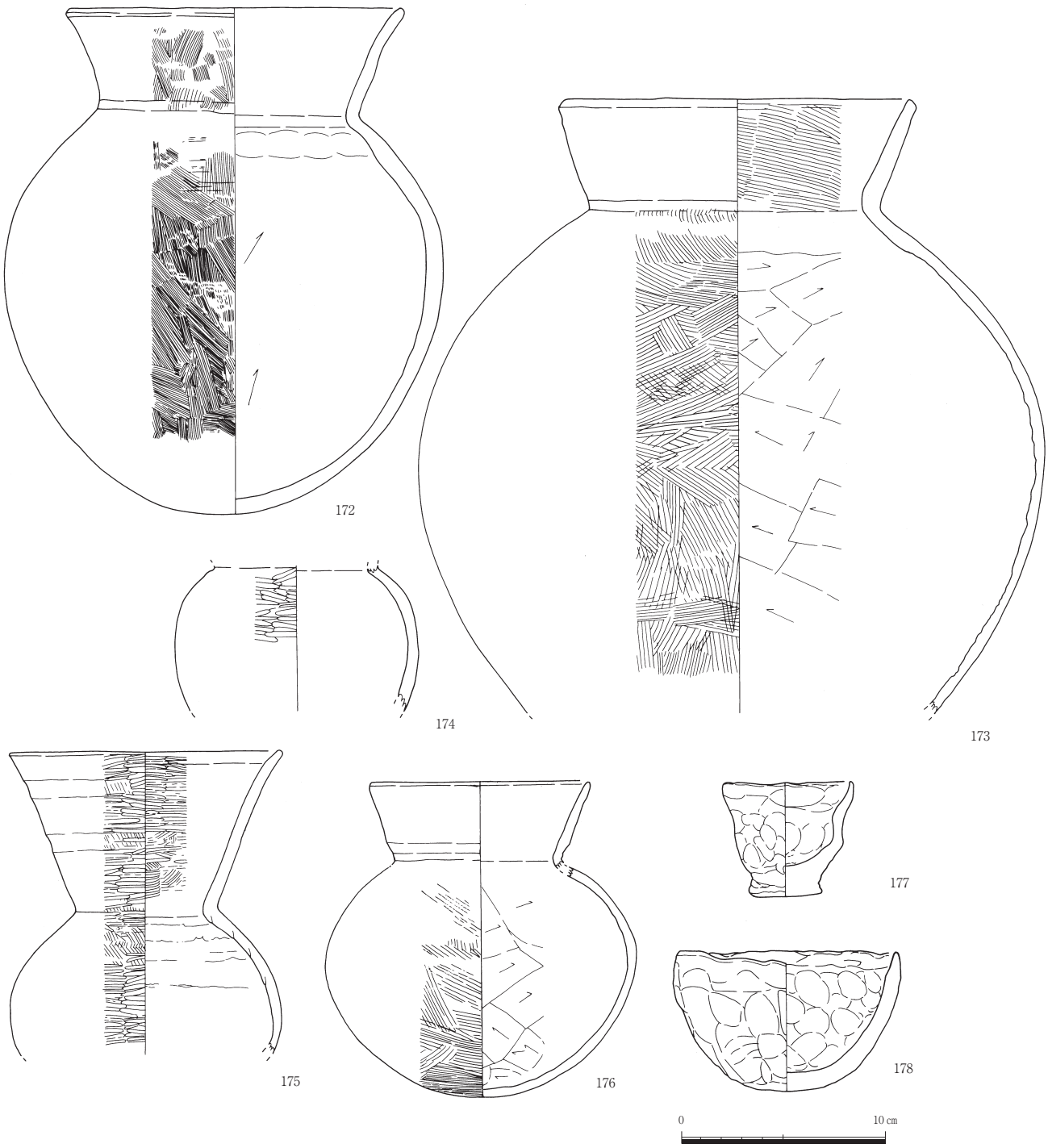
（2）土坑（SK）

SK0303（第38図、写真67）

調査区東側で検出する。SC0309の西側に50㎝の間隔をあけて、並んで位置している。主軸はSC0309にほぼ同じで、N－12°－Eにとる。東西長2.3m、南北長3.8mで平面はやや歪んだ隅丸長方形である。埋土はにぶい黄褐色土で、床面は北側に馬蹄形の高まりがある。壁高は2～5㎝で遺構の大



第35図　SC0302・0309及びSC0302出土遺物実測図1（1／60、1／3）

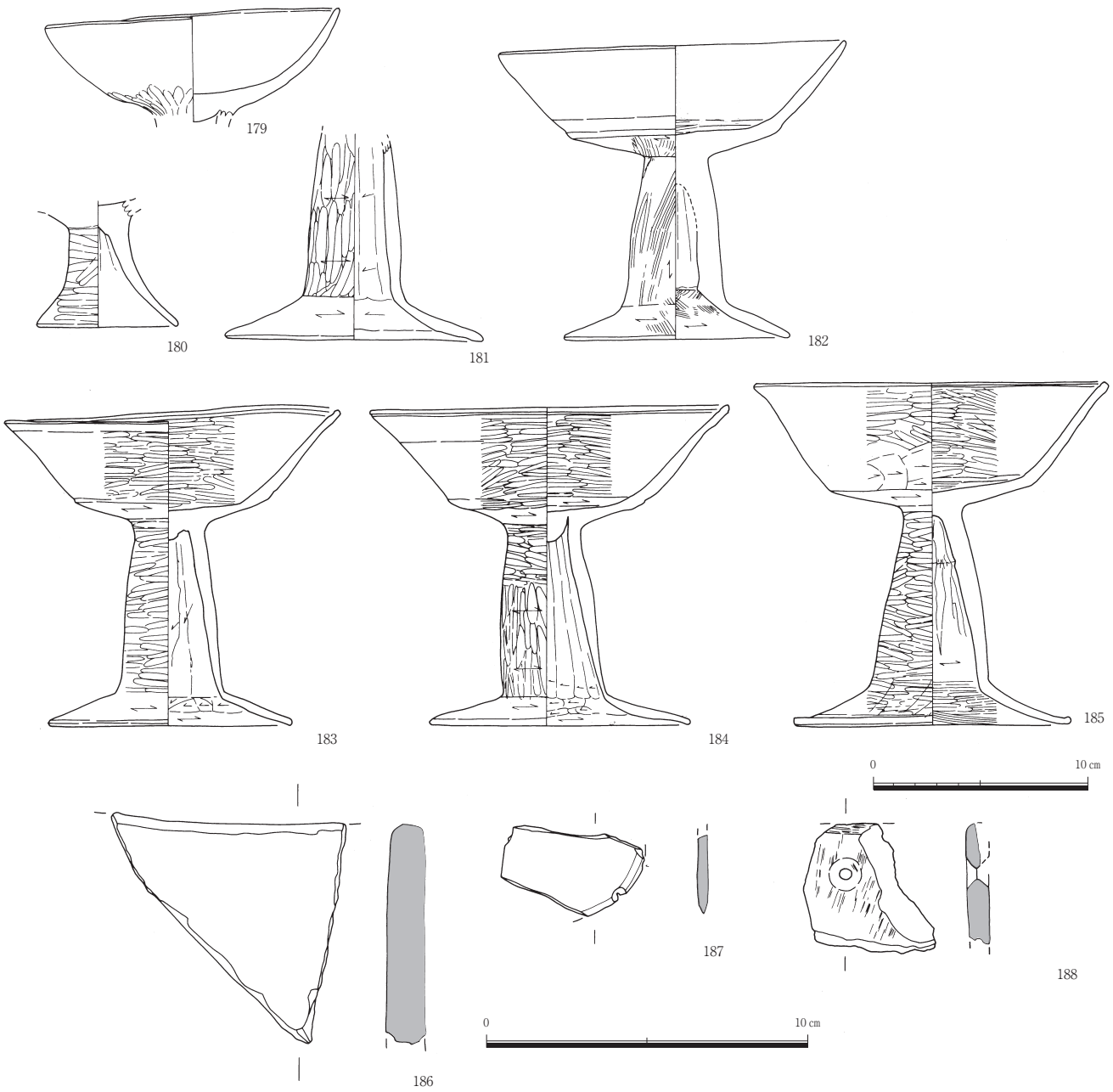


第36図　SC0302出土遺物実測図2（1／3）

半を失っている。本来の形状は明らかでないが、竪穴住居跡の貼り床の一部である可能性もある。出土遺物は小片3点のみで図示し得るものはないが、薄手で内面削りを行う胴部破片が出土している。時期的にはSC0309に近接するものと考えられる。

SK0304（第38図、写真68）

調査区東側で検出する。SC0309の東側に位置し、主軸はN－59°－Eにとる。東西残存長3.5m、



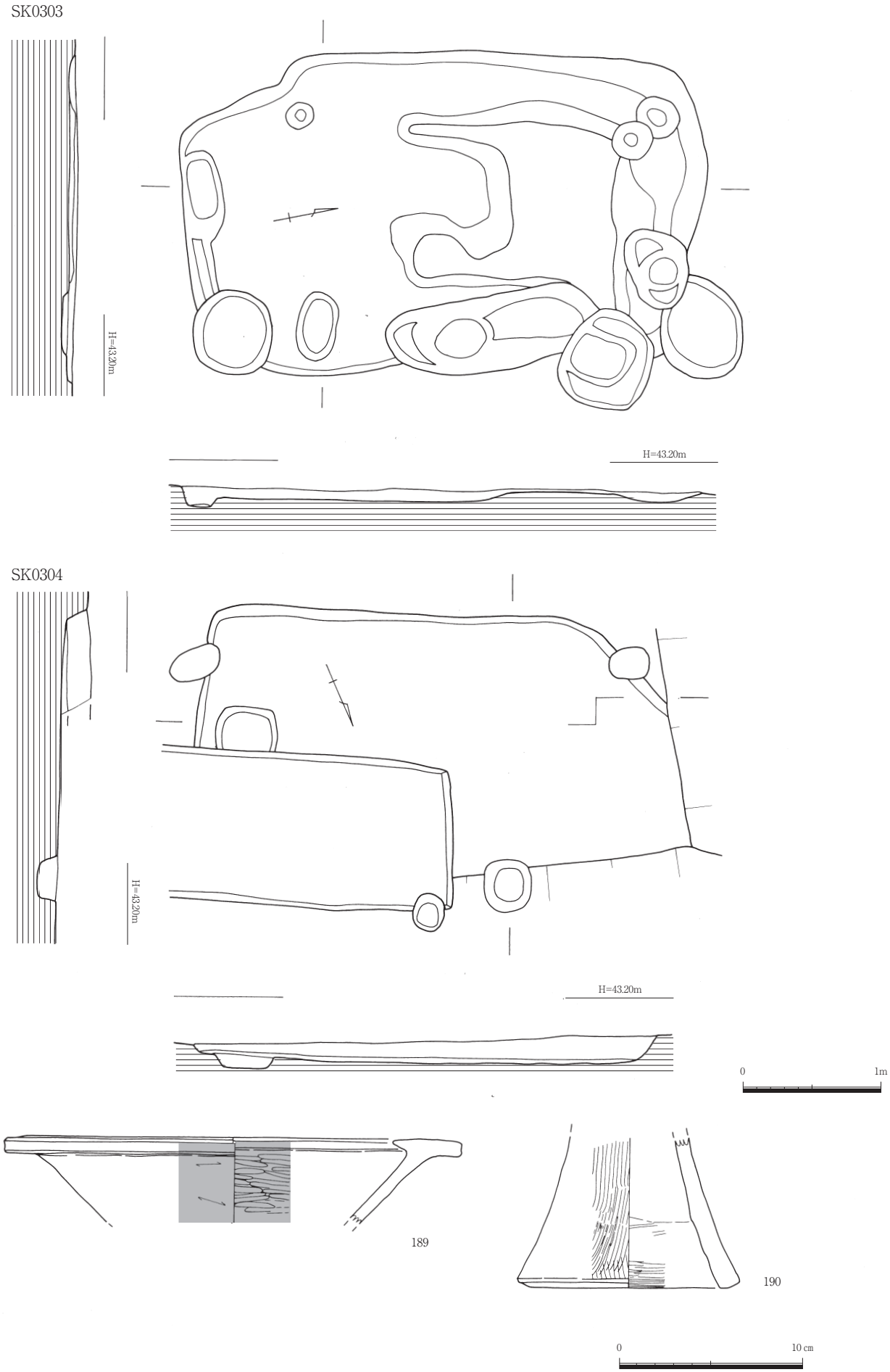
第37図　SC0302出土遺物実測図3（186～188は1／2、その他は1／3）

南北残存長1.9mで、平面は東壁から南壁は矩形に曲がるが、西側はゆるやかに屈曲している。埋土は暗褐色土で、壁高15cm、床面はほぼ平坦である。弥生時代中期後半の土器小破片が出土している。

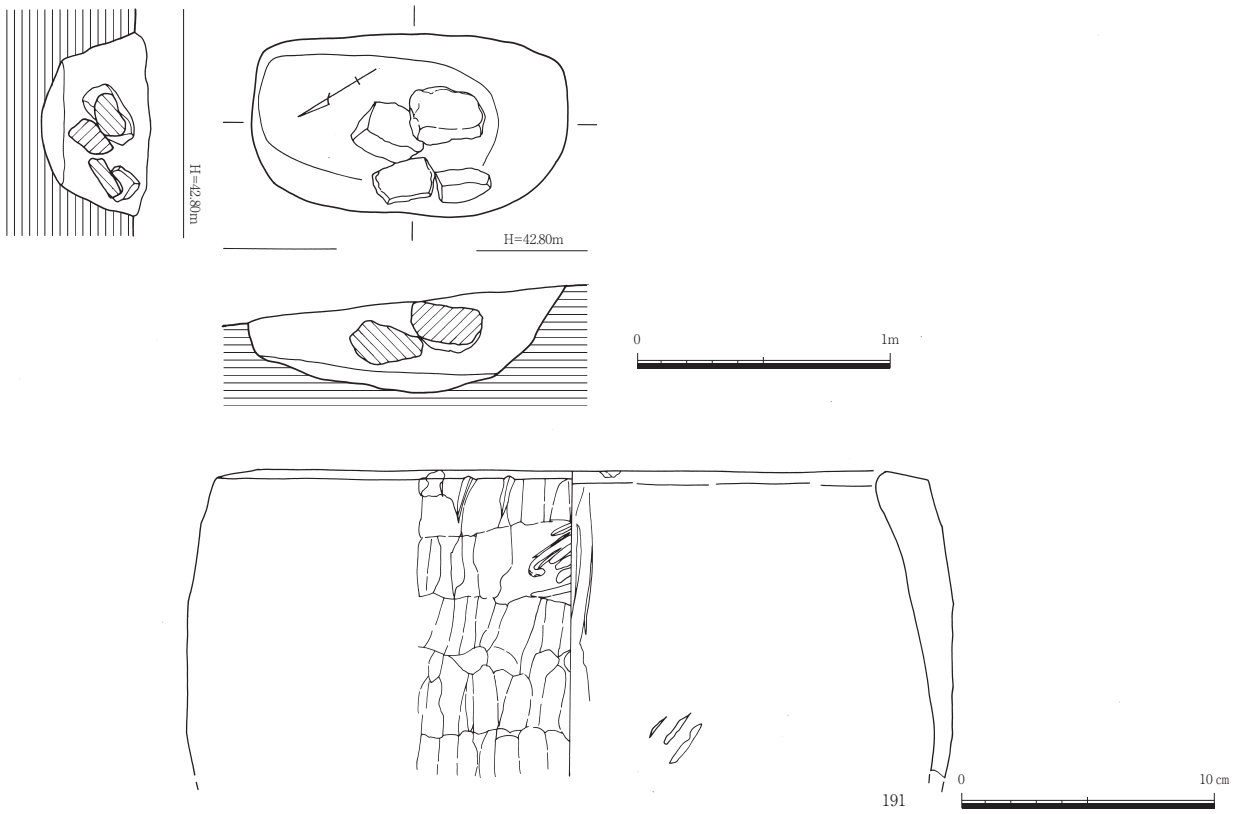
出土遺物（第38図）　189は丹塗りの高坏である。口縁部は鋤形を呈する。190は器台である。外面は縦刷毛、内面は裾が横刷毛、上部はナデによる。

SK0306（第39図、写真69・70）

調査区中央で検出する。SX0307の西側に位置し、主軸はN－65°－Wにとる。長軸1.25m、短軸0.7mの、平面隅丸長方形である。埋土は黒色土で焼土・炭化物等は含まれていない。壁は斜めに立ち上がり、底面は緩やかに湾曲する。埋土途中に人頭大の花崗岩自然礫を4個体並べている。瓦器椀・内黒土師器椀や石鍋の小破片が出土しており、中世前半代に位置付けられる。



第38図　SK0303・0304及び出土遺物実測図（1／40、1／3）



第39図　SK0306及び出土遺物実測図（1／30、1／3）

出土遺物（第39図、写真343）　191は滑石製の石鍋破片である。外面に削りの痕跡が明瞭に残る。内湾気味に直立し、鍔は認められない。

（3）その他の遺構（SX）

SX0307（第40図、写真71）

調査区北側には2ヶ所に自然開析による窪地への堆積層が認められる。互いに形状・出土遺物が異なっており、形成要因に違いがあることが想定できる。

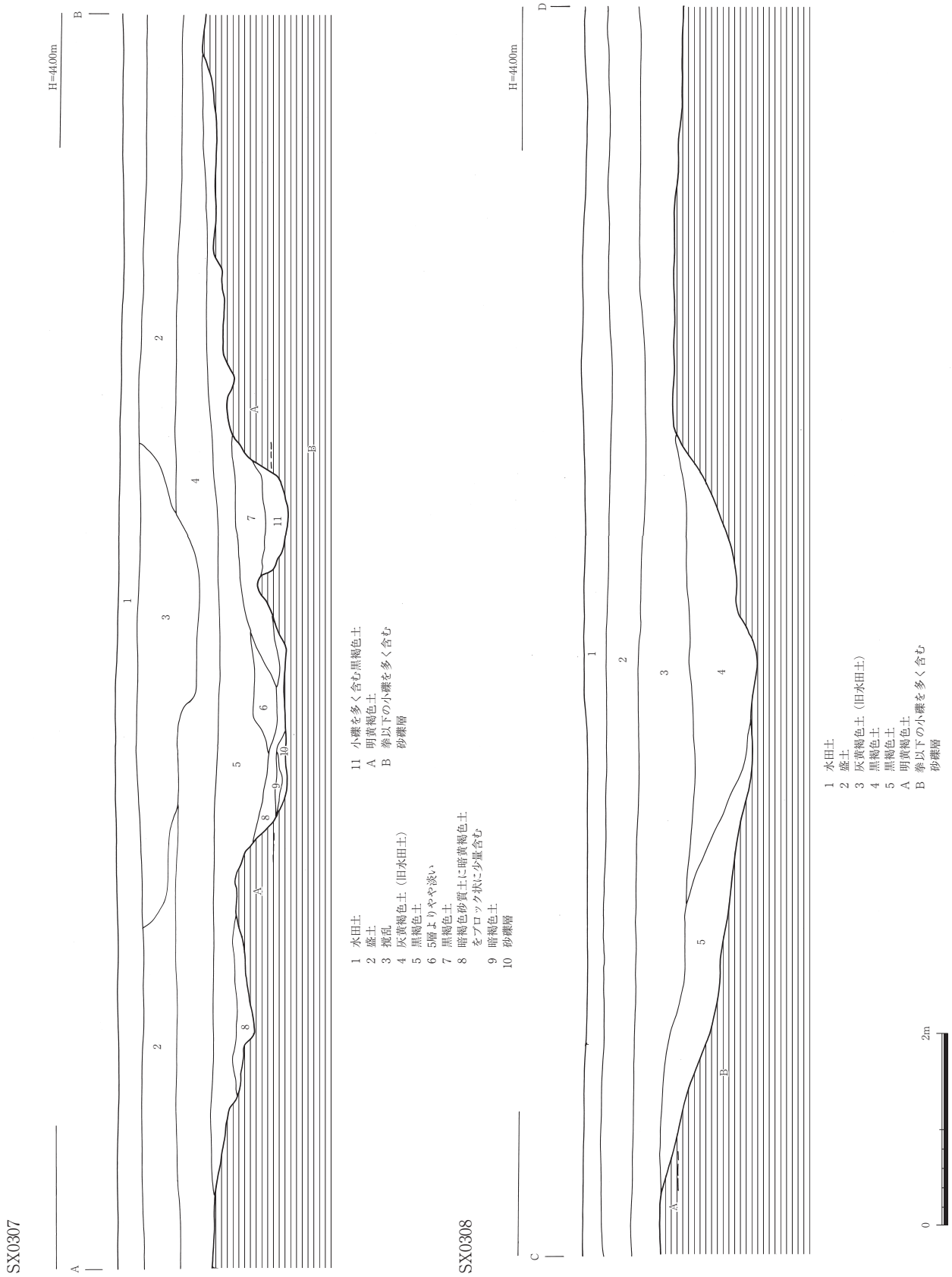
SX0307は東側に位置する。自然の流水等により抉られて形成されたものと考えられる。SX0308に比べ底面の凹凸が著しく、くぼみ内には小礫を多く含む砂礫層が堆積している。また上層は安定的な黒褐色土で覆われている。出土遺物は小破片のみであるが、古代～中世前半代の土師器・須恵器が出土している。

出土遺物（第41図192～194）　192は土師器椀高台である。193は須恵器高台である。外底部分は回転ヘラ削りを行う。194は橙色を呈する土師器椀である。

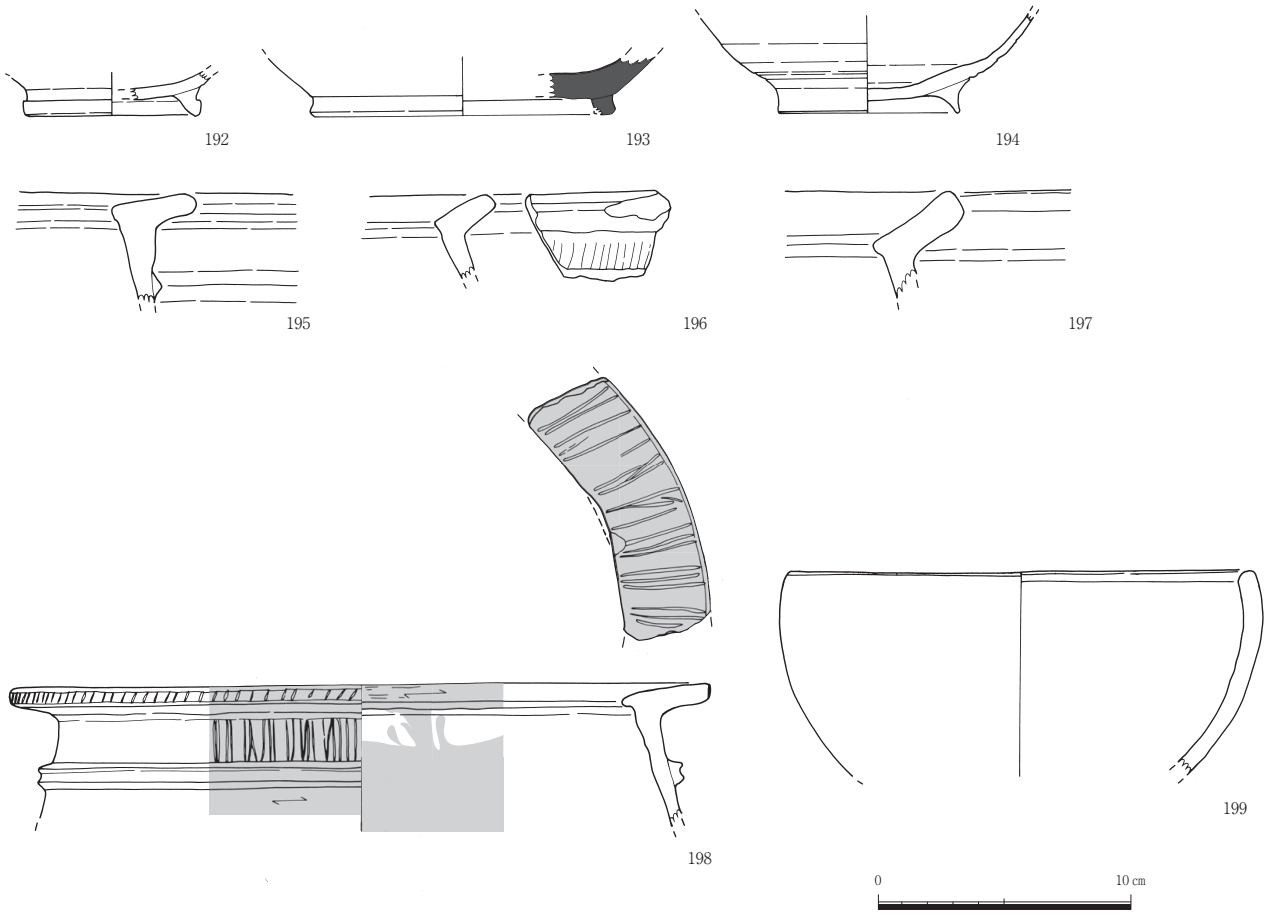
SX0308（第40図、写真72）

調査区西側に位置し、SX0307同様に自然の流水により形成されたものと考えられるが、SX0307に比べ底面は平滑であり堆積層にも粗砂・砂礫等は含まれず、埋土は安定的な黒褐色土である。出土遺物は小破片のみであり、弥生時代中期の遺物が主体となる。

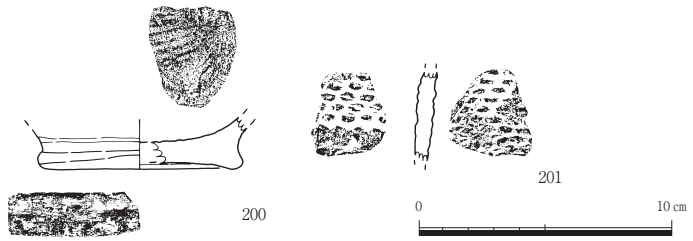
出土遺物（第41図195～199）　195・196は断面逆L字形の口縁部破片である。195は胴部上位に突帯を貼付する。197は内湾気味の口縁部がく字形に屈曲し、内側にも嘴状に張り出しを有する。198は丹



第40図　SX0307・0308土層図（1／60）



第41図　SX0307・0308出土遺物実測図（1／3）



第42図　遺構検出面出土遺物実測図（1／3）

塗り土器で外面および口縁部上面に暗文風のミガキを行う。199は椀で、内外面ナデによる。

（4）その他の出土遺物（第42図、写真343）

ピットからは弥生時代中期～中世に位置付けられる遺物が少量出土しているが、古墳時代後期～古代に位置付けられる遺物は認められない。また遺構検出時に縄文時代の遺物が出土しているのでこの項で報告する。200は底部破片である。外面にぶい黄橙色、内面は褐灰色である。胎土には3㎜程度の砂粒を多く含む。内底面には条痕を残す。201は楕円押型文小破片である。にぶい黄橙色を呈し、器壁厚は5㎜程度である。

５　4区の調査

1）概要

4区は1～3、5区の西側砂礫台地の北側先端部上及び東側斜面に位置する。調査前現況は水田であったが、一部は竹林化していた。調査前の台地上の旧田面標高は南側50.88m、北側先端で48.55mである。遺構面は耕作土直下の明黄褐色土～にぶい黄褐色土で、東側台地縁辺部では砂礫層が露出している。また、斜面部分は東側沖積地まで5m程の比高差を有しており、遺構面は階段状に造成されている。斜面途中に作られた平坦面上には竪穴住居跡、甕棺墓がわずかに残っており、後世の削平が進んでいることがわかる。

主な検出遺構には掘立柱建物1棟、竪穴住居跡8棟、溝1条、土坑18基、土坑・木棺墓8基、甕棺墓78基、その他ピット等がある。削平により失われた遺構も多く存在すると考えられるが、現状でも台地上面全体に遺構が認められる。検出遺構・遺物は弥生時代中期～中世前半代に位置付けられるが、弥生時代中期の遺構・遺物が多く、特に中期中頃～末の遺物が主体を占めている。また弥生時代後期以降中世までの遺物は比較的少量である。特徴的な遺構として弥生時代の土坑・木棺墓、甕棺墓による埋葬遺構群を検出している。埋葬遺構群は空閑地をはさんで北側と南側の2群に分かれており、北群の木棺墓から銅剣1本、甕棺墓から鉄戈1本、南群の甕棺墓4基から銅剣4本、銅矛3本、青銅製把頭飾1個及び玉類が副葬品として出土している。北群については特に斜面による削平により失われた埋葬遺構も多いのではないかと考えられるが、現状で残存している埋葬遺構についてはほぼ完掘している。南群についてはさらに南側に墓域を延ばしている。

なお、聞き取りによると、調査前の4区周辺では甕棺が存在するといわれていて、『荒平山城からの落ち武者の墓』として伝えられていたようである。実際は弥生時代の甕棺墓群であったが、農作業時等に甕棺が崩落するなどして、地域では埋葬遺構の存在が知られていたものと考えられる。

2）遺構と遺物

（1）掘立柱建物（SB）

掘立柱建物跡は1棟をまとめているのみである。その他建物としてまとめることはできなかったが、中世前半代に位置付けられるピットが調査区北側及び中央南側～SC0453付近でまとまっている。

SB0491（第45図、写真88）

調査区中央で検出した1間×2間の建物である。主軸はＮ－9°－Ｅにとる。柱穴埋土は黒褐色土で、長軸1m、短軸0.8m前後の平面長方形を呈し、柱痕跡は直径30～35㎝である。埋土・掘り方形態より2区SB0206、5区SB0502に近接した、古墳時代初頭を前後する時期の建物と考えられる。

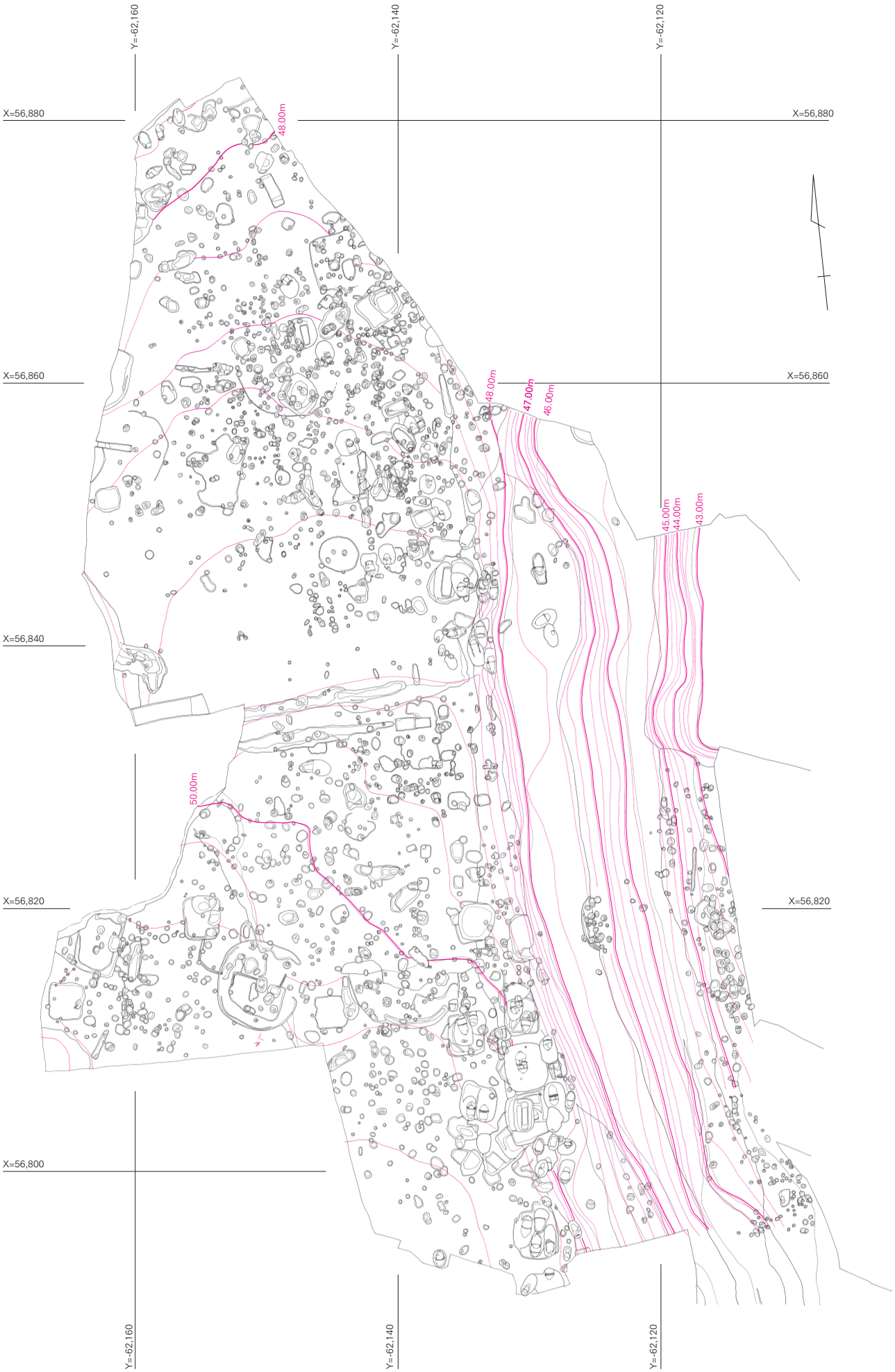
出土遺物（第45図）　202は小壺の口縁部である。頸部内から外面はミガキによる。203は台付き器種の下半部である。外面には煤が付着し、刷毛目調整を行っている。内面はナデによる。

（2）竪穴住居跡（SC）

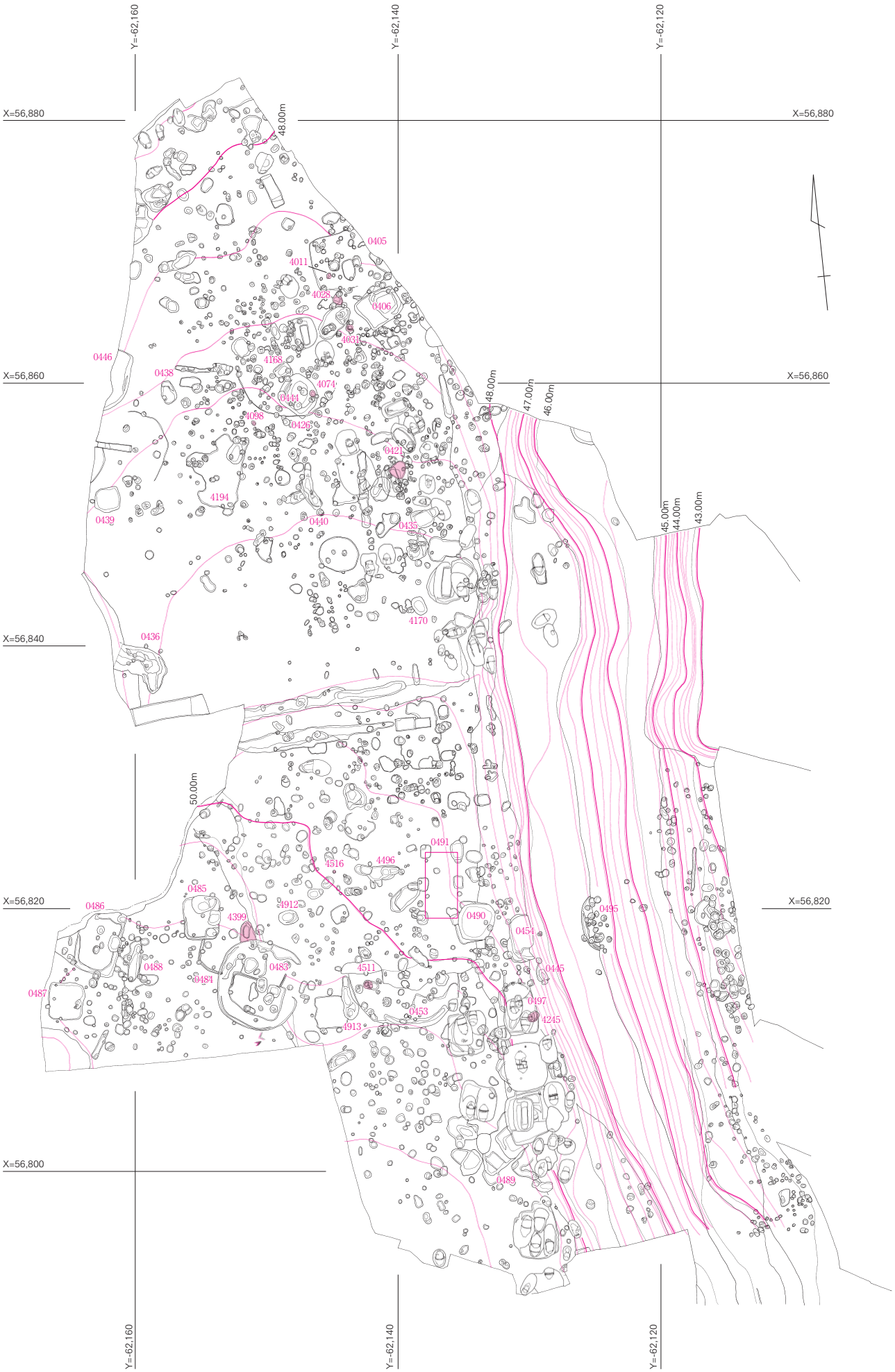
竪穴住居跡は8棟検出しているが、残存状態はいずれも不良である。調査区の削平が進んでおり、本来はこのほかにも住居跡が存在していたものと考えられる。

SC0405（第46図、写真89）

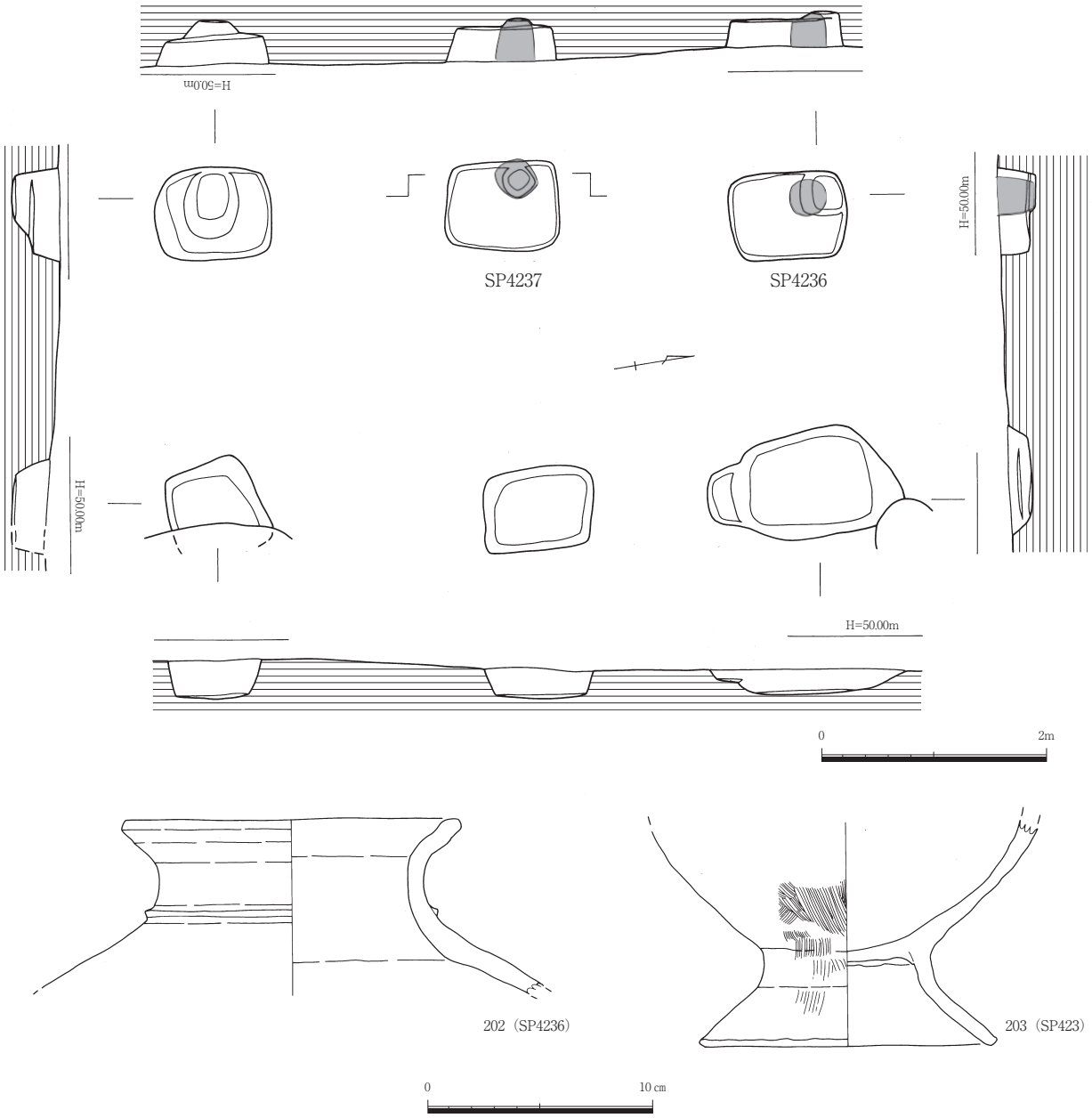
調査区北側で検出する。南北長4.3m、東西長3m以上で、検出面から床面までは5㎝ほどで削平が進んでいる。埋土は暗灰黄色土である。床面ににぶい褐色土で断面浅皿状の掘り込みがあり、掘り込み底面及び北側床面に被熱痕跡が認められる。炉跡と考えられ、東側床面上には炭化物が広がっている。主柱は明らかでない。遺物は小破片のみであるが、内面ナデ外面縦刷毛を行う甕破片が認められ、弥生時代中期の範疇で考えておきたい。



第43図　4区全体図（1／400）



第44図　4区遺構配置図（1／400）



第45図　SB0491及び出土遺物実測図（1／60、1／3）

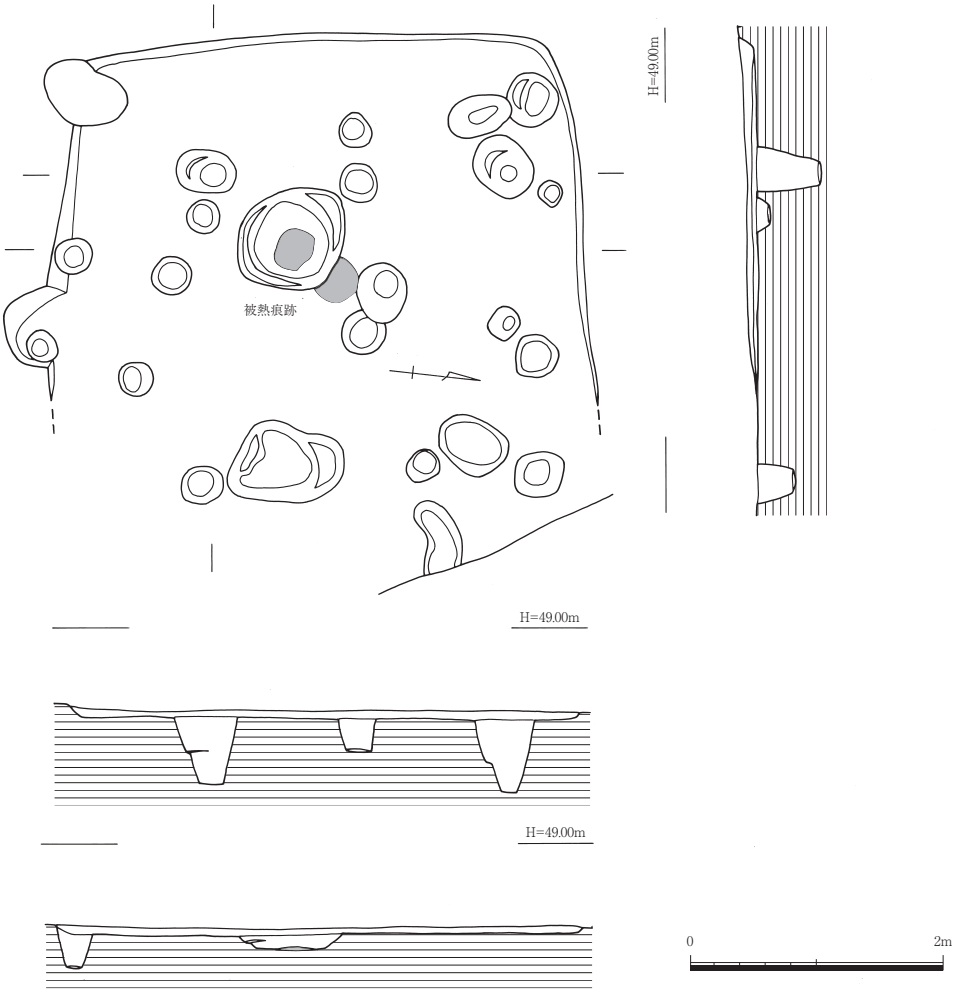
SC0426（第47図、写真90）

調査区北側で検出した、直径7.6m程度の円形住居跡である。SK0444→SC0426→K0432・SR4911の先後関係となる。埋土はにぶい黄色土で、削平が進んでいる。図中アミ部の8本ほどが主柱穴と考えられ、埋土は褐色土～にぶい黄褐色土である。その他炉跡等の施設は明らかでない。遺物は小破片のみで土器片のほか黒曜石剥片、玄武岩片などが出土しており、弥生時代中期前半に位置付けられる。

出土遺物（第47図）　204～207は甕の口縁部である。口縁部は粘土帯の貼付けにより断面三角形（204・205）や断面コ字形（206・207）につくる。208はやや薄手の上げ底につくる。

SC0453（第48図、写真91・92）

調査区南側で検出する。直径8.5m程度の円形住居跡に復元できる。SC0453→K0452の先後関係となる。埋土は暗灰黄色土で、南壁沿いに壁溝が部分的に認められる。図中アミ部のうち10本ほどの主柱



第46図　SC0405実測図（1／60）

と考えられ、主柱埋土も暗黄灰色土である。床面の中央のP1が炉跡の可能性があり、埋土黒褐色土で炭化物を少量含んでいる。西側に接してSK4913が位置しているが、関連は不明である。遺物は小破片のみで土器片のほか黒曜石剥片が出土しており、弥生時代中期中頃～後半に位置付けられる。

出土遺物（第49図、写真343・355）　209～211は断面鋤形もしくは逆L字形を呈する口縁部破片である。212は混入と考えられるが、全体の1／2が残存する小壺である。頸部～口縁部は湾曲し、胴部は球形を呈する。213も混入の滑石製石鍋破片である。214・215は小型片刃石斧である。216は砂岩製の砥石である。破面以外の全体を砥面とする

SC0483（第50図、写真93）

調査区南側で検出する。直径6.6m程度の円形住居跡である。埋土は黒褐色土で、SC0484→SC0483の先後関係となる。図中アミ部の8本ほどが主柱穴と考えられるが、その他床面からは間仕切り状の小溝を確認している。また、南側床面で同様の埋土で平面4.2m×2.7mの長方形埋土の掘り込みを確認した（0483-2）。別遺構とも考えられるが、掘り込みの床面レベルが北側床面ともそろっており、ここでは住居内の施設と考えておきたい。遺物として土器片のほか黒曜石剥片、砥石、石包丁などが出土している。弥生時代中期中頃～後半に位置付けられる。

出土遺物（第51図、写真355・356）　217～223は断面逆L字形を呈する甕の口縁部破片である。

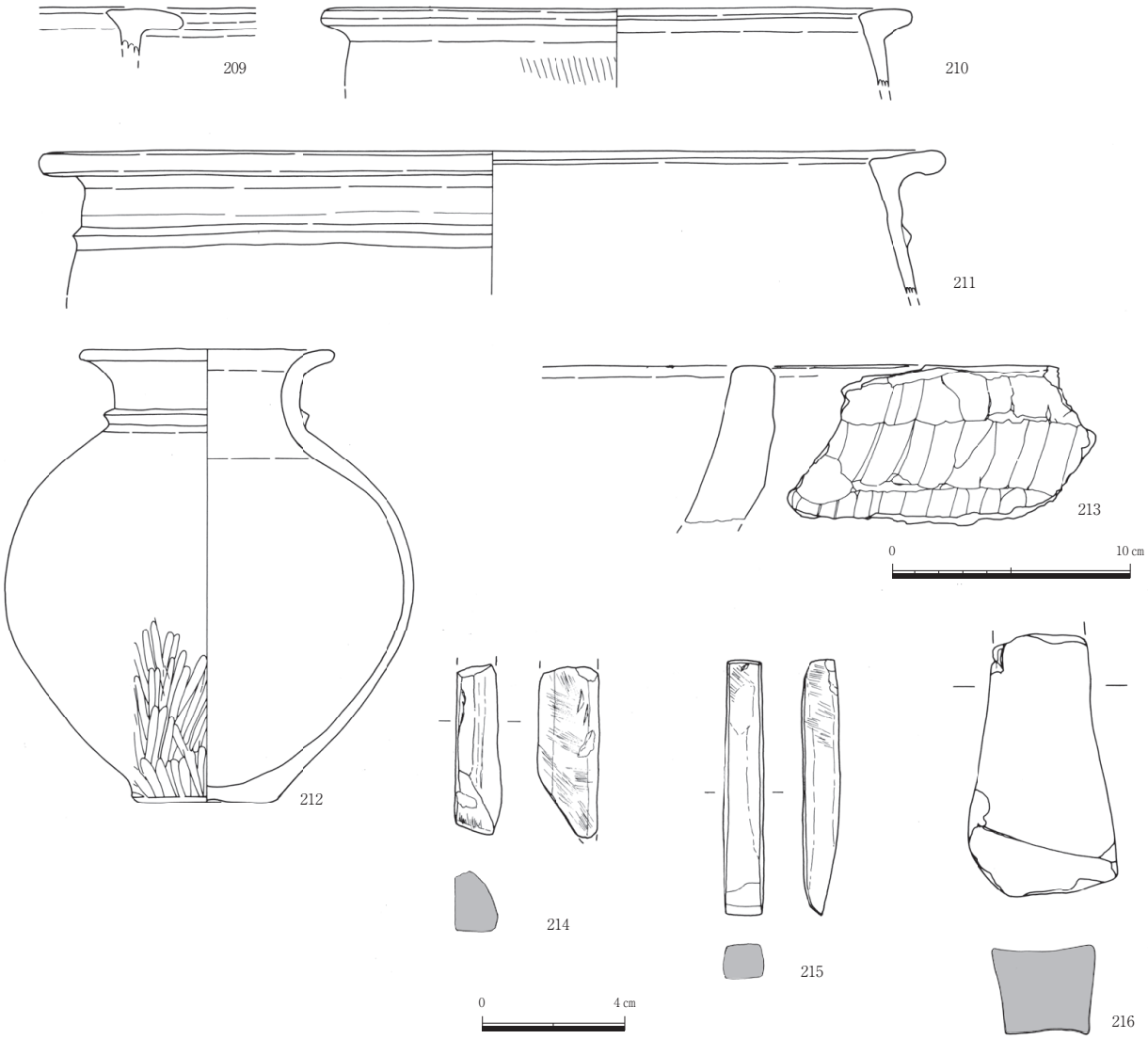
第47図　SC0426及び出土遺物実測図（1／60、1／3）

第48図　SC0453実測図（1／60）

上面は水平もしくは内傾する。224は丹塗り土器の胴部破片である。225は壺破片である。226・227は砂岩製の砥石破片で、破面以外は砥面となる。228は石包丁破損品である。229は黒曜石製の加工痕のある剥片である。縦長剥片の基部を調節し、側縁部に加工痕が認められる。

SC0484（第52図、写真94・95）

調査区南側で検出する。埋土は黒褐色土で、SC0484→SC0483・0485の先後関係となる。西～南壁



第49図　SC0453出土遺物実測図（214～216は1／2、その他は1／3）

の一部が残るのみであるが、北側床面に被熱痕跡が認められるP1が炉跡と考えられる。土器片は小破片のみの出土であり詳細は不詳であるが、弥生時代中期中頃～後半以前に位置付けられる。

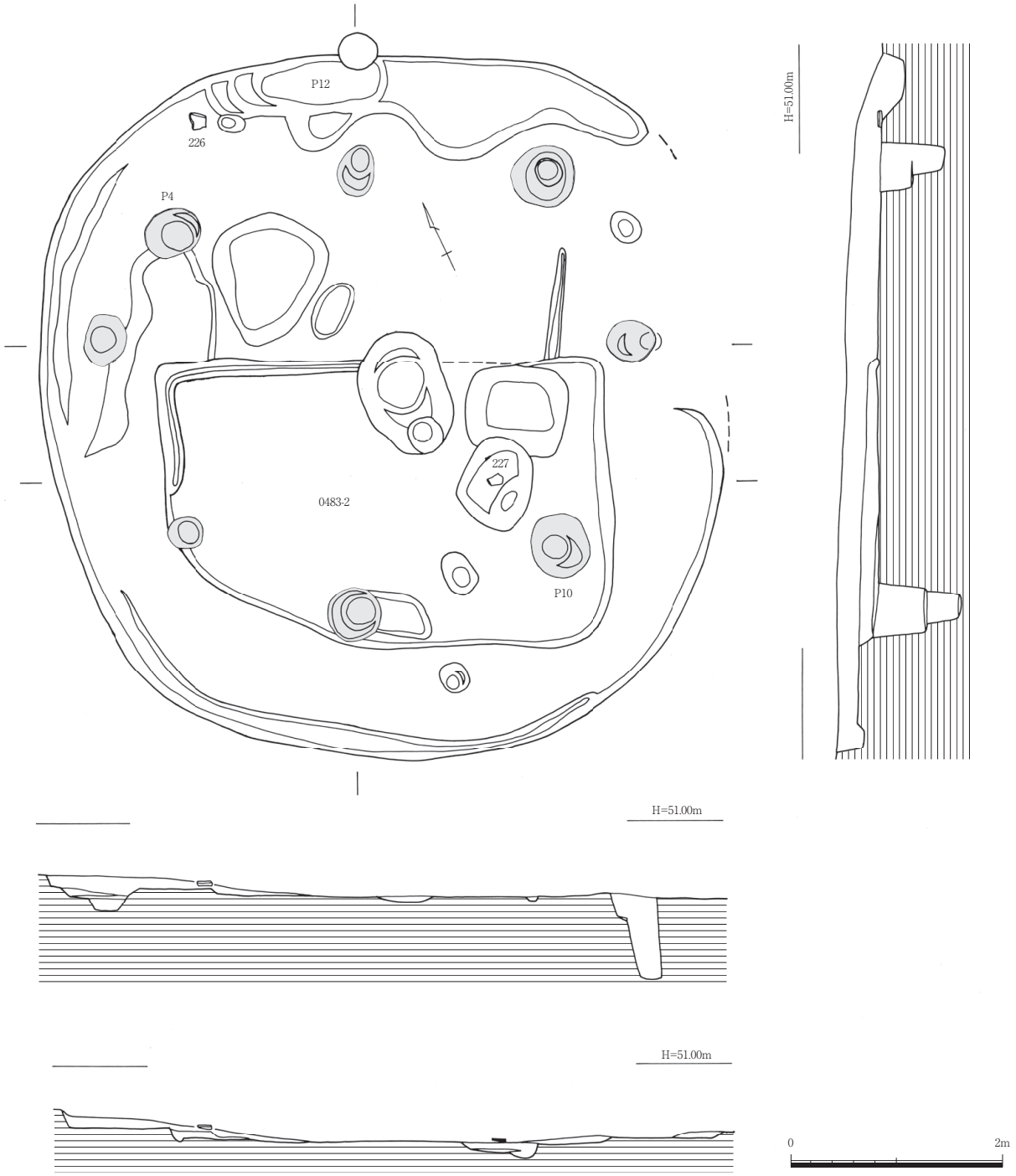
SC0485（第52図、写真96）

調査区南側で検出する。南北長3.2m、東西長2.7mの平面隅丸長方形である。埋土は黒褐色土で、SC0484→SC0483・0485の先後関係となる。西～南壁沿いには壁溝が認められ床面中央には被熱痕跡が残る。P1は褐色土で焼土・炭化物が含まれている。壁際のP2は黒褐色土で椀（230）が出土している。壁際コーナー部のP3は壁がやや傾く非常に深いピットであるが、対応する掘り込みがなく機能は不明である。土器は椀以外は小破片のみであるが、弥生時代中期後半代であろうか。

出土遺物（第52図、写真323）　230は1／4程を欠く椀である。器面の剥落が進んでいるが、外面および内面の中ほどまで丹塗りが施されている。

SC0486（第53図、写真97～99）

調査区南側西端で検出する。南北長5.2m、東西長3.3mの平面隅丸長方形である。埋土は黒褐色土で、壁沿いには壁溝が認められ、P1・2の2本柱と考えられる。東壁中央に掘り込みを持ち、西側床面



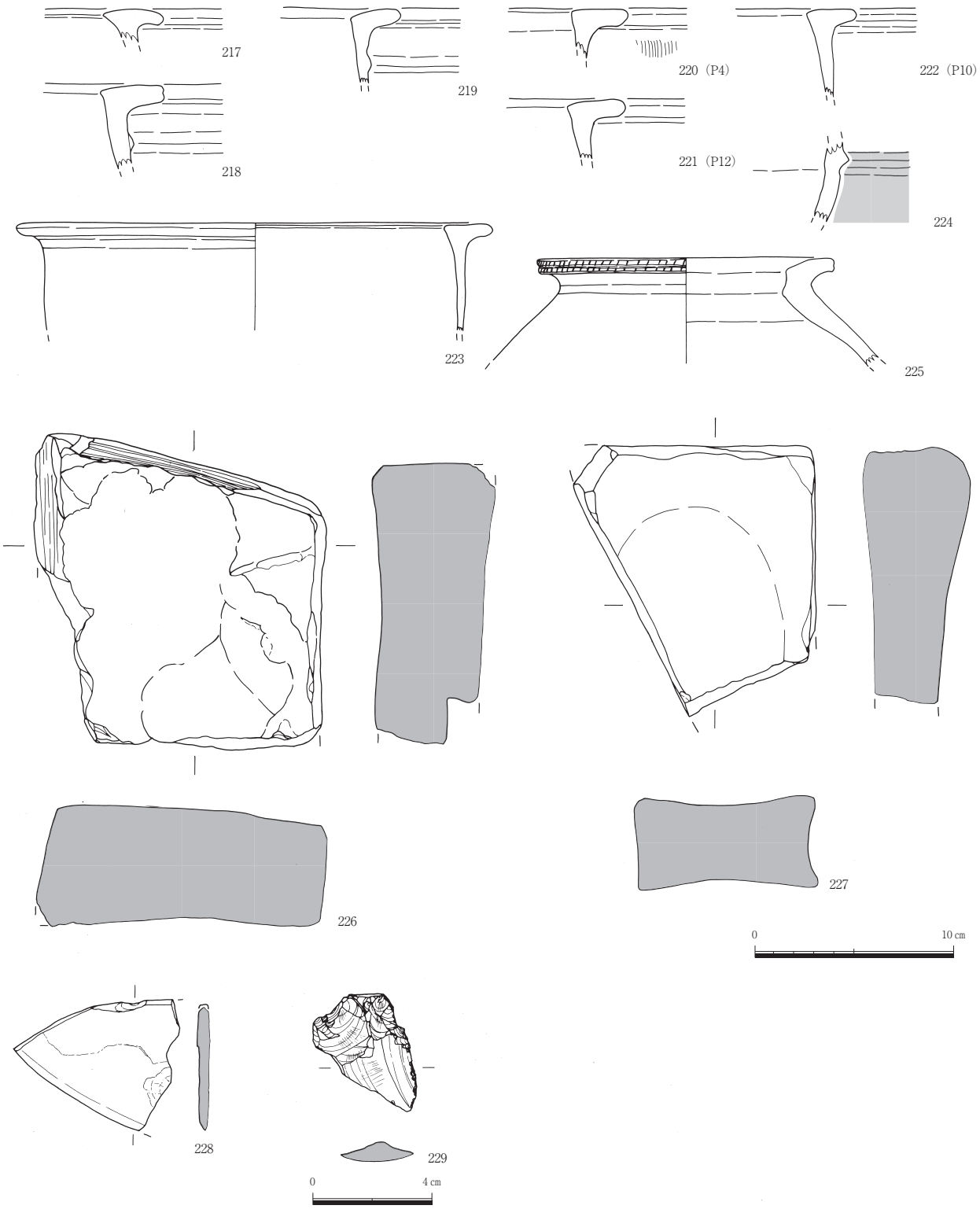
第50図　SC0483実測図（1／60）

には炭化物が広がる。また、住居跡東側には溝状のSK0488が位置しており、住居跡との関連も考えられる。遺物は土器小破片、黒曜石剥片等が出土しており、弥生時代中期後半代であろうか。

出土遺物（第53図、写真355）　231～234は甕である。口縁部は鋤形もしくは逆L字形で、底部は平底を呈する。235は丹塗りの高坏である。236は花崗岩製の砥石で上面が砥面となる。237はシルト質の偏平片刃石斧である。238は折損した石鎌の裏面が剥落したものであろう。

SC0495（第54図、写真100）

調査区南側東斜面上で検出する。削平が著しく周辺の遺構も失われているが、直径5m程度の円形

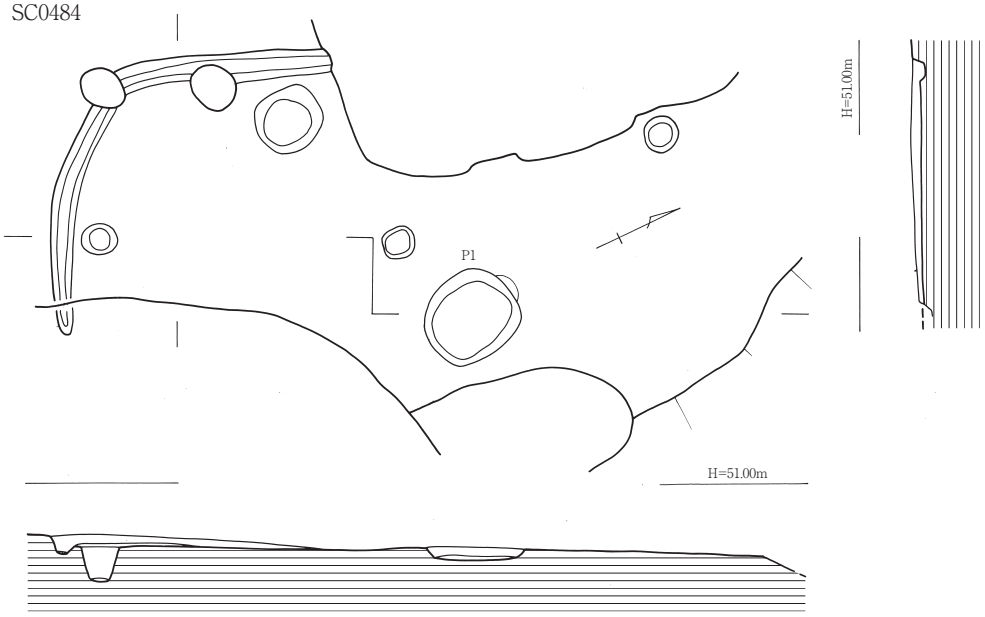


第51図　SC0483出土遺物実測図（228・229は1／2、その他は1／3）

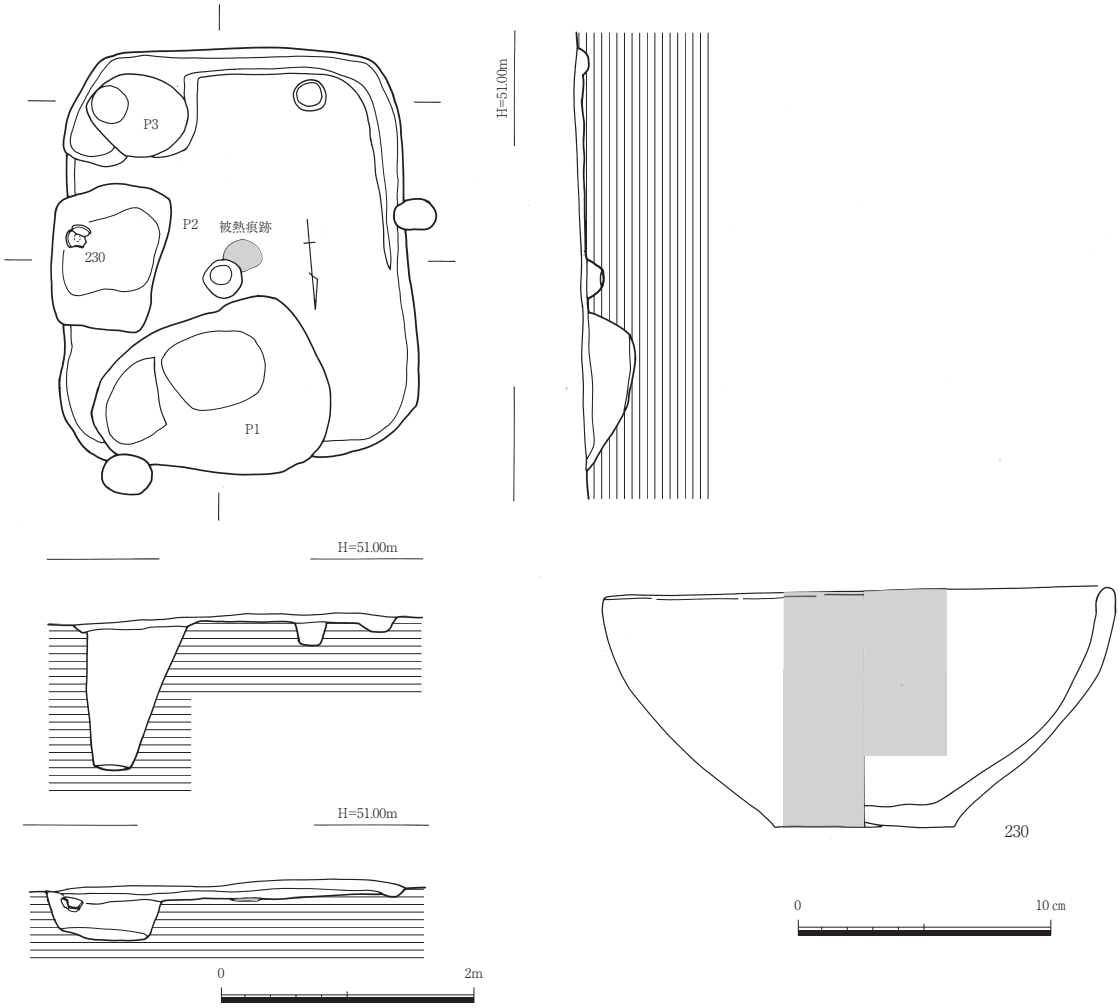
住居跡の一部が残存している。埋土は暗褐色土で、壁沿いには壁溝が認められる。遺物は土器小破片、黒曜石剥片等が出土しており、弥生時代中期中頃～後半代であろうか。

出土遺物（第54図239～242）　239～241は断面逆L字形の甕口縁部である。上面は水平となる。242は坏破片である。口縁部断面は三角形を呈する。

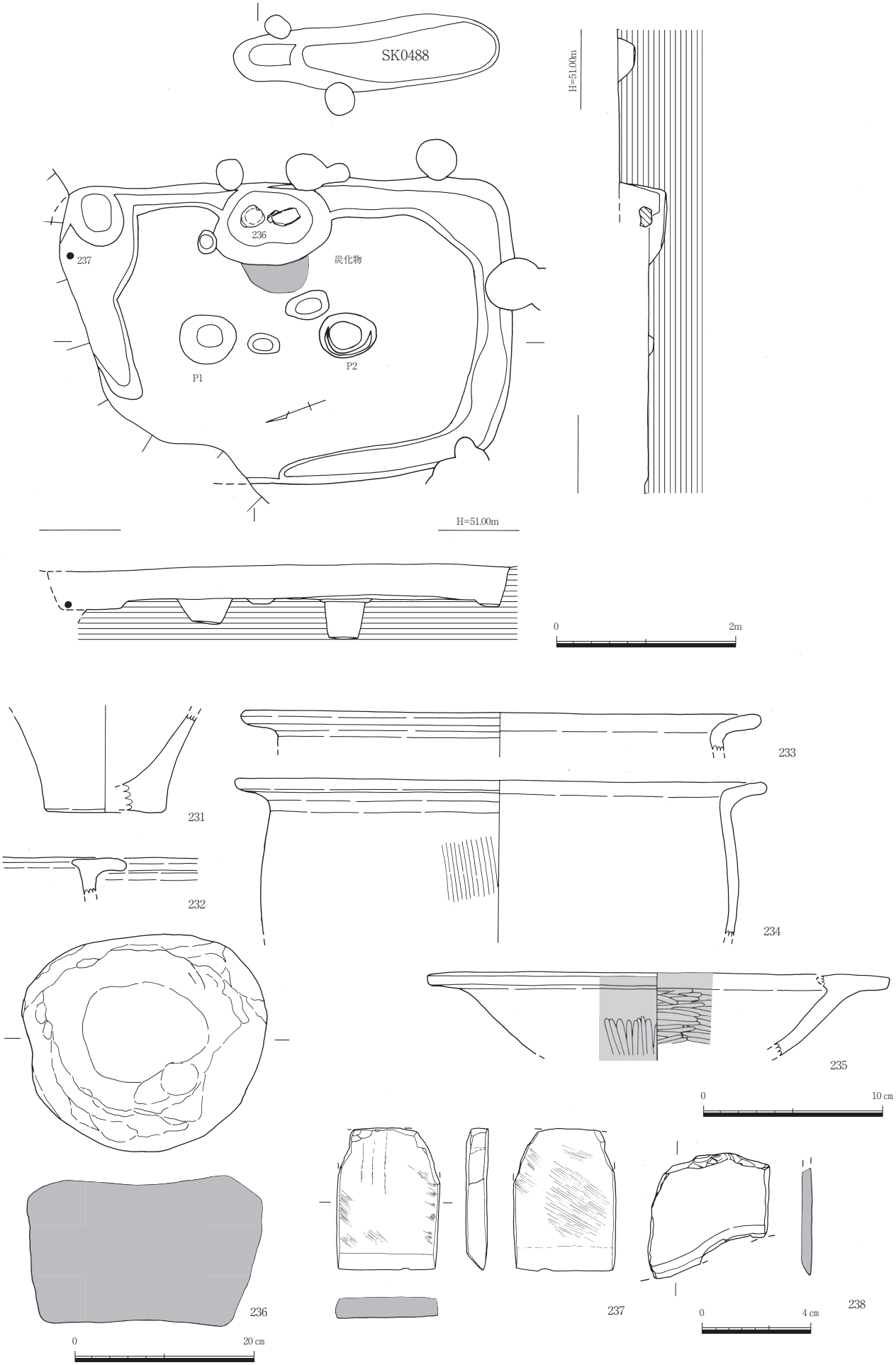
SC0484



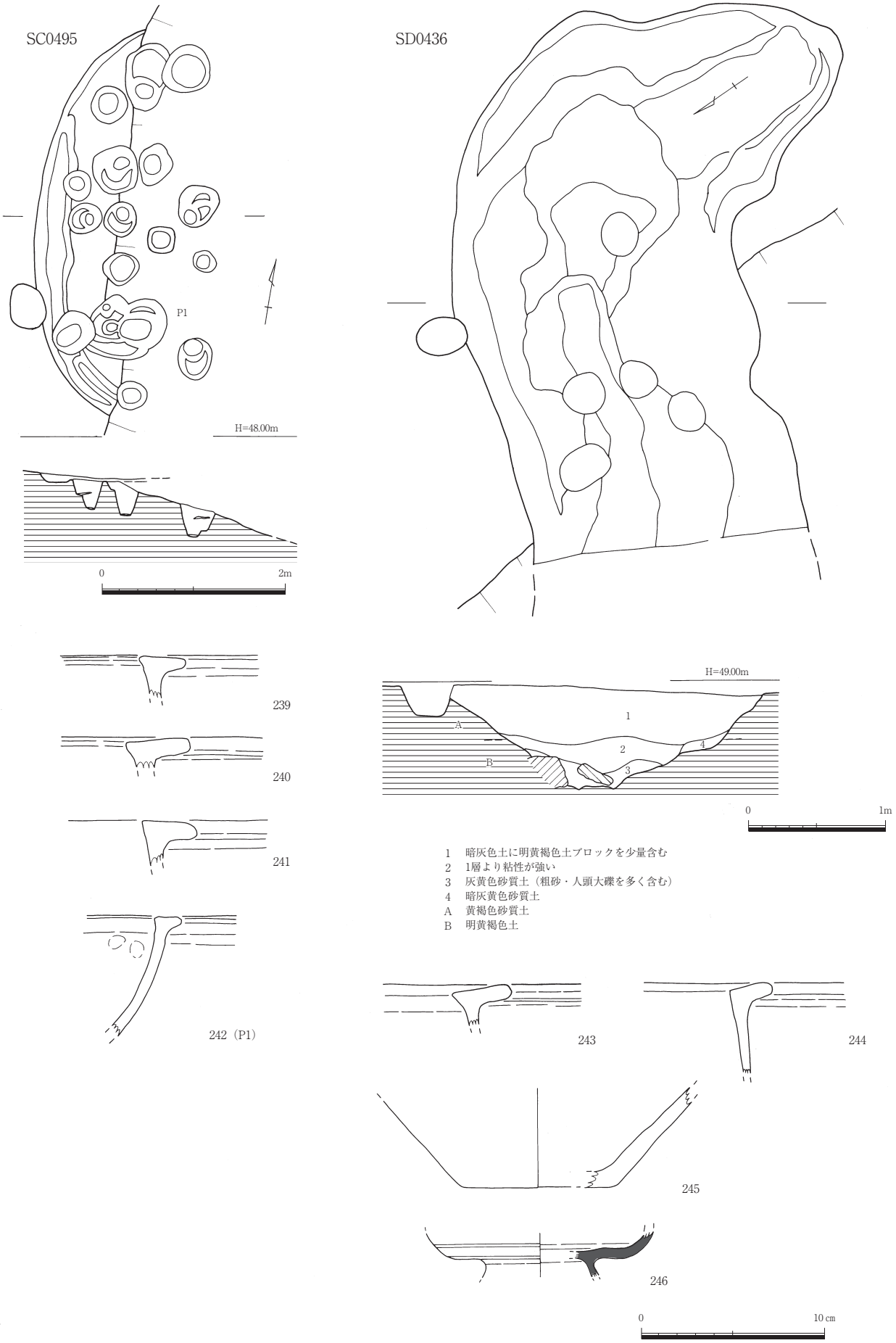
SC0485



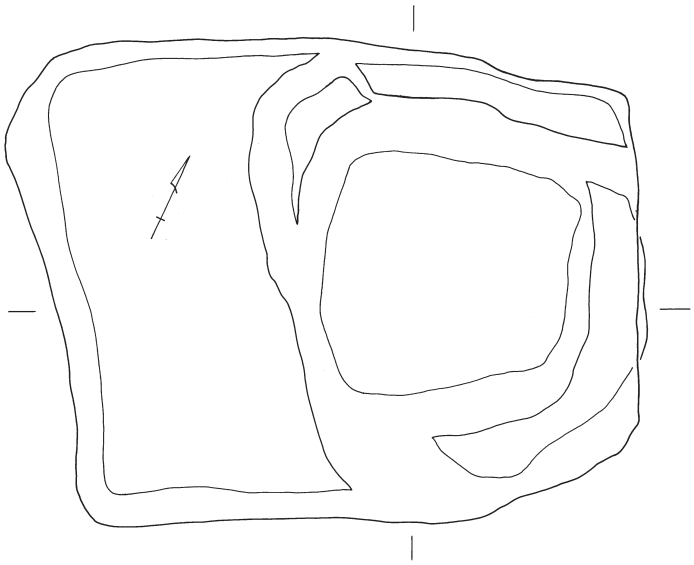
第52図　SC0484・0485及び出土遺物実測図（1／60、1／3）

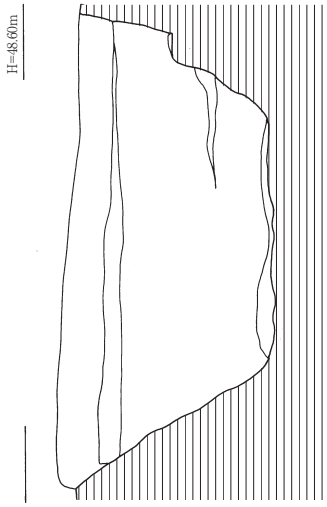


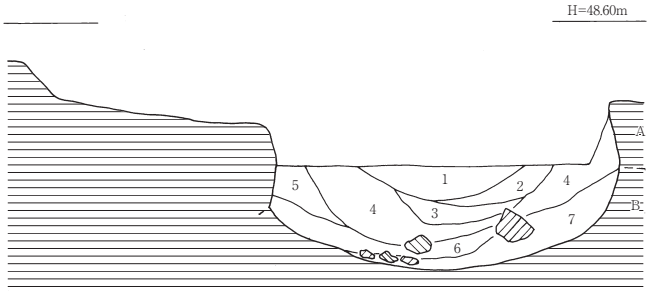
第53図　SC0486及び出土遺物実測図（1／60、237、238は1／2、231～235は1／3、236は1／6）



第54図　SC0495・SD0436及び出土遺物実測図（1／40、1／60、1／3）

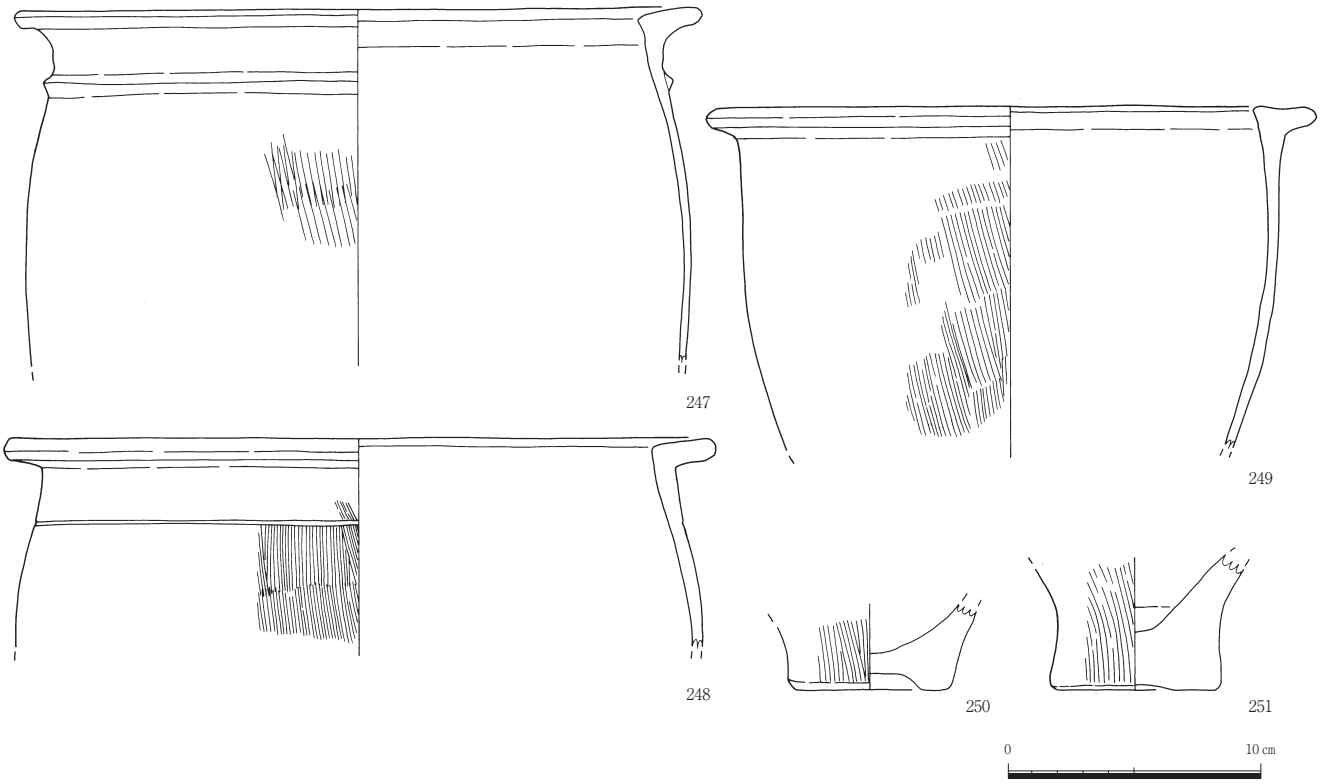




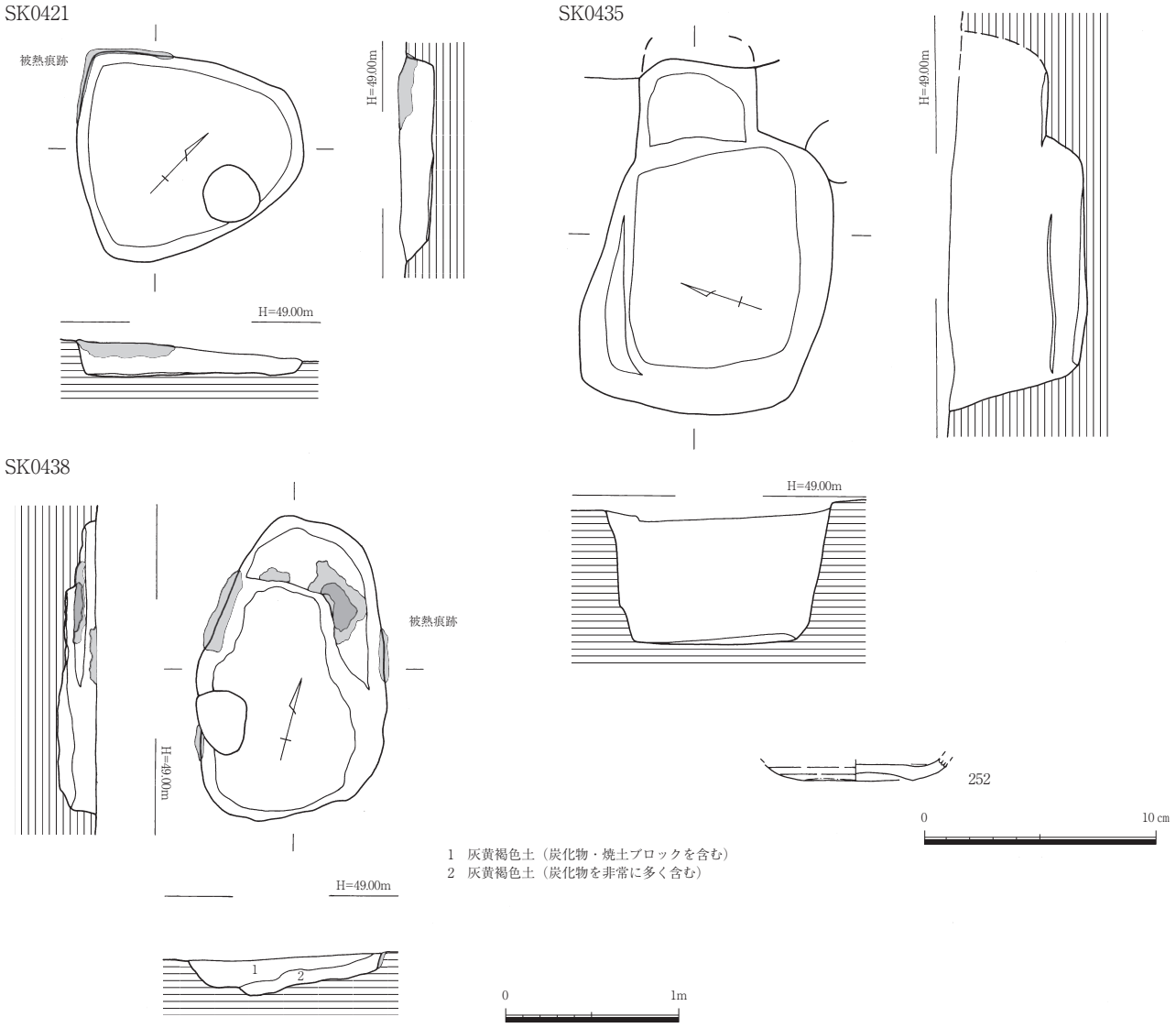


1　黒褐色土（焼土・炭化物を含む）
2　1層より炭化物を多く含む
3　明黄褐色土と黒褐色土混合（2：1）
4　にぶい黄褐色土に焼土ブロックを少量含む
5　黄褐色土
6　暗黄灰色土
7　黄褐色土
A　拳大～人頭大礫を多く含む
B　オリーブ色シルト

0　1m



第55図　SK0406及び出土遺物実測図（1／40、1／3）



第56図　SK0421・0435・0438及び出土遺物実測図（1／40、1／3）

（3）溝（SD）

SD0436（第54図、写真101～104）

調査区中央西端で検出する。調査区西側の谷部に向かって開析された自然流路で、周辺は削平が進んでおり遺構の大半が失われている。壁面・底面は凹凸が著しく、最下層には粗砂中に礫が多く含まれている。埋土上面から掘り込む周辺のピットはいずれも灰色土で、近世以降に位置付けられる。これらは削平以降に掘削されたものであろう。遺物は弥生土器・須恵器小破片が出土している。

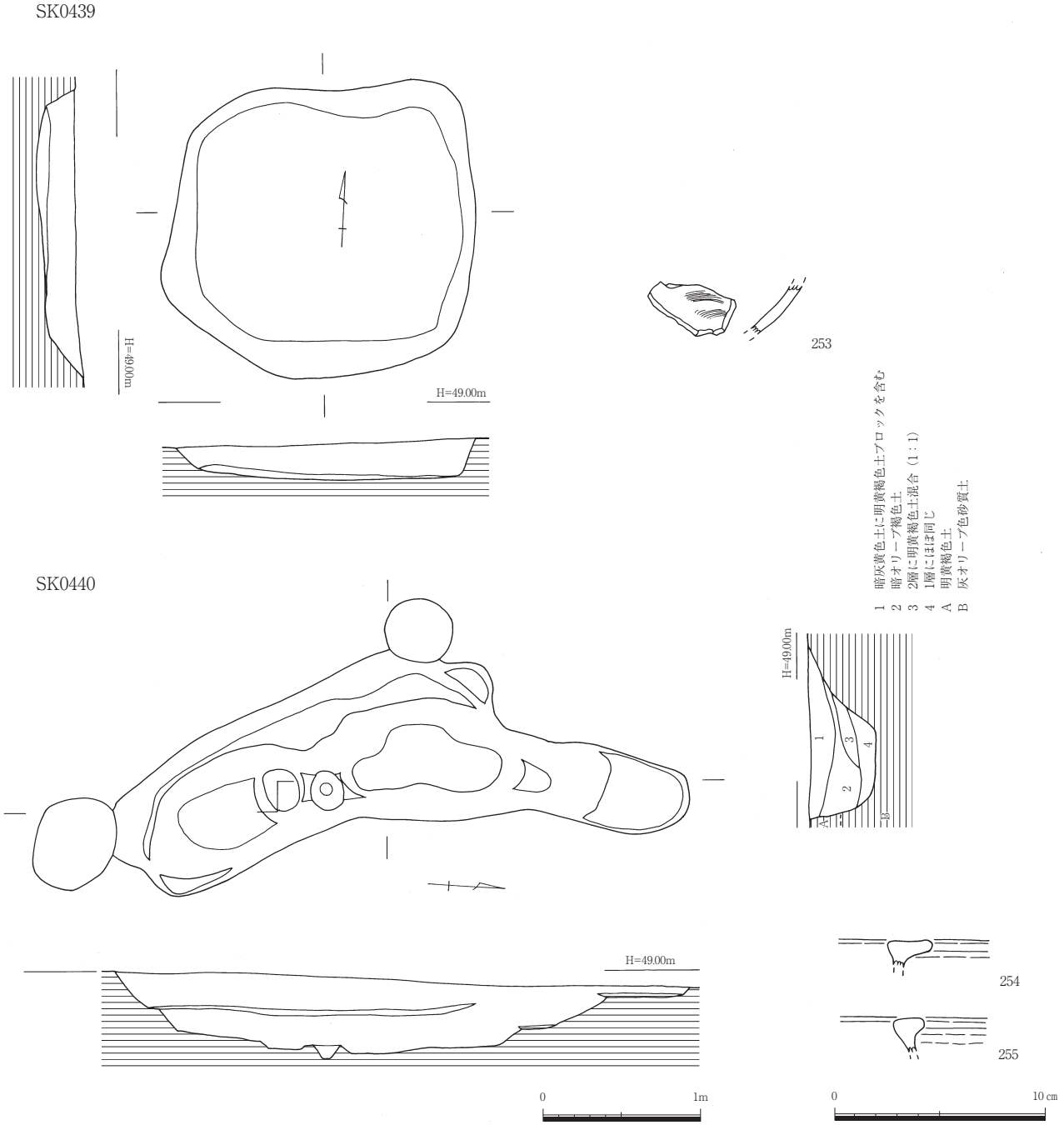
出土遺物（第54図243～246）　243～245は弥生土器破片である。246は須恵器高坏破片である。

（4）土坑（SK）

SK0406（第55図、写真105・106）

調査区北側で検出する。南北長3.35m、東西長2.54mの平面隅丸長方形である。上面埋土はにぶい黄褐色土で、東半にさらに掘り込みを有する。掘り込み部分1～4層には炭化物・焼土が含まれているが、壁面や底面に被熱痕跡は認められなかった。弥生時代中期前半～中頃に位置付けられる。

出土遺物（第55図）　247～249は断面逆L字形の口縁部で、247は口縁下に突帯を貼付し、248は沈



第57図　SK0439・0440及び出土遺物実測図（1／40、1／3）

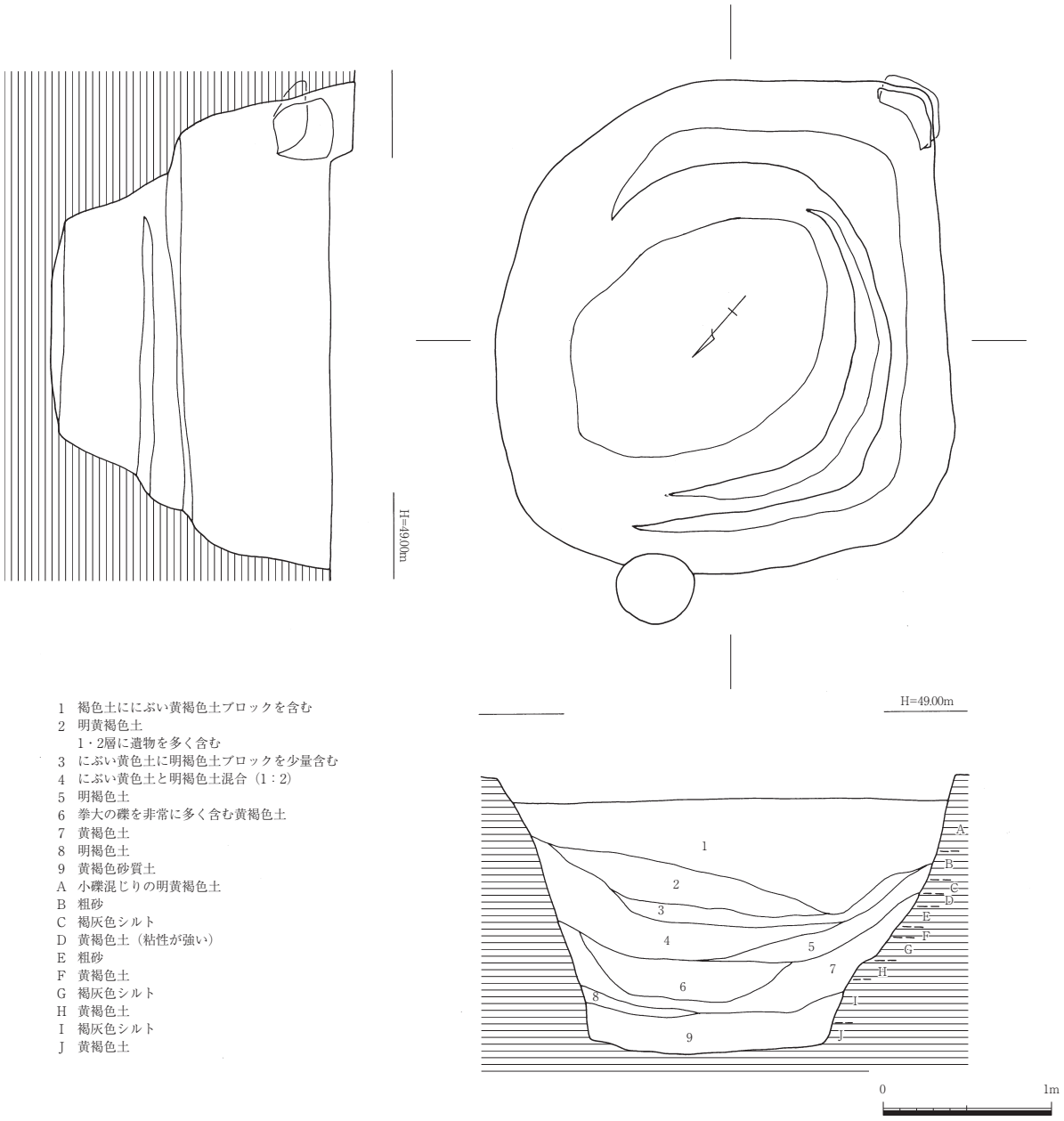
線を巡らせる。250・251は上げ底の底部である。

SK0421（第56図、写真107）

調査区北側で検出し、K0427を切る。長軸1.3m、短軸1.2mの平面隅丸三角形である。残存壁高は10cmほどで、壁は直立している。埋土は炭化物を多く含む暗褐色土で、北西壁面に被熱痕跡が残っている。出土遺物は弥生土器片および黒曜石剥片であるが、形態から、主として鍛冶遺構に伴って検出される古代以降の炭窯と考えられる。

SK0435（第56図、写真108・109）

調査区北側で検出し、K0422を切る。東側に張り出しを設け一段平坦面をつくり、底面はほぼ平



第58図　SK0444実測図（1／40）

坦である。埋土は1層（厚30cm）：灰黄褐色土、2層（厚15cm）：灰黄褐色土に明黄褐色土ブロックを多く含む、3層（厚30cm）：灰オリーブ色土に灰黄褐色土と明黄褐色土ブロックを含む、4層（厚2cm）：粘性のあるオリーブ褐色土である。遺物は少量で2層から白磁破片が出土している。周辺のピットから中世の遺物は出土しておらず、遺構の埋没時期を示すものと考えられる。

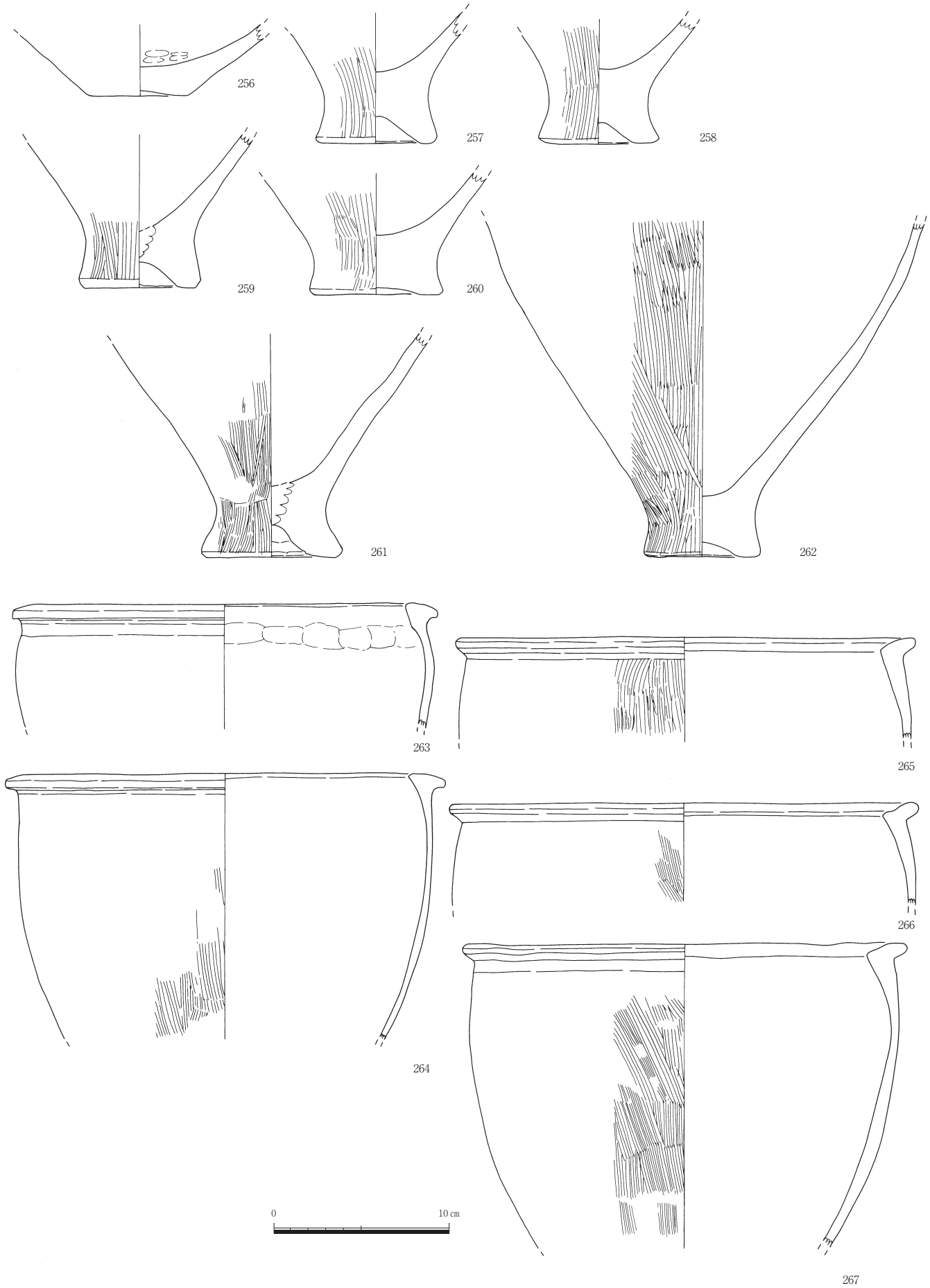
出土遺物（第56図）　252は白磁の皿で外底面が露胎となる。

SK0438（第56図、写真110・111）

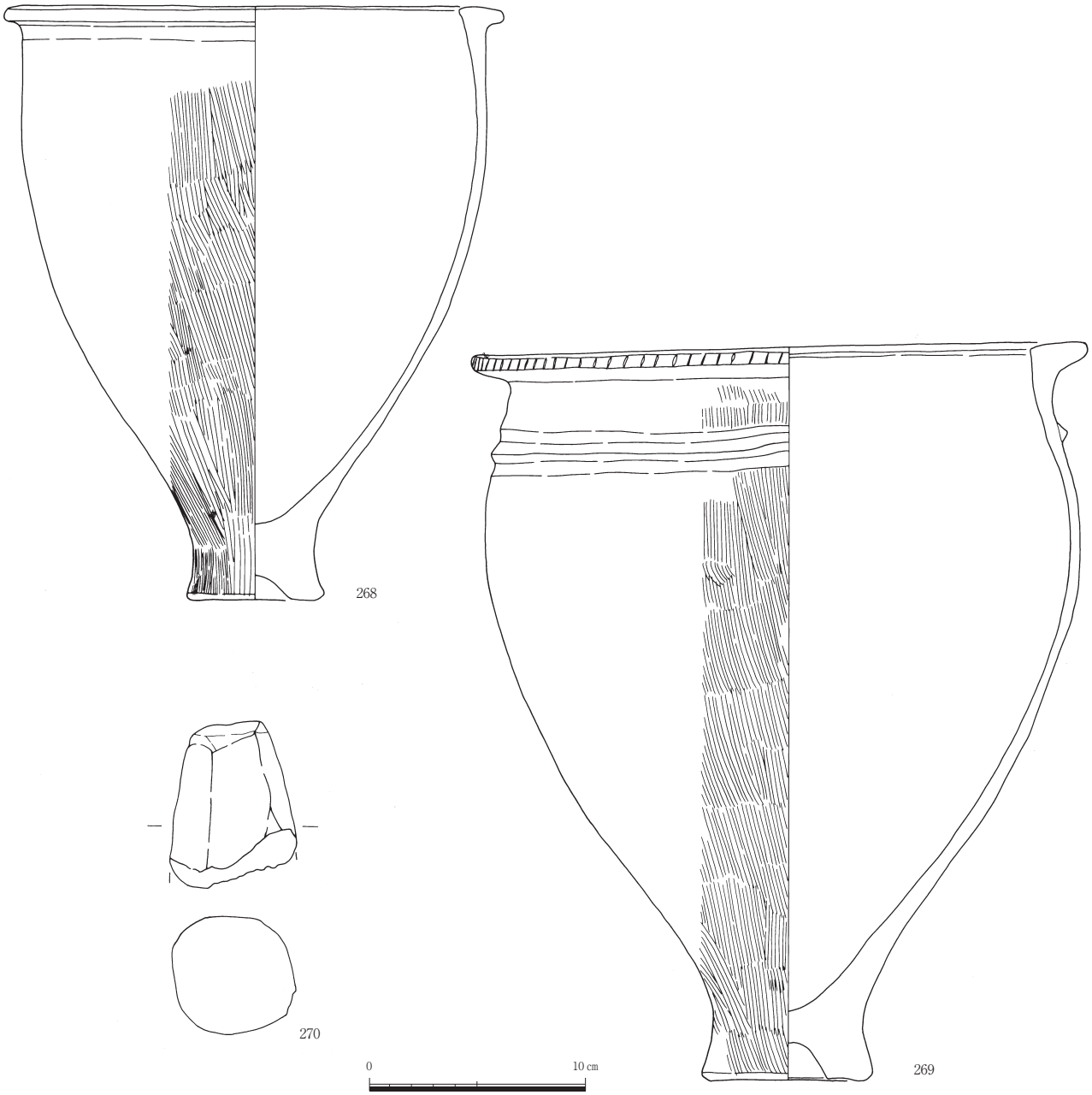
調査区北西側で検出する。長軸1.8m、短軸1.1mの平面歪な長方形である。東西両壁面に被熱痕跡が残るとともに、北側平坦面上には熱を受けた壁面が崩落し、部分的に還元面が認められる。底面は凹凸が目立ち、埋土には炭化物を多く含んでいる。出土遺物はないが、SK0421同様の炭窯である。

SK0439（第57図、写真112）

調査区北西側で検出する。平面略方形を呈し、床面はほぼ平坦である。埋土は灰オリーブ色土であ



第59図　SK0444出土遺物実測図1（1／3）



第60図　SK0444出土遺物実測図2（1／3）

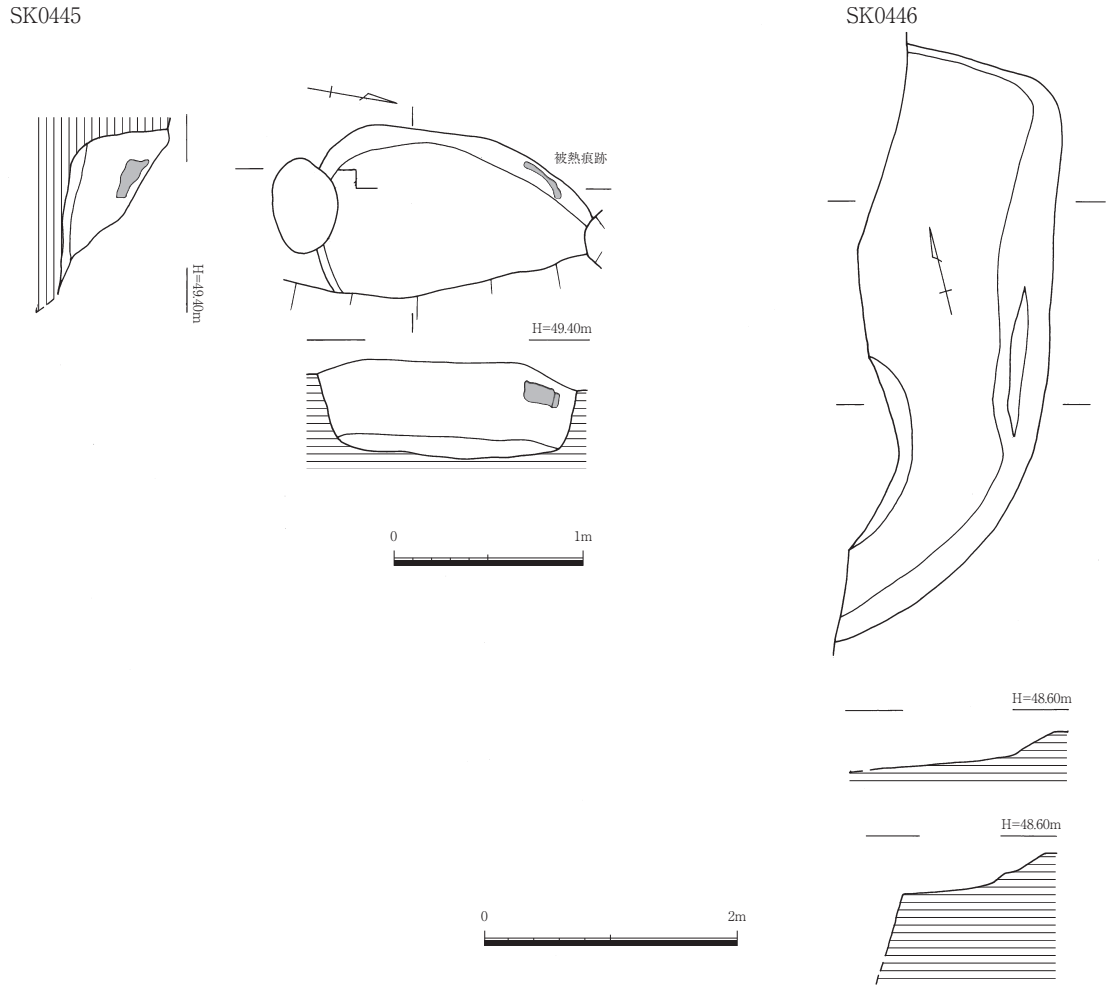
る。遺物は少量で弥生土器片とともに白磁破片が1点出土している。埋土土色等より中世以降の遺構と考えられるが、時期の詳細は不明である。

出土遺物（第57図253）　白磁碗の小破片である。内面に櫛描き文を施す。

SK0440（第57図、写真113・114）

調査区北側で検出する。平面弓状に湾曲する溝状の土坑である。壁面は階段状に掘り下げを行い中央が最も深くなっている。位置関係よりK0443に伴う区画溝もしくは墓域西側を限る溝状の性格を想定した。出土遺物は少量で弥生土器および黒曜石剥片が出土している。

出土遺物（第57図254・255）　254は断面逆L字形、255は断面三角形を呈する甕口縁部である。いずれも上面はほぼ水平となる。



第61図　SK0445・0446実測図（1／40、1／60）

SK0444（第58図、写真115・116）

調査区北側で検出する。SK0444→SC0426の先後関係となる。一辺2.7m×2.9mの平面略方形を呈し、検出面からの深さは1.8m程である。壁面は斜めに立ち上がり、東・南・西壁際には幅の狭い平坦面を有している。また南側コーナー壁面にはステップ状の掘り込みを有する。遺物は1・2層から多くが出土し、3層以下からはほとんど出土していない。性格については不明瞭であるが、貯蔵穴的な施設であろうか。弥生時代中期初頭～前半に位置付けられる。

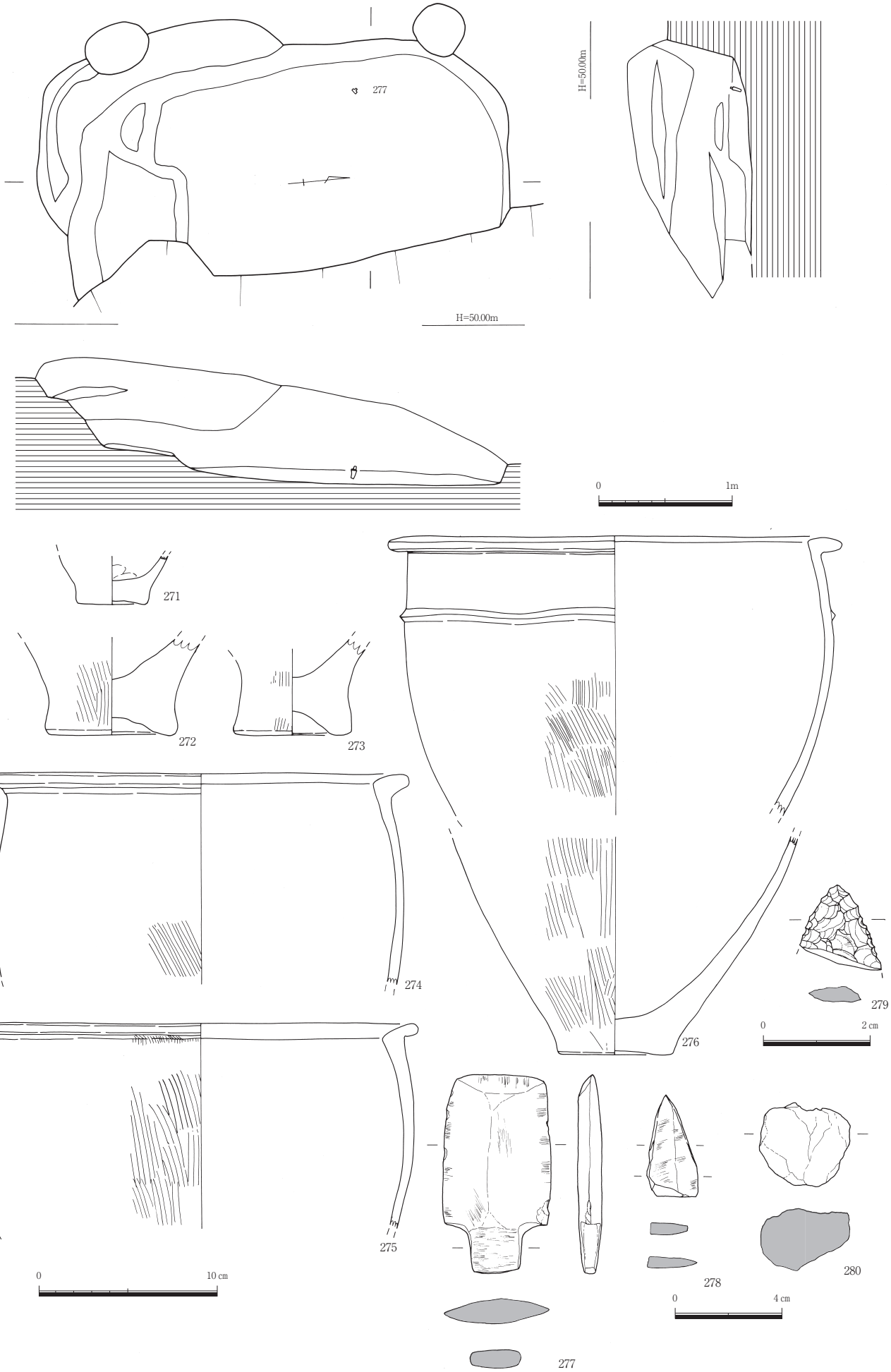
出土遺物（第59・60図、写真323）　256は壺底部。257～262は上げ底の甕底部である。263～267は断面三角形（263・264）、内傾する逆L字形（265～267）を呈する口縁部破片である。268は断面三角形の口縁部を呈し、上げ底の底部は裾が張り出す。269は口縁部逆L字形を呈し、端部には刻みを行う。口縁下には断面三角形の突帯を貼付する。胴部上位に膨らみを有し、最大径は口縁部径とほぼ同じである。底部は上げ底で裾は張り出す。270は中実の土製支脚である。

SK0445（第61図、写真117）

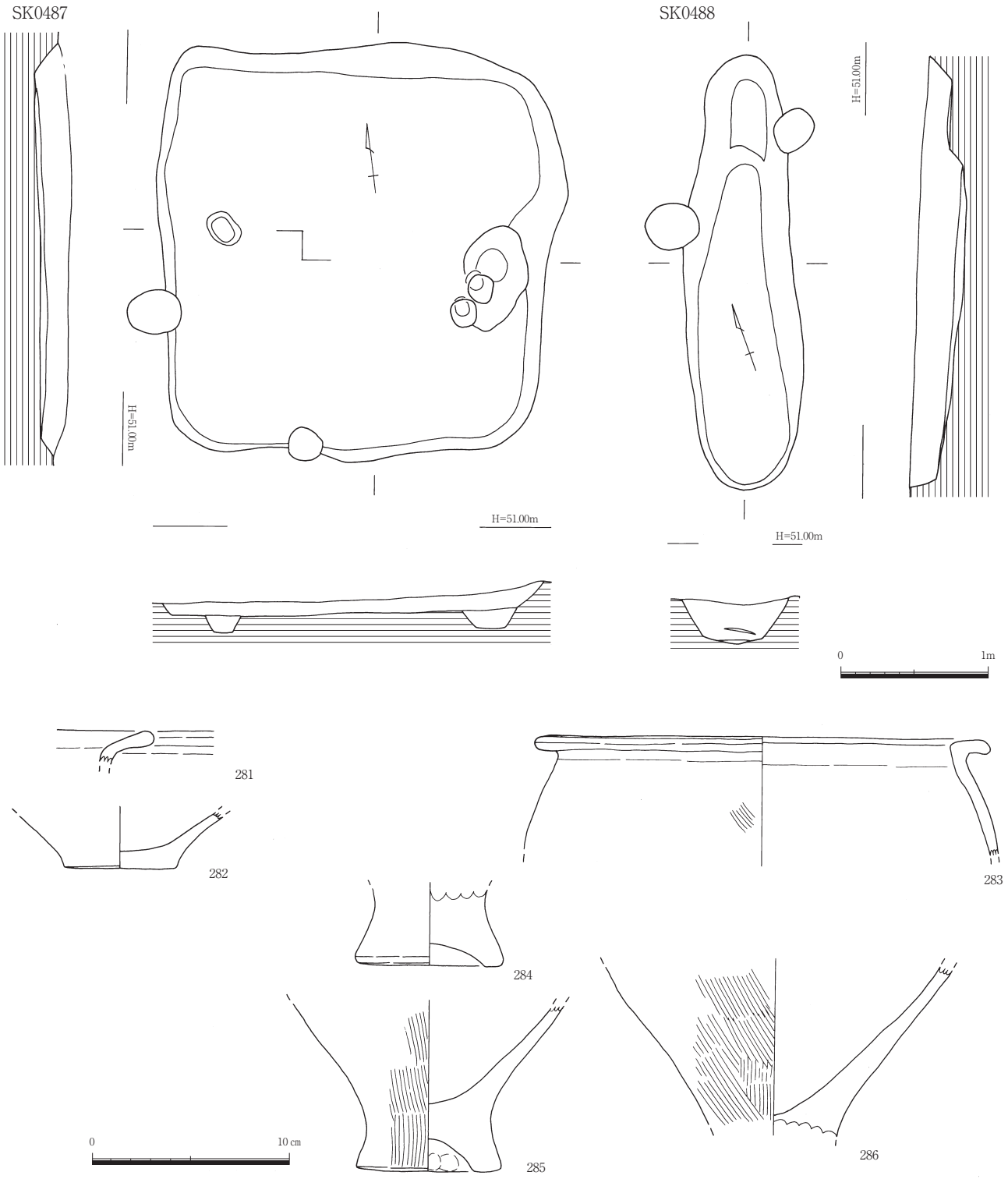
調査区南側の斜面上で検出する。埋土は暗灰黄色土で底面より3cmほどは炭層が堆積している。西側壁面の一部に地山の被熱痕跡が残り内面は還元黄色化している。削平・攪乱で本来の形状を失っているが、SK0421のように本来は平面三角形の炭窯であろう。出土遺物はない。

SK0446（第61図、写真118・119）

調査区北西側で検出する。埋土はにぶい赤褐色土で、平坦面の西側に円形の掘り込みを有する。調



第62図　SK0454及び出土遺物実測図（1／40、279は1／1、277・278・280は1／2、その他は1／3）



第63図　SK0487・0488及び出土遺物実測図（1／40、1／3）

査区の中で、同様の埋土の遺構はなく、また埋土が表土直下の盛土に類似しているため、新しい時期の掘り込みである可能性が高い。出土遺物は小破片のみで、近世以降の陶磁器類は出土していない。

SK0454（第62図、写真120・121）

調査区南側で検出する。南側甕棺墓群の北側に位置し、斜面により東側を削平されている。南北長3.6m、東西長1.7m以上で、南壁沿いに平坦面を有する。南側は階段状に掘り下げられ、底面はほぼ

平坦である。埋土は暗灰黄色土に明黄褐色土のブロックを含む。床面直上で切先の折損した石剣が先端を床面に向けた状態で出土した。当初甕棺もしくは木棺墓等の墓坑として掘り下げたが、埋葬主体は確認できなかった。弥生時代中期前半に位置付けられる。

出土遺物（第62図、写真355・356）　271～273は上げ底の底部である。274～276は甕である。口縁部は上面が内傾する逆L字形である。胴部最大径は上位に有し、276の底部はやや薄手の上げ底となる。277は石剣の下半部破片で、折損部を研磨し片刃に仕上げる。278は石剣の再利用を意図して研磨したものであろうか。279は黒曜石製石鏃の破片品である。280は混入品の椀形鍛錬鍛冶滓である。

SK0487（第63図、写真122）

調査区南西側で検出し、SC0486の南側に隣接する。一辺2.8m平面方形を呈し、底面は平坦である。埋土は黒褐色土で周辺の竪穴住居跡に類似する。弥生時代中期後半に位置付けられる。

出土遺物（第63図281・282）　281は内傾する逆L字形の口縁部破片。282は平底の底部である。

SK0488（第63図、写真98・123）

調査区南西側で検出する溝状土坑である。埋土は黒褐色土である。SC0486に主軸を揃えて並び埋土も同様であるため関連も考えられるが、弥生時代中期前半頃の遺物が出土している。

出土遺物（第63図283～286）　283は甕の口縁部である。口縁部は内傾し、胴部上位に膨らみを有する。284～286は上げ底の底部である。

SK0489（第64図）

調査区南側で検出する。埋土は黄褐色土で、当初は埋葬遺構と考え掘り下げを行った。掘り方は階段状となり東側を平面方形に掘り下げている。出土遺物からは弥生時代中期初頭～前半と考えられる。

出土遺物（第64図287～290、写真355）　287は断面三角形の口縁部破片である。288・289は上げ底の底部である。290は磨製石鏃である。

SK0490（第64図、写真124・125）

調査区南側で検出する。平面はやや不整であるが、一辺2.7～2.9mの方形を呈し、検出面からの深さは1mである。機能・用途は不明である。出土遺物は小破片のみで、丹塗り土器も出土していることから弥生時代中期後半～末に位置付けられる。

出土遺物（第64図291～293）　291は断面三角形、292は逆L字形の甕口縁部である。293は混入品の鍛冶滓である。

SK0497（第65図、写真126・274・275）

調査区南側で検出する。K0496・0470を埋葬する大型土坑の一部として掘り下げを行った。大型土坑の北側に位置するが、関連の有無については不明である。東西長1.8mの平面長円形を呈し、北～東の壁はわずかにオーバーハングする。埋土は灰黄褐色土ににぶい黄色土ブロックを少量含み、南側はK0496によって撹乱されている。遺物は小破片のみで弥生時代中期初頭～前半に位置付けられる。

出土遺物（第65図294・295）　294は上げ底の甕底部、295は外面横ミガキを行う壺の底部である。

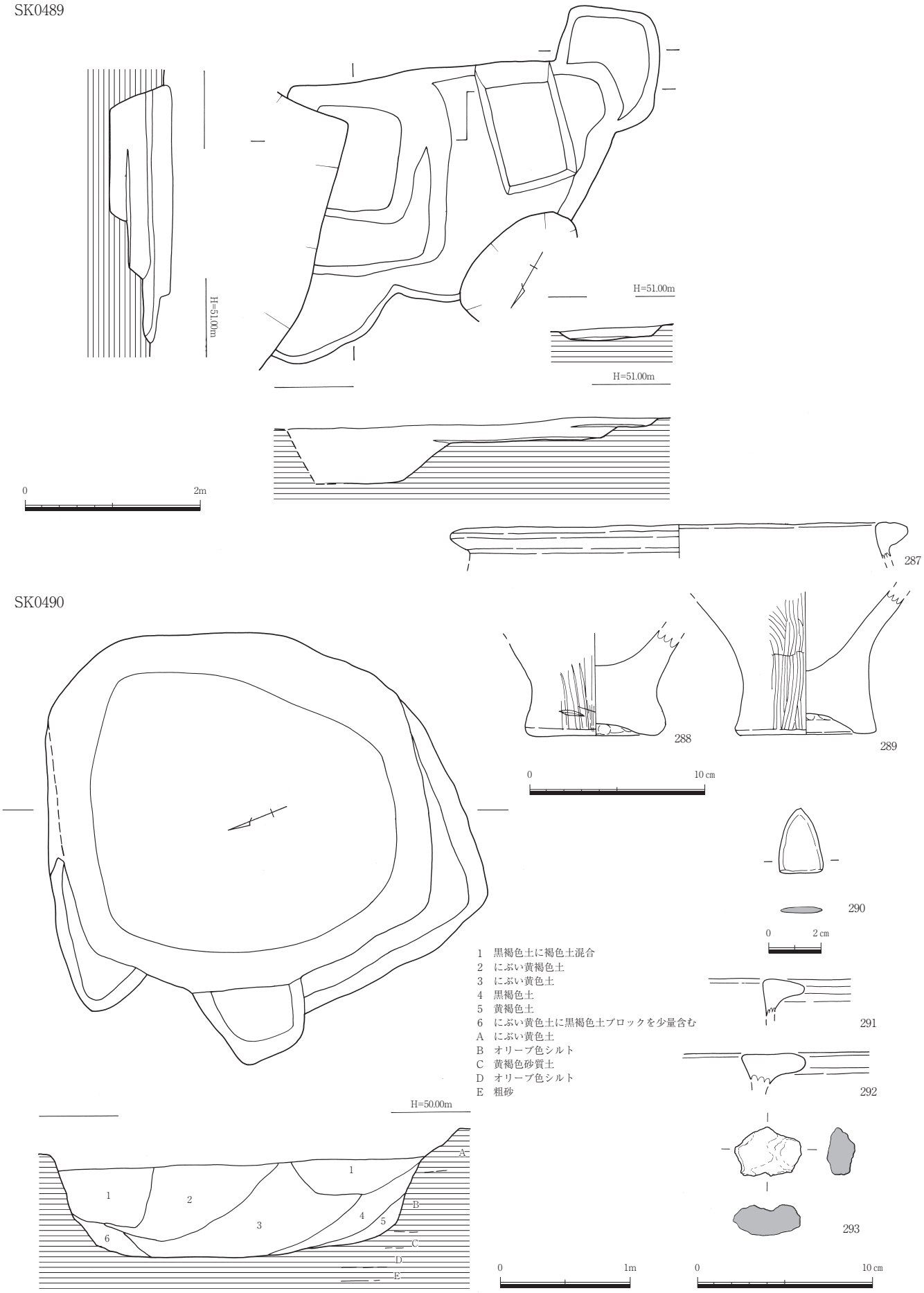
SK4168（第66図）

調査区北側で検出する。長方形土坑の南側に張り出しを有する。SC0426→SK4168の先後関係となる。埋土は黒褐色土で、床面は平坦となる。弥生時代中期後半～末に位置付けられる。

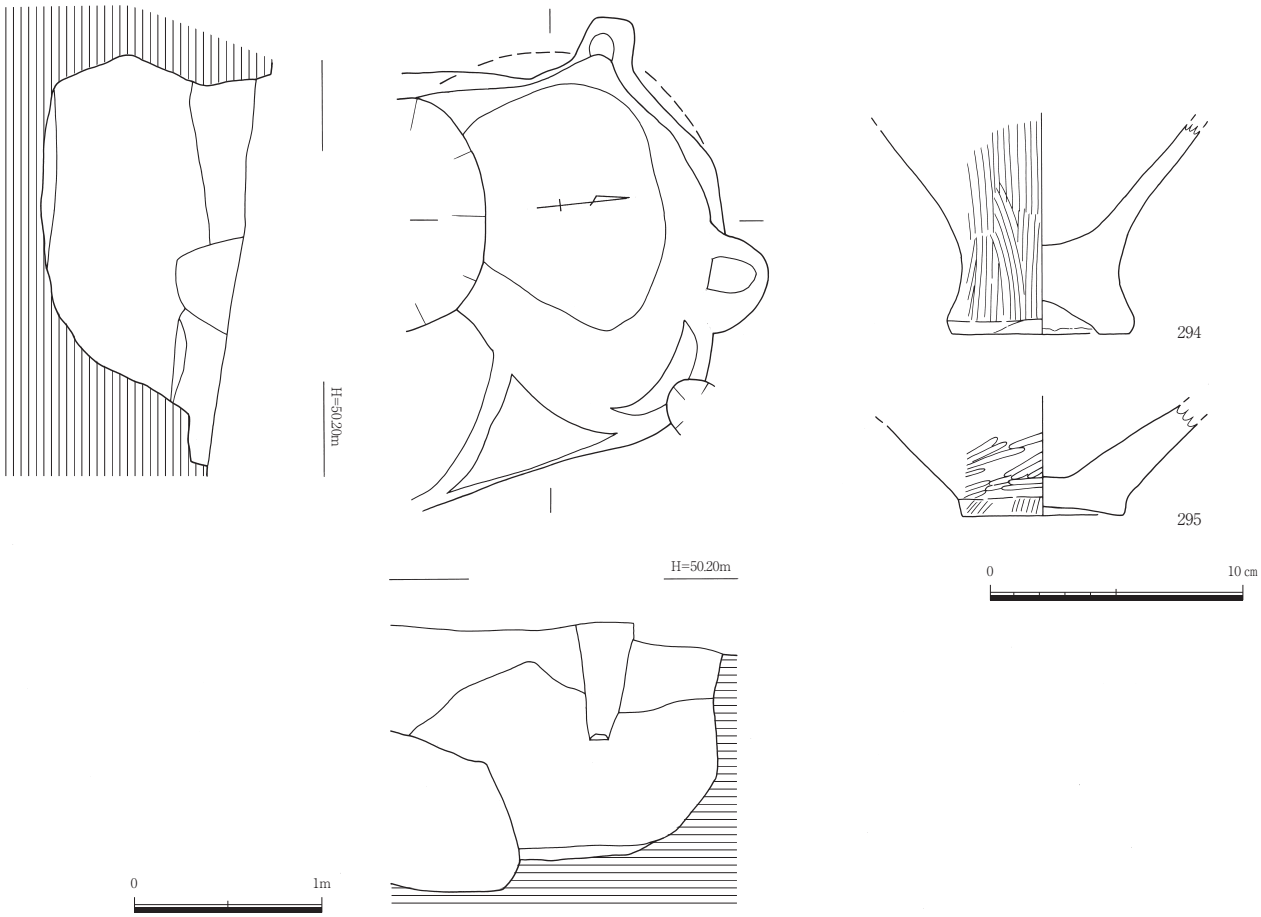
出土遺物（第66図296）　296はく字形に屈曲する甕の口縁部である。

SK4170（第66図）

調査区北側で検出する。平面隅丸長方形を呈し、長軸1.8m、短軸1mである。床面は平坦で壁は斜めに立ち上がる。弥生時代中期後半～末に位置付けられる。



第64図　SK0489・0490及び出土遺物実測図（1／40、1／60、290は1／2、その他は1／3）



第65図　SK0497及び出土遺物実測図1（1／40、1／3）

出土遺物（第66図297）　297は丹塗りの甕形土器の胴部である。内外面に赤色顔料が認められる。

SK4912（第66図、写真127・128）

調査区南側で検出する。長軸1.5m、短軸1.05mで平面長円形である。埋土に炭化物を多く含むが、壁面には被熱痕跡は残っていない。炭窯の可能性が考えられる。出土遺物はなく時期は不詳である。

SK4913（第66図）

調査区南側で検出する。SC0453の西側に隣接し、弧状となる土坑である。埋土は黒褐色土で、出土遺物は弥生土器小破片、石斧破損品が出土している。

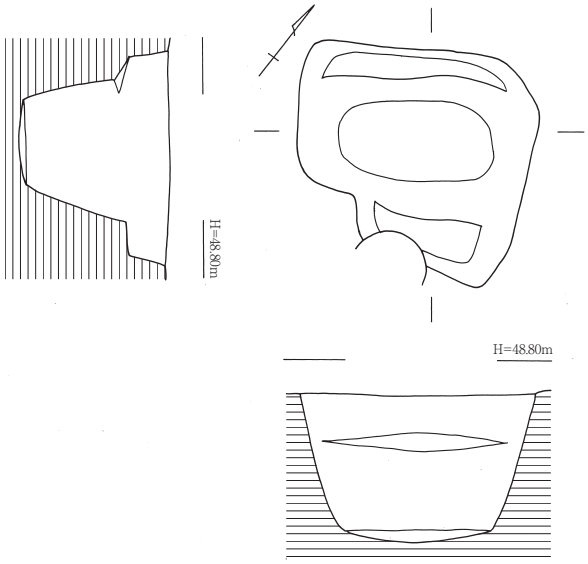
出土遺物（第66図298）　玄武岩製太型石斧の刃部を長軸方向に打割している。再利用を意図したものであろうか。

（5）土坑墓・木棺墓（SR）

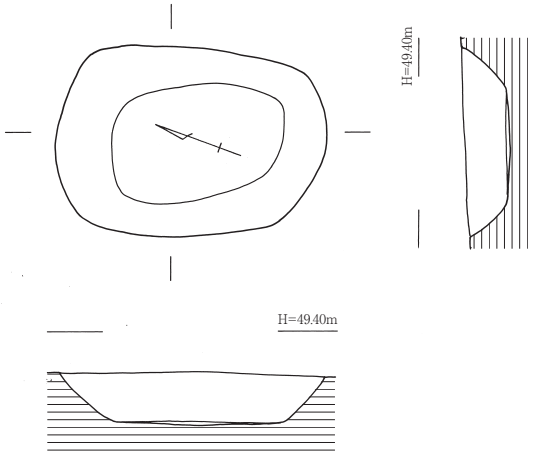
台地上及び斜面上において土坑・木棺墓8基、甕棺墓78基による埋葬遺構群を検出した。埋葬遺構群は台地尾根線に沿って配されるとともに、中央の空閑地をはさんで北群と南群に分けることができる。北群については削平により失われたものもあると考えられるが、現状で残存している埋葬遺構についてはほぼ完掘している。南群についてはさらに南側に墓域を延ばしている。

土坑墓・木棺墓については棺材が残存するものはなく、土層観察・粘土痕跡で木棺部分が想定できるものについては木棺墓とした。

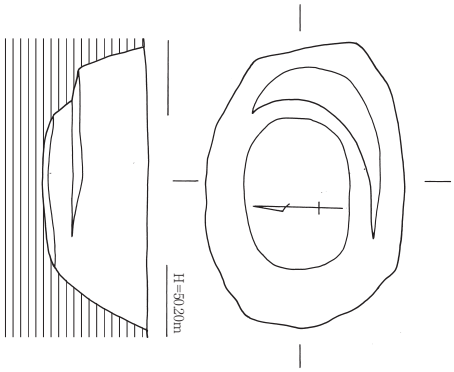
SK4168

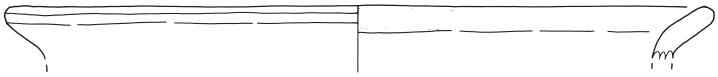


SK4170

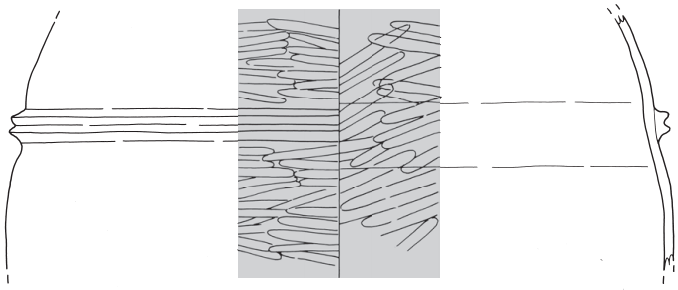


SK4912



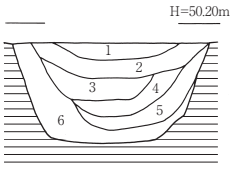


296

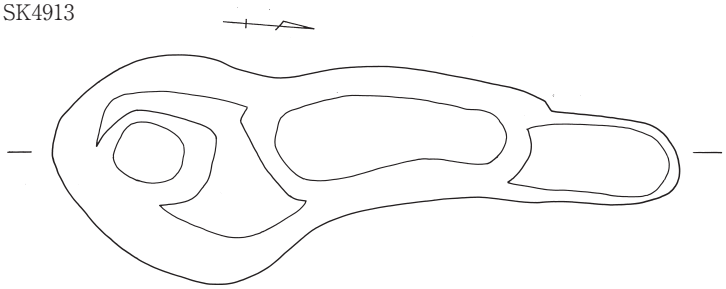


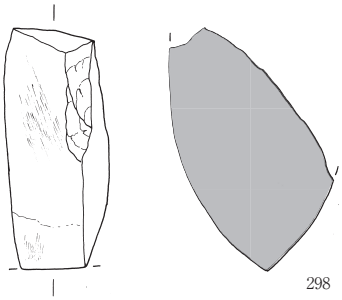
297

1　黄褐色土
　（炭化物少量含む）
2　黒褐色土
　（炭化物を多く含む）
3　2層より炭化物少ない
4　オリーブ褐色土
5　炭層
6　暗灰黄色土

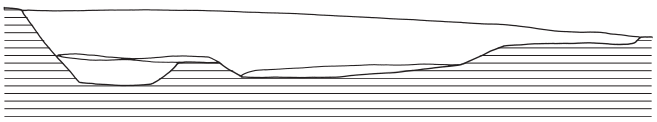


SK4913





298



第66図　SK4168・4170・4912・4913及び出土遺物実測図（1／40、1／2、1／3）